

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語科教育法演習 I	後期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野口 正樹	3年	noguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 英語科教育法 I・II の学習内容を踏まえ、個人模擬授業を行います。学習指導案を各自で作成し、I では授業成立度（成否）に焦点を当てます。模擬授業後は、全体討論の時間を取り、各授業の評価・検討を行います。以上の実践を通して、中高における英語授業を計画・実施・評価する技能を磨きます。	メッセージ 学んだ原理を踏襲しながら、つながる授業を目指そう。
	到達目標 interaction を意識しながら、授業目標を達成できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
	テキスト・参考文献・資料など 別途連絡します。 別途連絡します。
	学びの手立て 先輩の teaching plans や demo classes を参考にする。
	評価 ① 授業出席度（原則皆勤） ② 授業参加度（質疑応答） ③ demonstration class ④ 英語教育に対する姿勢（協調性・社会性を含む） ⑤ 学内外での研究会に2度以上参加し reaction papers 作成 ⑥ 9月教育実習研究授業を3度以上参観し、reaction papers 作成 ⑦ book reports ⑧ teaching plans

学びの継続	次のステージ・関連科目 英語科教育法演習 II につなげる。
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語科教育法演習Ⅱ	前期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	4年	satoshi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 教育実習前の最終点検を行う。	メッセージ 教育実習に臨むにあたり、意欲、身なり・言動、専門的知識・技能について最終自己点検を。
	到達目標 (1) 英文で指導案が書ける (2) 英語で授業ができる (3) 授業のねらい、構成、内容について英語で説明ができる (4) 英検準1級レベル以上の英語力をつける	

学びの準備	ねらい 教育実習前の最終点検を行う。	メッセージ 教育実習に臨むにあたり、意欲、身なり・言動、専門的知識・技能について最終自己点検を。
	到達目標 (1) 英文で指導案が書ける (2) 英語で授業ができる (3) 授業のねらい、構成、内容について英語で説明ができる (4) 英検準1級レベル以上の英語力をつける	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	Workshop 1
	2	English Proficiency Test 1
	3	Demonstrations For June-Teaching-Practicum
	4	Demonstrations For June-Teaching-Practicum
	5	English Proficiency Test 2
	6	Workshop 2
	7	June-Teaching-Practicum & Class observation
	8	English Proficiency Test 3
	9	Preparation for Teachers' Examination
	10	Preparation for Teachers' Examination
	11	Workshop 3
	12	Demonstrations For September-Teaching-Practicum
	13	Demonstrations For September-Teaching-Practicum
	14	Demonstrations For September-Teaching-Practicum
	15	Demonstrations For September-Teaching-Practicum
16	Demonstrations For September-Teaching-Practicum	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で紹介します。
-------	-------------------------------

学びの実践	学びの手立て (1) ワークショップは通常授業、模擬授業は集中講義形式で行います（日程はクラスで調整） (2) 英語力、英語指導力の強化を図ってください (3) 教員試験対策を計画的に行ってください
-------	--

学びの実践	評価 以下を総合的に評価します： (1) 英語力テスト (2) 模擬授業（授業＋説明＋質疑応答）・全体討議 (3) 提出物（指導案、ブックリポート2つ、模擬授業分析、アンケート）
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育実習
-------	---------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語科教育法演習Ⅱ	前期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野口 正樹	4年	noguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 英語科教育法演習Ⅰの実践内容を踏まえ、個人模擬授業に再度取り組みます。学習指導案を各自で作成し、Ⅱでは授業深化度（向上的変容）に焦点を当てます。模擬授業後は、全体討論の時間を取り、各授業の評価・検討を行います。以上の実践を通して、中高における英語授業を計画・実施・評価する技能を磨きます。	メッセージ 英語教育領域の総仕上げの科目です。原理・原則を基本に、自分の言語観・教育観・生徒観を反映させよう。
	到達目標 授業目標の達成のみならず、生徒の学びを促せる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
	テキスト・参考文献・資料など 別途連絡します。 別途連絡します。
	学びの手立て 英教法の仲間との協働学習が肝です。
	評価 ① 授業出席度（原則皆勤） ② 授業参加度（質疑応答） ③ demonstration class ④ 英語教育に対する姿勢（協調性・社会性を含む） ⑤ 学内外での研究会に2度以上参加し、reaction papers 作成 ⑥ 教育実習研究授業を参観し、reaction papers 作成 ⑦ book reports ⑧ teaching plans

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育実習の授業実践につなげる。
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語科教育法 I	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	2年	satoshi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	(1) 学校教育全般の現状や課題を学ぶ (2) 英語教育に関する理論、指導方法を学ぶ (3) 英語で指導できる運用能力の育成を図る	自主学習力、協働学習力を身につけよう。(グループ発表は登録人数により変動があります。)

到達目標
(1) 英語教育に関する基礎的な知識・技能を習得する (2) 英検準1級レベルの英語力を獲得する (3) 英語教師としての素養を身につける

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation、先輩講話	
	2	Group Presentation 1	
	3	Group Presentation 2	
	4	Group Presentation 3	
	5	Group Presentation 4	
	6	Group Presentation 5	
	7	Group Presentation 6	
	8	Review	
	9	Mid-term Exam	
	10	Group Presentation 7	
	11	Group Presentation 8	
	12	Group Presentation 9	
	13	Group Presentation 10	
	14	Group Presentation 11	
15	Group Presentation 12, Review		
16	Final Exam		

テキスト・参考文献・資料など 授業の中で連絡します。

学びの手立て (1) 学級役員(級長、副級長、班長)を決め、役員を中心に学級を運営する (2) 授業内外でクラスメート及び班員と協力しながら課題解決に臨む (3) 授業は討論中心になるため、積極的な発言が望まれる (4) 事前に教科書を熟読して授業に臨む (5) Group Presentationは教科書の章を担当し、授業形式で進める
--

評価 (1) 積極性(授業内外活動参加、発言、発表等) 30% (2) 定期テスト(2回) 50% (3) 提出物(ブックレポート、ポートフォリオ) 20%

次のステージ・関連科目 英語科教育法IIでは、英語科教育法Iで学習した内容を実践に移していきます。
--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語科教育法 I	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野口 正樹	2年	noguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 前期は、英語教育の在り方に関する理論的な研究成果を概観し、英語教師としての教育観並びに指導観を確立します。そのために、次の2点に注意を払います。まず、英語のコミュニケーション能力を高めることにより、英語を通して英語を教える能力を培います。次に、技能向上のみに偏ることなく、現在の学校教育に求められている「心の教育」に繋がる視点を養成します。	メッセージ 英語を教える原理を学びます。まずは、専門用語を整理しよう。
	到達目標 英語科教育の概要を把握できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など 別途連絡します。 別途連絡します。
	学びの手立て 関連図書・学外 seminars・Internet・図書館などあらゆる機会を利用し、講義を補足する。
	評価 ①授業出席度 (原則皆勤) ② 授業貢献度 (質疑応答・班内討議・全体討論) ③ 課題テストおよび中間・期末試験 ④ 英語教育に対する姿勢 (協調性・社会性を含む) ⑤ 学内外の研究会へ少なくとも2度以上参加し reaction papers 作成 ⑥ 参考文献読書量 ⑦ book reports

学びの継続	次のステージ・関連科目 英語教育教材研究と関連づける。英語科教育法Ⅱとつなげる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語科教育法Ⅱ	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野口 正樹	3年	noguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 前期履修済みの「英語科教育法Ⅰ」で学んだ教育観及び指導観を踏まえ、後期は実際の教室での指導に役立つ知識や技能の養成を目指します。そこで、micro-teaching を試みます。これを通して、教材分析力・教材作成力・教案構成力を培います。また、micro-teaching を核に展開しながら、前期で cover していない項目や更に深く掘り下げる内容を取り上げ、理論と実践の橋渡しを試みます。	メッセージ 専門用語の理解を更に進め、目指す授業を具体化しよう。
	到達目標 学んだ原理を生かして teaching plan (略案) が書ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など 別途連絡します。 別途連絡します。
	学びの手立て 関連書籍の読みを継続し、原理と実践を結ぼう。
	評価 ① 授業出席度 (原則皆勤) ② 授業貢献度 (mini-lesson / 質疑応答) ③ 課題テストおよび中間・期末試験 ④ 英語教育に対する姿勢 (協調性・社会性を含む) ⑤ 学内外の研究会へ2度以上参加し reaction papers 作成 ⑥ 参考文献読書量 ⑦ 6月研究授業を3度以上参観し reaction papers 作成 ⑧ book reports

学びの継続	次のステージ・関連科目 英語科教育法演習Ⅰにつなげる。
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	学校カウンセリング	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	3年	オフィス・アワー 水曜4校時 katamoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目では、教育心理学の基礎、進路指導・生活指導のより実践的な知識を踏まえ、臨床心理学の基礎知識を確認しながら、カウンセリングの理論と技法に基づいてグループワーク、ロールプレイ等と交え学校現場でのカウンセリング的アプローチについて実践的に学んでいきます。</p>	<p>そろそろ模擬授業等で忙しく「カウンセラーになるわけでもないのにこんな科目不要では」と思うかも知れません。しかし、本講義で学ぶカウンセリングの理論や技法を用いると通常の指導で行き詰まった時の対応のヒントが見えるかも知れません。「こんなとき、カウンセリングの発想を活用するとこんな対応もできる」と実際の場面への対応の幅を広げて講義室のドアを出ませんか？</p>
到達目標	<p>①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。 ②大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習がコンスタントにできる。 ④「教育心理学」「進路指導・生活指導」で学んだ理論が定着していることが確認できる。 ⑤④を踏まえて、カウンセリングの理論や技法に基づいて学校現場の諸問題への対応の選択肢が増やせるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・登録調整	シラバスを読んでくる
	2	学校カウンセリングとは	講義中に指示の課題①
	3	異性の理解とライフサイクル理論にもとづいてキャリア・子育て・生徒指導を考察する	講義中に指示の課題②
	4	臨床心理学の基礎知識① 無意識についての理論～フロイトとユング	講義中に指示の課題③
	5	発達理論～フロイトを中心に	講義中に指示の課題④
	6	カウンセリングの実際①	講義中に指示の課題⑤
	7	学校におけるカウンセリングの注意点 カウンセリングと教師の役割 ～ロジャーズの理論	講義中に指示の課題⑥
	8	心理テストの注意点	講義中に指示の課題⑦
	9	問題行動の理解① 不登校への対応（思春期のカウンセリングと心理療法の各種技法）	講義中に指示の課題⑧
	10	問題行動の理解② 非行への対応（過ちを犯した生地に反省を促し、行動の改善を図る）	講義中に指示の課題⑨
	11	学校現場での緊急事態への対応の実際（ワークショップ）	講義中に指示の課題⑩
	12	こころの病の理解と自殺予防	講義中に指示の課題⑪
	13	教師のメンタルヘルス	講義中に指示の課題⑫
	14	保護者・地域・他の専門機関との連携～クレームへの対応をめぐる～	講義中に指示の課題⑬
15	まとめ・振り返り	講義中に指示の課題⑭	
16	期末試験		

テキスト・参考文献・資料など	<p>教科書は使用しない。適宜資料を配付する。 菅佐和子他「臨床心理学の世界」有斐閣 桑原知子 「教室で生かすカウンセリングマインド」日本評論社 氏原寛「実践から知る学校カウンセリングー教師カウンセラーのためにー」培風館 高橋祥友「自殺予防」岩波新書 藤掛明「非行カウンセリング入門」金剛出版 岩宮恵子「フツの子の思春期」岩波書店 他</p>
----------------	---

学びの手立て	<p>①予習・復習は必須です。予め講義の範囲のテキスト・資料を読み「分かったこと」「分からなかったこと」「共感できる点」「共感できなかった点」を記入したフォーマットをもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。 ③欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ④配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。 上記は成績評価に反映します。</p>
--------	--

評価	<p>①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」および中間テストを含む平常点 …20% ②期末試験 …80% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この科目の単位を取得する際には教職課程履修が終盤にさしかかっています。「介護等体験」や「特別活動演習」、「教育実習」、総まとめの「教職実践演習」を通じ、最終的には教師として採用された現場で本講義の学びがいかせるよう、模擬授業等にこの科目で得た知見やスキルを反映させていくことが求められます。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	学校カウンセリング	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	3年	オフィス・アワー 水曜4校時 katamoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、教育心理学の基礎、進路指導・生活指導のより実践的な知識を踏まえ、臨床心理学の基礎知識を確認しながら、カウンセリングの理論と技法に基づいてグループワーク、ロールプレイ等を交え学校現場でのカウンセリング的アプローチについて実践的に学んでいきます。</p>	<p>そろそろ模擬授業等で忙しく「カウンセラーになるわけでもないのにこんな科目不要では」と思うかも知れません。しかし、本講義で学ぶカウンセリングの理論や技法を用いると通常の指導で行き詰まった時の対応のヒントが見えるかも知れません。「こんなとき、カウンセリングの発想を活用するとこんな対応もできる」と実際の場面への対応の幅を広げて講義室のドアを出ませんか？</p>
到達目標	<p>①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。 ②大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習がコンスタントにできる。 ④「教育心理学」「進路指導・生活指導」で学んだ理論が定着していることが確認できる。 ⑤④を踏まえて、カウンセリングの理論や技法に基づいて学校現場の諸問題への対応の選択肢が増やせるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・登録調整	シラバスを読んでくる
	2	学校カウンセリングとは	講義中に指示の課題①
	3	異性の理解とライフサイクル理論にもとづいてキャリア・子育て・生徒指導を考察する	講義中に指示の課題②
	4	臨床心理学の基礎知識① 無意識についての理論～フロイトとユング	講義中に指示の課題③
	5	発達理論～フロイトを中心に	講義中に指示の課題④
	6	カウンセリングの実際①	講義中に指示の課題⑤
	7	学校におけるカウンセリングの注意点 カウンセリングと教師の役割 ～ロジャーズの理論	講義中に指示の課題⑥
	8	心理テストの注意点	講義中に指示の課題⑦
	9	問題行動の理解① 不登校への対応（思春期のカウンセリングと心理療法の各種技法）	講義中に指示の課題⑧
	10	問題行動の理解② 非行への対応（過ちを犯した生地に反省を促し、行動の改善を図る）	講義中に指示の課題⑨
	11	学校現場での緊急事態への対応の実際（ワークショップ）	講義中に指示の課題⑩
	12	こころの病の理解と自殺予防	講義中に指示の課題⑪
	13	教師のメンタルヘルス	講義中に指示の課題⑫
	14	保護者・地域・他の専門機関との連携～クレームへの対応をめぐる～	講義中に指示の課題⑬
15	まとめ・振り返り	講義中に指示の課題⑭	
16	期末試験		

テキスト・参考文献・資料など	<p>教科書は使用しない。適宜資料を配付する。 参考文献：菅佐和子他編「臨床心理学の世界」有斐閣 岩宮恵子「フツの子の思春期」岩波書店 氏原寛「実践から知る 学校カウンセリングー教師カウンセラーのためにー」培風館 藤掛明「非行カウンセリング入門」高橋祥友「自殺予防」岩波新書 桑原知子「教室で生かすカウンセリングマインド」日本評論社 他</p>
----------------	--

学びの手立て	<p>①予習・復習は必須です。予め講義の範囲のテキスト・資料を読み「分かったこと」「分からなかったこと」「共感できる点」「共感できなかった点」を記入したフォーマットをもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。 ③欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ④配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。 上記は成績評価に反映します。</p>
--------	---

評価	<p>①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」および中間テストを含む平常点 … 20% ②期末試験 … 80% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この科目の単位を取得する際には教職課程履修が終盤にさしかかっています。「介護等体験」や「特別活動演習」、「教育実習」、総まとめの「教職実践演習」を通じ、最終的には教師として採用された現場で本講義の学びがいかせるよう、模擬授業等にこの科目で得た知見やスキルを反映させていくことが求められます。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	学校カウンセリング	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-助川 菜生	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 教職を目指すにあたり学校を中心としたコミュニティに貢献できるようにするために、心理学の立場から、グループワークやロールプレイを通して、必要なコミュニケーションスキルを身につけ、カウンセリング的アプローチについて、学校現場の実際に即して実践的に学ぶ。	メッセージ 皆さんが先生になったとき、学校コミュニティでの実践に役立つように、教育相談が対象とする問題にどう向かうかを体験的に理解できる授業を目指します。
	到達目標 教育相談、学校カウンセリングの基礎的な知識を身につけ、自分の言葉で説明できる。 自己理解、他者理解の方法を身につけ、対人関係に応用できる。 文部科学省、教育委員会の資料や教育に関する時事問題について自ら調べ、わかりやすく説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・登録調整	テキスト第1章を事前に読む
	2	思春期・青年期における発達障害の理解と対応①	テキスト第7章を事前に読む
	3	思春期・青年期における発達障害の理解と対応②	テキスト第7章を事前に読む
	4	思春期・青年期における精神医学的問題①	テキスト第8章を事前に読む
	5	思春期・青年期における精神医学的問題②	テキスト第8章を事前に読む
	6	カウンセリングの理論と技法	テキスト第11章を事前に読む
	7	解決志向アプローチ①「リソース」	前回配布の宿題に取り組む
	8	解決志向アプローチ②「問題の例外」	前回配布の宿題に取り組む
9	解決志向アプローチ③「未来志向」	前回配布の宿題に取り組む	
10	解決志向アプローチ④「問題の外在化」	前回配布の宿題に取り組む	
11	コミュニケーションの着眼点と留意点	前回配布の宿題に取り組む	
12	ピアサポート、性、ストレスマネジメント	前回配布の宿題に取り組む	
13	学校における緊急支援	テキスト第9章を事前に読む	
14	異職種との連携、コンサルテーション	前回配布の宿題に取り組む	
15	まとめと振り返り	レポート作成	
16			
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：長谷川啓三、佐藤宏平、花田里欧子 編「事例で学ぶ生徒指導・進路指導・教育相談 中学校・高等学校編」遠見書房 参考文献：森俊夫「先生のためのやさしいブリーフセラピー」 森俊夫、黒沢幸子「森・黒沢のワークショップで学ぶ解決志向ブリーフセラピー」 ほか、講義内で随時、資料を配布する		
	学びの手立て 課題レポート、グループワーク等に、自ら課題を見出し、取り組む姿勢を求めます。ワークへの不参加は認めません。 毎回、出欠確認を行いますので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に届けるか、他受講生に伝言を依頼してください。 随時配布資料・宿題は次回必ず持参してください。また、欠席した回の資料は自力で入手してください。 出欠状況の確認には応じませんので、自ら記録してください。		
	評価 受講態度（20%）と講義毎の課題レポート（60%）と最終レポート（20%）から総合評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 「教職に関する科目」の教育課程の意義及び編成の方法と教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）に係る科目。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 教育課程・教育方法	期別 前期	曜日・時限 火3	単位 2
	担当者 三村 和則	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室番号：5505 E-mail:mimura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 学校教育の中核を占める授業を主たる対象にしながら、授業のあり方と授業づくりの方法及び技術ならびに授業の背景をなし授業を一つの主要な場面として具現化する教育課程について論じる。	メッセージ 小中高校と毎日のように受けてきた授業。大学で毎日のように受けている授業（講義も授業の一つです。）教師になったら仕事の中心として毎日のように行うことになる授業。この授業について、まず時間をかけていけば哲学的に解明していきます。授業とは何か分かったら、今度は具体的な授業づくりの方法について、どの教科にも当てはまる一般教授学の成果を用いて解説をしていきます。
	到達目標 授業は「教授（教えること）と学習（学ぶこと）の統一した過程」として捉えるべきであること、その認識に至るまでの教授学の歴史に関する深い知識・理解を身につける。また、そうした授業を成立させるために欠かせない「指導案づくり」の方法と「授業展開のタクト」の方法に関して深い知識・理解を身につける。関連して教科の成立根拠、他の領域の教育課程、情報機器や教材の活用について知識・理解を深めていく。これらを通して、授業を行うことへの意欲と自信を持つことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	授業びらき
	2	授業とは何か1 教授と学習の統一としての授業
	3	授業とは何か2 教授理論と授業観の史的変遷
	4	授業とは何か3 ドラマとしての授業の成立
	5	授業とは何か4 授業のビデオ視聴
	6	授業とは何か5 ビデオで観た授業の批評・分析
	7	指導案づくり1 指導案の内容項目とその順序・書き方(1)
	8	指導案づくり2 指導案の内容項目とその順序・書き方(2)／指導目標と学力観
	9	指導案づくり3 本時の展開計画の枠組みの発展／教科内容の確定と教材研究1 教科内容と教材
	10	教科内容の確定と教材研究2 教科の成立条件と教育課程
	11	教科内容の確定と教材研究3 教材研究(教材づくり・教材解釈)
	12	指導言の構想と発問づくり1 発問とは何か
	13	指導言の構想と発問づくり2 その他の指導言／本時の展開計画の典型例
	14	子どもの応答予想と切り返しの構想の方法
	15	授業実践と授業展開のタクト／教育工学的な方法と教育機器の活用
16	試験	
時間外学習の内容		
テキスト精読ページ(以下同じ)133		
132, 171-3, 175, 177, 192		
14, 21		
117, 130, 138, 180, 指導案・教材精読		
ビデオ視聴した授業の感想文☆		
119-20, 123, 140-3, 147, 181, 188		
102, 137, 154, 179, 213		
163, 232, 239-41, PISA解, 通知票調		
22, 26-8, 201-2, 212		
152, 270, 272, 275, 279		
教材教科内容ペア☆155, 159-60, 169		
183, 191, 220, 224		
118, 147, 168, 184-6, 228		
71, 135-6, 144, 193-4, 208, 215		
213		

テキスト・参考文献・資料など
 テキスト：①配付するレジュメ集と資料集
 ②恒吉宏典他編『授業研究 重要用語300の基礎知識』明治図書、1999年。
 主要参考文献：①三村和則著『沖縄・学力向上のための提言』ポーターインク、2010年。②岩垣攝他編『吉本均著作選集(全5巻)』明治図書、2006年。③吉本均編著『新 教授学のすすめ(全5巻)』明治図書、1989年。
 ④岩垣攝他『教室で教えるということ』八千代出版、2010年。⑤深澤広明編著『教育方法技術論』協同出版、2014年。残余については別途指示する。

学びの手立て
 ①「履修の心構え」：抽選となった場合、科目等履修生、4年生、3年生、2年生の順に登録を受け付ける。教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。
 ②「学びを深めるために」：大学の講義も授業であることから、授業者の授業展開方法、表現方法、教材・教具使用方法ならびに教材研究方法を学ぶことが大切である。毎回の講義を受講し理解することは当然であるが、講義時間内だけでは到達目標達成には至らないため、指定された時間外学習は必ず行うこと。また、別途指示した参考文献にて補ったり深めたりすること。

評価
 小レポートを3回程課し、出欠点検をしない場合その3分の2以上の提出を持って期末試験受験資格とする。評価方法と配分は、期末試験90%、小レポート10%とする。期末試験では「到達目標」に掲げた知識・理解、意欲をなるべく網羅的に評価する。特に「教授学キーワード」として整理した授業づくりの専門用語に関する知識・理解に40%程度配点する。論述問題については各設問に関わる講義内容（専門用語や重要事項）の出現率に対応して配点する。

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 本講義の内容は、各教科教授学の母体でもあり統合の学問でもある一般教授学の成果を内容にしているの、どの教科の授業においても共通している。そのため本講義をベースにして「教科教育法」と「同演習」を履修することが望ましい。特に授業をつくるための「教授学キーワード」は大いに活用されるだろう。

※ポリシーとの関連性 「教職に関する科目」の教育課程の意義及び編成の方法と教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）に係る科目。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育課程・教育方法	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	三村 和則	2年	研究室番号:5505 E-mail:mimura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 学校教育の中核を占める授業を主たる対象にしながら、授業のあり方と授業づくりの方法及び技術ならびに授業の背景をなし授業を一つの主要な場面として具現化する教育課程(選択された教育内容を配列したもの)について論じる。	メッセージ 小中高校と毎日のように受けてきた授業。大学で毎日のように受けている授業(講義も授業の一つです。)。教師になったら仕事を中心として毎日のように行うことになる授業。まずこの授業について、時間をかけていけば哲学的に解明していきます。授業とは何か分かったら今度は具体的な授業づくりの方法について、どの教科にも当てはまる一般教授学の成果を用いて解説をしていきます。
	到達目標 授業は「教授(教えること)と学習(学ぶこと)の統一した過程」として捉えるべきであること、その認識に至るまでの教授学の歴史に関する深い知識・理解を身につける。また、そうした授業を成立させるために欠かせない「指導案づくり」の方法と「授業展開のタクト」の方法に関して深い知識・理解を身につける。関連して教科の成立根拠、他の領域の教育課程、情報機器や教材の活用について知識・理解を深めていく。これらを通して、授業を行うことへの意欲と自信を持つことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	授業びらき
	2	授業とは何か1 教授と学習の統一としての授業
	3	授業とは何か2 教授理論と授業観の史的変遷
	4	授業とは何か3 ドラマとしての授業の成立
	5	授業とは何か4 授業のビデオ視聴
	6	授業とは何か5 ビデオで観た授業の批評・分析
	7	指導案づくり1 指導案の内容項目とその順序・書き方(1)
	8	指導案づくり2 指導案の内容項目とその順序・書き方(2)／指導目標と学力観
	9	指導案づくり3 本時の展開計画の枠組みの発展／教科内容の確定と教材研究1 教科内容と教材
	10	教科内容の確定と教材研究2 教科の成立条件と教育課程
	11	教科内容の確定と教材研究3 教材研究(教材づくり・教材解釈)
	12	指導言の構想と発問づくり1 発問とは何か
	13	指導言の構想と発問づくり2 その他の指導言／本時の展開計画の典型例
	14	子どもの応答予想と切り返しの構想の方法
	15	授業実践と授業展開のタクト／教育工学的な方法と教育機器の活用
16	試験	
		時間外学習の内容
		テキスト精読ページ(以下同)133
		132, 171-3, 175, 177, 192
		14, 21
		117, 130, 138, 180, 指導案・教材精読
		ビデオ視聴した授業の感想文☆
		119-20, 123, 140-3, 147, 181, 188
		102, 137, 154, 179, 213
		163, 232, 239-41, PISA解, 通知票調
		22, 26-8, 201-2, 212
		152, 270, 272, 275, 279
		教材教科内容ペア☆155, 159-60, 169
		183, 191, 220, 224
		118, 147, 168, 184-6, 228
		71, 135-6, 144, 193-4, 208, 215
		213

テキスト・参考文献・資料など
 テキスト：①配付するレジュメ集と資料集。
 ②恒吉宏典、深澤広明編『授業研究 重要用語300の基礎知識』明治図書。
 主要参考文献：①三村和則著『沖縄・学力向上のための提言』ポーターインク、2010年。②岩垣攝他編『吉本均著作選集(全5巻)』明治図書、2006年。③吉本均編著『新 教授学のすすめ(全5巻)』明治図書、1989年。
 ④岩垣攝他『教室で教えるということ』八千代出版、2010年。⑤深澤広明編著『教育方法技術論』協同出版、2014年。残余については別途指示する。残余については別途指示する。

学びの手立て
 ①「履修の心構え」：抽選となった場合、科目等履修生、4年生、3年生、2年生の順に登録を受け付ける。教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。
 ②「学びを深めるために」：大学の講義も授業であることから、授業者の授業展開方法、表現方法、教材・教具使用方法ならびに教材研究方法を学ぶことが大切である。毎回の講義を受講し理解することは当然であるが、講義時間内だけでは到達目標達成には至らないため、指定された時間外学習は必ず行うこと。また、別途指示した参考文献にて補ったり深めたりすること。

評価
 小レポートを3回程課し、出欠点検をしない場合その3分の2以上の提出を持って期末試験受験資格とする。評価方法と配分は、期末試験90%、小レポート10%とする。期末試験では「到達目標」に掲げた知識・理解、意欲をなるべく網羅的に評価する。特に「教授学キーワード」として整理した授業づくりの専門用語に関する知識・理解に40%程度配点する。論述問題については各設問に関わる講義内容(専門用語や重要事項)の出現率に対応して配点する。

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 本講義の内容は、各教科教授学の母体でもあり統合の学問でもある一般教授学の成果を内容にしているの、どの教科の授業においても共通している。そのため本講義をベースにして「教科教育法」と「同演習」を履修することが望ましい。特に授業をつくるための「教授学キーワード」は大いに活用されるだろう。

※ポリシーとの関連性 「教職に関する科目」の教育課程の意義及び編成の方法と教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）に係る科目。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 教育課程・教育方法	期別 前期	曜日・時限 火5	単位 2
	担当者 三村 和則	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室番号：5505 E-mail:mimura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 学校教育の中核を占める授業を主たる対象にしながら、授業のあり方と授業づくりの方法及び技術ならびに授業の背景をなし授業を一つの主要な場面として具現化する教育課程について論じる。	メッセージ 小中高校と毎日のように受けてきた授業。大学で毎日のように受けている授業（講義も授業の一つです。）教師になったら仕事の中心として毎日のように行うことになる授業。この授業について、まず時間をかけていけば哲学的に解明していきます。授業とは何か分かったら、今度は具体的な授業づくりの方法について、どの教科にも当てはまる一般教授学の成果を用いて解説をしていきます。
	到達目標 授業は「教授（教えること）と学習（学ぶこと）の統一した過程」として捉えるべきであること、その認識に至るまでの教授学の歴史に関する深い知識・理解を身につける。また、そうした授業を成立させるために欠かせない「指導案づくり」の方法と「授業展開のタクト」の方法に関して深い知識・理解を身につける。関連して教科の成立根拠、他の領域の教育課程、情報機器や教材の活用について知識・理解を深めていく。これらを通して、授業を行うことへの意欲と自信を持つことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業びらき	テキスト精読ページ(以下同)133
	2	授業とは何か1 教授と学習の統一としての授業	132, 171-3, 175, 177, 192
	3	授業とは何か2 教授理論と授業観の史的変遷	14, 21
	4	授業とは何か3 ドラマとしての授業の成立	117, 130, 138, 180, 指導案・教材精読
	5	授業とは何か4 授業のビデオ視聴	ビデオ視聴した授業の感想文☆
	6	授業とは何か5 ビデオで観た授業の批評・分析	119-20, 123, 140-3, 147, 181, 188
	7	指導案づくり1 指導案の内容項目とその順序・書き方(1)	102, 137, 154, 179, 213
	8	指導案づくり2 指導案の内容項目とその順序・書き方(2)／指導目標と学力観	163, 232, 239-41, PISA解, 通知票調
	9	指導案づくり3 本時の展開計画の枠組みの発展／教科内容の確定と教材研究1 教科内容と教材	22, 26-8, 201-2, 212
	10	教科内容の確定と教材研究2 教科の成立条件と教育課程	152, 270, 272, 275, 279
	11	教科内容の確定と教材研究3 教材研究(教材づくり・教材解釈)	教材教科内容ペア☆155, 159-60, 169
	12	指導言の構想と発問づくり1 発問とは何か	183, 191, 220, 224
	13	指導言の構想と発問づくり2 その他の指導言／本時の展開計画の典型例	118, 147, 168, 184-6, 228
	14	子どもの応答予想と切り返しの構想の方法	71, 135-6, 144, 193-4, 208, 215
	15	授業実践と授業展開のタクト／教育工学的な方法と教育機器の活用	213
16	試験		

テキスト・参考文献・資料など
 テキスト：①配付するレジュメ集と資料集
 ②恒吉宏典、深澤広明編『授業研究 重要用語300の基礎知識』明治図書。
 主要参考文献：①三村和則著『沖縄・学力向上のための提言』ポーターインク、2010年。②岩垣攝他編『吉本均著作選集(全5巻)』明治図書、2006年。③吉本均編著『新 教授学のすすめ(全5巻)』明治図書、1989年。④岩垣攝他『教室で教えるということ』八千代出版、2010年。⑤深澤広明編著『教育方法技術論』協同出版、2014年。残余については別途指示する。

学びの手立て
 ①「履修の心構え」：抽選となった場合、科目等履修生、4年生、3年生、2年生の順に登録を受け付ける。教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。
 ②「学びを深めるために」：大学の講義も授業であることから、授業者の授業展開方法、表現方法、教材・教具使用方法ならびに教材研究方法を学ぶことが大切である。毎回の講義を受講し理解することは当然であるが、講義時間内だけでは到達目標達成には至らないため、指定された時間外学習は必ず行うこと。また、別途指示した参考文献にて補ったり深めたりすること。

評価
 小レポートを3回程課し、出欠点検をしない場合その3分の2以上の提出を持って期末試験受験資格とする。評価方法と配分は、期末試験90%、小レポート10%とする。期末試験では「到達目標」に掲げた知識・理解、意欲をなるべく網羅的に評価する。特に「教授学キーワード」として整理した授業づくりの専門用語に関する知識・理解に40%程度配点する。論述問題については各設問に関わる講義内容（専門用語や重要事項）の出現率に対応して配点する。

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 本講義の内容は、各教科教授学の母体でもあり統合の学問でもある一般教授学の成果を内容にしているの、どの教科の授業においても共通している。そのため本講義をベースにして「教科教育法」と「同演習」を履修することが望ましい。特に授業をつくるための「教授学キーワード」は大いに活用されるだろう。

※ポリシーとの関連性 「教職に関する科目」の教育課程の意義及び編成の方法と教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）に係る科目。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 教育課程・教育方法	期別 後期	曜日・時限 木6	単位 2
	担当者 三村 和則	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室番号：5505 E-mail:mimura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 学校教育の中核を占める授業を主たる対象にしながら、授業のあり方と授業づくりの方法及び技術ならびに授業の背景をなし授業を一つの主要な場面として具現化する教育課程について論じる。	メッセージ 小中高校と毎日のように受けてきた授業。大学で毎日のように受けている授業（講義も授業の一つです。）教師になったら仕事の中心として毎日のように行うことになる授業。この授業について、まず時間をかけていけば哲学的に解明していきます。授業とは何か分かったら、今度は具体的な授業づくりの方法について、どの教科にも当てはまる一般教授学の成果を用いて解説をしていきます。
	到達目標 授業は「教授（教えること）と学習（学ぶこと）の統一した過程」として捉えるべきであること、その認識に至るまでの教授学の歴史に関する深い知識・理解を身につける。また、そうした授業を成立させるために欠かせない「指導案づくり」の方法と「授業展開のタクト」の方法に関して深い知識・理解を身につける。関連して教科の成立根拠、他の領域の教育課程、情報機器や教材の活用について知識・理解を深めていく。これらを通して、授業を行うことへの意欲と自信を持つことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	授業びらき
	2	授業とは何か1 教授と学習の統一としての授業
	3	授業とは何か2 教授理論と授業観の史的変遷
	4	授業とは何か3 ドラマとしての授業の成立
	5	授業とは何か4 授業のビデオ視聴
	6	授業とは何か5 ビデオで観た授業の批評・分析
	7	指導案づくり1 指導案の内容項目とその順序・書き方(1)
	8	指導案づくり2 指導案の内容項目とその順序・書き方(2)／指導目標と学力観
	9	指導案づくり3 本時の展開計画の枠組みの発展／教科内容の確定と教材研究1 教科内容と教材
	10	教科内容の確定と教材研究2 教科の成立条件と教育課程
	11	教科内容の確定と教材研究3 教材研究(教材づくり・教材解釈)
	12	指導言の構想と発問づくり1 発問とは何か
	13	指導言の構想と発問づくり2 その他の指導言／本時の展開計画の典型例
	14	子どもの応答予想と切り返しの構想の方法
	15	授業実践と授業展開のタクト／教育工学的な方法と教育機器の活用
16	試験	

時間外学習の内容
テキスト精読ページ(以下同じ)133
132, 171-3, 175, 177, 192
14, 21
117, 130, 138, 180, 指導案・教材精読
ビデオ視聴した授業の感想文☆
119-20, 123, 140-3, 147, 181, 188
102, 137, 154, 179, 213
163, 232, 239-41, PISA解, 通知票調
22, 26-8, 201-2, 212
152, 270, 272, 275, 279
教材教科内容ペア☆155, 159-60, 169
183, 191, 220, 224
118, 147, 168, 184-6, 228
71, 135-6, 144, 193-4, 208, 215
213

テキスト・参考文献・資料など
 テキスト：①配付するレジュメ集と資料集
 ②恒吉宏典、深澤広明編『授業研究 重要用語300の基礎知識』明治図書。
 主要参考文献：①三村和則著『沖縄・学力向上のための提言』ポーターインク、2010年。②岩垣攝他編『吉本均著作選集(全5巻)』明治図書、2006年。③吉本均編著『新 教授学のすすめ(全5巻)』明治図書、1989年。
 ④岩垣攝他『教室で教えるということ』八千代出版、2010年。⑤深澤広明編著『教育方法技術論』協同出版、2014年。残余については別途指示する。残余については別途指示する。

学びの手立て
 ①「履修の心構え」：抽選となった場合、科目等履修生、4年生、3年生、2年生の順に登録を受け付ける。教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。
 ②「学びを深めるために」：大学の講義も授業であることから、授業者の授業展開方法、表現方法、教材・教具使用方法ならびに教材研究方法を学ぶことが大切である。毎回の講義を受講し理解することは当然であるが、講義時間内だけでは到達目標達成には至らないため、指定された時間外学習は必ず行うこと。また、別途指示した参考文献にて補ったり深めたりすること。

評価
 小レポートを3回程課し、出欠点検をしない場合その3分の2以上の提出を持って期末試験受験資格とする。評価方法と配分は、期末試験90%、小レポート10%とする。期末試験では「到達目標」に掲げた知識・理解と意欲をなるべく網羅的に評価する。特に「教授学キーワード」として整理した授業づくりの専門用語に関する知識・理解に40%程度配点する。論述問題については各設問に関わる講義内容（専門用語や重要事項）の出現率に対応して配点する。

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 本講義の内容は、各教科教授学の母体でもあり統合の学問でもある一般教授学の成果を内容にしているの、どの教科の授業においても共通している。そのため本講義をベースにして「教科教育法」と「同演習」を履修することが望ましい。特に授業をつくるための「教授学キーワード」は大いに活用されるだろう。

科目基本情報	科目名 教育心理学	期別	曜日・時限	単位
	担当者 片本 恵利	前期	水 5	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	オフィス・アワー 水曜4校時 katamoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本科目は、教職に必要な発達・学習・教育評価・障がいの理解を柱として、基礎理論が学校現場とのつながりや活用のしかたについてグループメンバーや教員とともに考察します。また、教職課程を本格的に履修する準備ができていないかを見極める「関門科目」でもあり、教壇に立つことを念頭においた厳しい基準で成績評価を行います。	メッセージ 理論など面白くないと思うかも知れません。予習・復習も難儀と感ずるかも知れません。しかし、スポーツと同様学問や教職にも基礎トレーニングは必要ですし、それが結局、一番役に立ちます。一人で悩んで「正解」を出す必要も失敗を恐れる必要もありません。毎回の講義でさまざまな考えを出し合いながら仲間や教員と一緒に「この理論は使える!」と発見して講義室のドアを出しましょう。
	到達目標 ①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。 ②大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習ができる。 ④教育に関する諸理論の現場での活用についてイメージできるようになる。 ⑤教育現場での諸問題について学問を基礎とした解決法が探せるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション・登録調整
	2	発達① 青年期の発達
	3	発達② 幼児・児童の発達とピアジェ理論
	4	発達③ 成人期～中年期危機と老年期 ～保護者との連携のために
	5	発達③ 「発達」の視点を教育に活かす(発達理論を用いた授業・生徒指導の工夫)
	6	学習・教育① さまざまな学習理論
	7	学習・教育② 動機づけ
	8	学習理論を活かした教育(学習理論を用いた指導の工夫)
	9	教育評価① 教育評価の考え方(近代科学・統計学の考え方の基礎)
	10	教育評価② 教育評価の注意点(テストや通知表の活用)
	11	教育評価③ 知能・知能テスト
	12	障がいの理解① さまざまな障がいの理解をふまえた中学高校の指導の課題
	13	障がいの理解② 発達障がい LD・AD/HD・広汎性発達障害
	14	障がいの理解③ 学校の中のマイノリティ
	15	まとめ・振り返り
16	期末試験	
		時間外学習の内容
		シラバスを読んでくる
		講義内で指示した課題①
		講義内で指示した課題②
		講義内で指示した課題③
		講義内で指示した課題④
		講義内で指示した課題⑤
		講義内で指示した課題⑥
		講義内で指示した課題⑦
		講義内で指示した課題⑧
		講義内で指示した課題⑨
		講義内で指示した課題⑩
		講義内で指示した課題⑪
		講義内で指示した課題⑫
		講義内で指示した課題⑬
		講義内で指示した課題⑭

実践	テキスト・参考文献・資料など 仲 淳「こどものこころが見えてくる本 臨床心理士が提案するちょっとあたらしい教育心理学のかたち」 あいり出版 北村邦夫+JUNIE編集部「ティーンズ・ボディブック改訂版」扶桑社 金森俊朗「希望の教室」角川書店 東田直樹「自閉症の僕が跳びはねる理由」エスコアール出版部 他
----	--

学びの手立て	①予習・復習は必須です。予め講義の範囲のテキスト・資料を読み「分かったこと」「分からなかったこと」「共感できる点」「共感できなかった点」を記入したフォーマットをもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。 ③欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ④配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。 上記は成績評価に反映します。
--------	---

評価	①予習復習・課題その他成果物をつづつた「ポートフォリオ」を含む平常点 … 25% + α (発展課題提出者には加算します) ②期末試験 … 75% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 この科目と「教育の思想と原則」の単位を取得すると、本学の履修階梯に沿って教科教育法に進めます。また、3年次以上で「介護等体験」をする方もあります。それら科目・体験では本講義で学んだ諸理論を活用して授業計画・学級経営計画を立て、実践することが求められます。 心理学に関する科目としては、「進路指導・生活指導」があります。
-------	---

科目基本情報	科目名 教育心理学	期別 後期	曜日・時限 水5	単位 2
	担当者 片本 恵利	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ オフィス・アワー 水曜4校時 katamoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本科目は、教職に必要な発達・学習・教育評価・障がいの理解を柱として、基礎理論が学校現場とのつながりや活用のしかたについてグループメンバーや教員とともに考察します。また、教職課程を本格的に履修する準備ができているかを見極める「関門科目」でもあり、教壇に立つことを念頭においた厳しい基準で成績評価を行います。	メッセージ 理論など面白くないと思うかも知れません。予習・復習も難儀と感ずるかも知れません。しかし、スポーツと同様学問や教職にも基礎トレーニングは必要ですし、それが結局、一番役に立ちます。一人で悩んで「正解」を出す必要も失敗を恐れる必要もありません。毎回の講義でさまざまな考えを出し合いながら仲間や教員と一緒に「この理論は使える!」と発見して講義室のドアを出しましょう。
	到達目標 ①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。 ②大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習ができる。 ④教育に関する諸理論の現場での活用についてイメージできるようになる。 ⑤教育現場での諸問題について学問を基礎とした解決法が探せるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・登録調整	
	2	発達① 青年期の発達	
	3	発達② 幼児・児童の発達とピアジェ理論	
	4	発達③ 成人期～中年期危機と老年期 ～保護者との連携のために	
	5	発達④ 「発達」の視点を教育に活かす(発達理論を用いた授業・生徒指導の工夫)	
	6	学習・教育① さまざまな学習理論	
	7	学習・教育② 動機づけ	
	8	学習・教育③ 学習理論の現場での活用 社会的存在としての人間の学習	
	9	教育評価① 教育評価 (近代科学・統計学の考え方の基礎)	
	10	教育評価② 教育評価の注意点(テストや通知表の活用)	
	11	教育評価③ 知能・知能テスト	
	12	障がいの理解① さまざまな障がいの理解をふまえた中学高校の指導の課題	
	13	障がいの理解② 発達障がい LD・AD/HD・広汎性発達障害	
	14	障がいの理解③ 学校の中のマイノリティ	
	15	まとめ・振り返り	
16	期末試験		

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：仲 淳「こどものころが見えてくる本 臨床心理士が提案するちょっとあたらしい教育心理学のかたち」あいり出版 参考文献：北村邦夫+JUNIE編集部「ティーンズ・ボディブック改訂版」扶桑社 金森俊朗「希望の教室」角川出版 東田直樹「自閉症の僕が跳びはねる理由」エスコアール出版部 他
----	---

学びの手立て	①予習・復習は必須です。予め講義の範囲のテキスト・資料を読み「分かったこと」「分からなかったこと」「共感できる点」「共感できなかった点」を記入したフォーマットをもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。 ③欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ④配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。上記は成績評価に反映します。
--------	---

評価	①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」を含む平常点 … 25% + α (発展課題提出者) ②期末試験 … 75% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 この科目と「教育の思想と原則」の単位を取得すると、本学教職課程の履修階梯に沿って教科教育法に進めます。また、3年次以上で「介護等の体験」をする方もあります。これら科目や体験では、本講義で学んだ理論に基づいて授業や指導の計画を立てることが求められます。また、心理学の関連科目として「進路指導・生活指導」があります。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育心理学	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	1年	オフィス・アワー 水曜4校時 katamoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、教職に必要な発達・学習・教育評価・障がいの理解を柱として、基礎理論が学校現場とのつながりや活用のしかたについてグループメンバーや教員とともに考察します。また、教職課程を本格的に履修する準備ができていないかを見極める「関門科目」でもあり、教壇に立つことを念頭においた厳しい基準で成績評価を行います。</p> <p>到達目標</p> <p>①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。 ②大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習ができる。 ④教育に関する諸理論の現場での活用についてイメージできるようになる。 ⑤教育現場での諸問題について学問を基礎とした解決法が探せるようになる。</p>	<p>理論など面白くないと思うかも知れません。予習・復習も難儀と感ずるかも知れません。しかし、スポーツと同様学問や教職にも基礎トレーニングは必要ですし、それが結局、一番役に立ちます。一人で悩んで「正解」を出す必要も失敗を恐れる必要もありません。毎回の講義でさまざまな考えを出し合いながら仲間や教員と一緒に「この理論は使える!」と発見して講義室のドアを出しましょう。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・登録調整	
	2	発達① 青年期の発達	
	3	発達② 幼児・児童の発達とピアジェ理論	
	4	発達③ 成人期～中年期危機と老年期 ～保護者との連携のために	
	5	発達④ 「発達」の視点を教育に活かす(発達理論を用いた授業・生徒指導の工夫)	
	6	学習・教育① さまざまな学習理論	
	7	学習・教育② 動機づけ	
	8	学習・教育③ 学習理論の現場での活用 社会的存在としての人間の学習	
	9	教育評価① 教育評価 (近代科学・統計学の考え方の基礎)	
	10	教育評価② 教育評価の注意点(テストや通知表の活用)	
	11	教育評価③ 知能・知能テスト	
	12	障がいの理解① さまざまな障がいの理解をふまえた中学高校の指導の課題	
	13	障がいの理解② 発達障がい LD・AD/HD・広汎性発達障害	
	14	障がいの理解③ 学校の中のマイノリティ	
15	まとめ・振り返り		
16	期末試験		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>仲 淳「こどものこころが見えてくる本 臨床心理士が提案するちょっとあたらしい教育心理学のかたち」あいら出版 北村邦夫+JUNIE編集部「ティーンズ・ボディブック改訂版」扶桑社 金森俊朗「希望の教室」角川出版 東田直樹「自閉症の僕が跳びはねる理由」エスコアール出版部 他</p>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>①予習・復習は必須です。予め講義の範囲のテキスト・資料を読み「分かったこと」「分からなかったこと」「共感できる点」「共感できなかった点」を記入したフォーマットをもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。 ②欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ③配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。 ④上記は成績評価に反映します。</p>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」を含む平常点 … 25% + α (発展課題提出者) ②期末試験 … 75% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。</p>
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この科目と「教育の思想と原則」の単位を取得すると、本学教職課程の履修階梯に沿って教科教育法に進めます。また、3年次以上で「介護等の体験」をする方もあります。これら科目や体験では、本講義で学んだ理論に基づいて授業や指導の計画を立てることが求められます。また、心理学の関連科目として「進路指導・生活指導」があります。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

本講義は、本学の養成する教員像に求められる資質能力に必要な基礎理論と教育現場での活用の仕方を学ぶ科目です。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 教育心理学	期別 後期	曜日・時限 火5	単位 2
	担当者 片本 恵利	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ オフィス・アワー 水曜4校時 katamoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本科目は、教職に必要な発達・学習・教育評価・障がいの理解を柱として、基礎理論が学校現場とのつながりや活用のしかたについてグループメンバーや教員とともに考察します。また、教職課程を本格的に履修する準備ができているかを見極める「関門科目」でもあり、教壇に立つことを念頭においた厳しい基準で成績評価を行います。	メッセージ 理論など面白くないと思うかも知れません。予習・復習も難儀と感じるかも知れません。しかし、スポーツと同様学問や教職にも基礎トレーニングは必要ですし、それが結局、一番役に立ちます。一人で悩んで「正解」を出す必要も失敗を恐れる必要もありません。毎回の講義でさまざまな考えを出し合いながら仲間や教員と一緒に「この理論は使える!」と発見して講義室のドアを出しましょう。
	到達目標 ①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。 ②大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習ができる。 ④教育に関する諸理論の現場での活用についてイメージできるようになる。 ⑤教育現場での諸問題について学問を基礎とした解決法が探せるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・登録調整	シラバスを読んでくる
	2	発達① 青年期の発達	講義中に指示の課題①
	3	発達② 幼児・児童の発達とピアジェ理論	講義中に指示の課題②
	4	発達③ 成人期～中年期危機と老年期 ～保護者との連携のために	講義中に指示の課題③
	5	発達④ 「発達」の視点を教育に活かす(発達理論を用いた授業・生徒指導の工夫)	講義中に指示の課題④
	6	学習・教育① さまざまな学習理論	講義中に指示の課題⑤
	7	学習・教育② 動機づけ	講義中に指示の課題⑥
	8	学習・教育③ 学習理論の現場での活用 社会的存在としての人間の学習	講義中に指示の課題⑦
	9	教育評価① 教育評価 (近代科学・統計学の考え方の基礎)	講義中に指示の課題⑧
	10	教育評価② 教育評価の注意点(テストや通知表の活用)	講義中に指示の課題⑨
	11	教育評価③ 知能・知能テスト	講義中に指示の課題⑩
	12	障がいの理解① さまざまな障がいの理解をふまえた中学高校の指導の課題	講義中に指示の課題⑪
	13	障がいの理解② 発達障がい LD・AD/HD・広汎性発達障害	講義中に指示の課題⑫
	14	障がいの理解③ 学校の中のマイノリティ	講義中に指示の課題⑬
	15	まとめ・振り返り	講義中に指示の課題⑭
16	期末試験		

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：仲 淳「こどものころが見えてくる本 臨床心理士が提案するちょっとあたらしい教育心理学のかたち」 あいり出版 参考書等：北村邦夫+JUNIE編集部「ティーンズ・ボディブック改訂版」扶桑社 金森俊朗「希望の教室」角川書店 東田直樹「自閉症の僕が跳びはねる理由」エスコアール出版部 他
----	--

学びの手立て	①予習・復習は必須です。予め講義の範囲のテキスト・資料を読み「分かったこと」「分からなかったこと」「共感できる点」「共感できなかった点」を記入したフォーマットをもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。 ③欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ④配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。 上記は成績評価に反映します。
--------	---

評価	①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」を含む平常点 … 25% ②最終レポート … 75% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 この科目と「教育の思想と原則」の単位を取得すると、本学教職課程の履修階梯に沿って教科教育法に進めます。また、3年次以上で「介護等の体験」をする方もあります。これら科目や体験では、本講義で学んだ理論に基づいて授業や指導の計画を立てることが求められます。また、心理学の関連科目として「進路指導・生活指導」があります。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育心理学	集中	集中講義	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	LC 教員1	1年	授業終了後に質問を受け付ける	

学びの準備	ねらい 本講義は、教職に必要な発達・学習・教育評価・障がいの理解を中心に学びます。受講生は実際の学校生活に根差した問題意識を持って、講義内で基礎理論を学び、実際に生かしていくための自分なりの考えを持つことが期待されます。	メッセージ 教育現場では、生徒とのコミュニケーション、生徒理解から生徒評価まで、心理学的な視点は必要不可欠と言っても差し支えありません。ぜひ、実際に教育現場に出るときに助けになる考え方を身に付けていただきたいと思います。
	到達目標 ①教職の基礎に関わる心理学的理論・視点について理解すること。 ②教育に関する諸理論の現場での活用についてイメージできるようになること。 ③教育現場での諸問題について学問を基礎とした解決法が探せるようになること。 ④豊かな人間形成のための多様な価値観、見識、視点をもつこと。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1日目：オリエンテーション	
	2	第1日目：発達理論①	講義時に指示する
3	第1日目：発達理論②	講義時に指示する	
4	第1日目：発達理論③	講義時に指示する	
5	第2日目：学習・教育①	講義時に指示する	
6	第2日目：学習・教育②	講義時に指示する	
7	第2日目：教育評価①	講義時に指示する	
8	第2日目：教育評価②	講義時に指示する	
9	第3日目：障がいの理解①	講義時に指示する	
10	第3日目：障がいの理解②	講義時に指示する	
11	第3日目：障がいの理解③	講義時に指示する	
12	第3日目：事例検討①	講義時に指示する	
13	第4日目：事例検討②	講義時に指示する	
14	第4日目：発表（初日に持っていた問題意識を考察）	講義時に指示する	
15	第4日目：まとめ・振り返り	講義時に指示する	
16	第4日目：試験		
	テキスト・参考文献・資料など 仲淳「こどものこころが見えてくる本 臨床心理士が提案するちょっとあたらしい教育心理学のかたち」あいり出版		
	学びの手立て ①遅刻・欠席は「履修規程」に従います。 ②履修の心構えとして、積極的に問題意識を持ち、考える、能動的な受講を望みます。		
	評価 ①出席点・受講態度…25% ②授業内での第4日目の発表の成熟度…25% ③試験の評価…50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 この科目と「教育の思想と原則」の単位を取得すると、本学の履修階梯に沿って、教科教育法に進めます。また、3年次以上で「介護等体験」をする方もあります。それら科目・体験では本講義で学んだ諸理論を活用して、授業計画・学級経営計画を立て、実践することが求められます。心理学に関する科目としては、「進路指導・生活指導」があります。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育実習指導	集中	その他	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔、他	4年	fujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、「教育実習A」「教育実習B」の事前指導、中間指導ならびに事後指導のために開講され、2回の全体オリエンテーション、1回の教科別オリエンテーション、中間懇談会、教科別反省会によって構成される科目である。</p>	<p>教育実習生としてふさわしい服装、身だしなみ、マナーが修得されていない、または、遅刻、欠席等の点で教育実習生として不適格とみなされた場合は、本科目の受講を認めず、結果として教育実習に行くことはできなくなる場合がある。昨年9月に開催された「教育実習校選定方法説明会」における説明資料を、再度熟読しておくこと。</p>
到達目標	<p>(1) 教育法規やハラスメントなど、教育実習生として必要な知識について理解できる。 (2) 教育実習生としての自覚を確立し、教育実習に際しての目標を設定できる。 (3) 自らの教育実習体験を省察し、課題を明確にして、他者に向けて表現できる。 (4) 他者の教育実習体験を、当事者意識をもって受け止めることができる。 (5) 教育実習生として適切な服装、身だしなみ、マナー等を実践することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1回教育実習オリエンテーション①：講話「学校現場と教育法規」／諸指導	学習した内容の教育実習録への記録
	2	第1回教育実習オリエンテーション②：学校現場での安全について（1）	学習した内容の教育実習録への記録
	3	第1回教育実習オリエンテーション③：学校現場での安全について（2）	学習した内容の教育実習録への記録
	4	第2回教育実習オリエンテーション：講話「教育実習を迎えるにあたって」／ハラスメント研修	学習した内容の教育実習録への記録
	5	教科別オリエンテーション	学習した内容の教育実習録への記録
	6	中間懇談会	懇談会内容の教育実習録への記録
	7	教科別反省会	教育実習反省録の作成と提出
	8	教育実習録の返却とまとめ	教育実習録の指摘事項の修正
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは使用しない。適宜、資料を配付する。参考文献は、(1) 教育実習校選定方法説明会資料、(2) 『教育実習の手引き』。</p>
-------	---

学びの手立て	<p>各オリエンテーションの日程については、教育実習校選定方法説明会で配布された日程表を参考にすること。ただし、変更の場合があるので、大学からの連絡を必ず確認すること。また、オリエンテーションにおける学習内容を忘れずに「教育実習録」に記入し、各自振り返りをしておくこと。</p>
--------	---

評価	<p>到達目標 (1) の評価：教育実習録の記載内容 (30%) 到達目標 (2) の評価：教科別オリエンテーションでの取り組み内容 (15%) 到達目標 (3) の評価：中間懇談会、教科別反省会での取り組み内容 (15%) / 教育実習反省録の提出 (15%) 到達目標 (4) の評価：中間懇談会での取り組み内容 (15%) 到達目標 (5) の評価：各回における取り組み内容 (15%)</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>教職実践演習</p>
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の思想と原則	後期	火6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	1年		

学びの準備	ねらい おもに歴史的な観点から、近代公教育理念・原則の意義とその実現をめぐる問題について取り扱う。近代において生み出された公教育の理念・原則が、資本主義の展開のもとでいかなる運命を辿っていったのかを歴史的に整理することを通じ、教職を志す者が今後考えていくべき課題を模索する。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1 インTRODクシヨン 2 近代以前の教育思想（1）—諸外国 3 近代以前の教育思想（2）—日本 4 近代教育の成り立ちと変遷（1）—市民社会の理念と公教育 5 近代教育の成り立ちと変遷（2）—市民社会の現実と公教育 6 近代教育の成り立ちと変遷（3）—市民社会の構造転換と公教育 7 近代教育の成り立ちと変遷（4）—帝国主義下における公教育 8 近代教育の成り立ちと変遷（5）—戦前・戦中の日本の教育① 9 近代教育の成り立ちと変遷（6）—戦前・戦中の日本の教育② 10 戦後日本の教育（1）—戦後教育改革 11 戦後日本の教育（2）—冷戦構造と教育① 12 戦後日本の教育（3）—冷戦構造と教育② 13 戦後日本の教育（4）—経済成長と教育 14 今日における教育の課題（1） 15 今日における教育の課題（2） 16 定期試験
	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。参考文献については授業中に適宜紹介する。
	学びの手立て
	評価 受講態度、小レポートの提出状況およびその内容、期末試験の結果によって総合的に評価する。なお、5回以上欠席した場合は、期末試験の受験を認めない。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の思想と原則	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安原 陽平	1年	E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義のねらいは、「教育はどういった考え方に基づいて進められるべきか」「教育はどういった考え方に基づいて進められているか」ということを、様々な学説や事案を通して考察し、教育の思想と原則に関する自分自身の考えを持てるようにすることです。</p>	<p>「教育」「思想」「原則」と聞くと、なんだか難しそうなことを扱うのではないかと不安になったりする学生もいるのではないかと思います。しかし、教育は、とても身近な存在です。最初は難しいかもしれませんが、自分自身の教育観をつくることができるように主体的に取り組んでください。この講義の時間が有意義な時間となるよう、お互いに頑張りましょう。</p>
到達目標	<p>①教育の思想と原則を考える上で重要な時事的あるいは歴史的な教育問題について理解を深めること。 ②時事的あるいは歴史的な教育問題は、これまでどのように考察されてきたかについて理解を深めること。 ③①および②を踏まえて、教育の思想と原則に関する自分自身の考えを持つこと。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	教育の歴史	講義内で挙げた参考文献の閲読
	3	学校の歴史	教育と学校に関する文献の閲読
	4	教育における子ども・親	関連文献の閲読
	5	教育における教師・教育行政等	関連文献の閲読
	6	映画鑑賞（教育に関する映画）	これまでの復習
	7	国旗国歌問題	国旗国歌問題に関する文献の閲読
8	道徳の教科化をめぐる問題	道徳教科化に関する文献の閲読	
9	憲法教育 主権者教育 シチズンシップ教育	主権者教育に関する文献の閲読	
10	いじめをめぐる諸問題	いじめ問題に関する文献の閲読	
11	教育と貧困	教育と貧困に関する文献の閲読	
12	教育と性別 LGBT	関連文献の閲読	
13	インクルーシブ教育	関連文献の閲読	
14	権利としての教育	これまでのまとめをおこなう	
15	教育の自由とは	自分自身の考えをまとめる	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>○テキスト 特定のテキストは使用せず、配付レジュメに沿って講義をおこないます。</p> <p>○参考文献 テーマが多岐にわたるため、参考文献は講義内で適宜紹介します。</p>		
学びの手立て	<p>○履修の心構え 講義開始時の知識量は問いません。少しでも成長しようという意思をもって講義に臨んでください。早く講義を受けられるように、学びやすい環境をお互いに協力してつくりましょう。また、一方的に講義をするのではなく、意見も求めます。特定の問題に対して自分はどう考えるのかということ意識しながら、主体的に講義に参加してください。</p> <p>※講義の進度や学生の理解度によって、スケジュールを変更する場合がありますので、その点注意してください。</p>		
評価	<p>○平常点およびコメントペーパー（30%） 講義内で、意見や感想等のコメントペーパーの提出を求めます。</p> <p>○試験（70%） 試験の詳細は講義内でお伝えします。評価基準は、到達目標①②③が中心となります。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>教育に関わる他の講義を受講する際、本講義を通して獲得した教育の思想と原則に関する自分自身の考えの長所・短所を確認してみてください。他の講義の受講を通して、自身の考えを補強し、修正し、より良いものへと発展できるように努めましょう。とくに、将来教職に就くことを希望している学生は、自分自身の教育観をしっかりとして持てるように学びを続けてください。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の思想と原則	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	1年		

学びの準備	ねらい おもに歴史的な観点から、近代公教育理念・原則の意義とその実現をめぐる問題について取り扱う。近代において生み出された公教育の理念・原則が、資本主義の展開のもとでいかなる運命を辿っていったのかを歴史的に整理することを通じ、教職を志す者が今後考えていくべき課題を模索する。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1 インTRODクシヨン 2 近代以前の教育思想（1）—諸外国 3 近代以前の教育思想（2）—日本 4 近代教育の成り立ちと変遷（1）—市民社会の理念と公教育 5 近代教育の成り立ちと変遷（2）—市民社会の現実と公教育 6 近代教育の成り立ちと変遷（3）—市民社会の構造転換と公教育 7 近代教育の成り立ちと変遷（4）—帝国主義下における公教育 8 近代教育の成り立ちと変遷（5）—戦前・戦中の日本の教育① 9 近代教育の成り立ちと変遷（6）—戦前・戦中の日本の教育② 10 戦後日本の教育（1）—戦後教育改革 11 戦後日本の教育（2）—冷戦構造と教育① 12 戦後日本の教育（3）—冷戦構造と教育② 13 戦後日本の教育（4）—経済成長と教育 14 今日における教育の課題（1） 15 今日における教育の課題（2） 16 定期試験
	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。参考文献については授業中に適宜紹介する。
	学びの手立て
	評価 受講態度、小レポートの提出状況およびその内容、期末試験の結果によって総合的に評価する。なお、5回以上欠席した場合は、期末試験の受験を認めない。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の思想と原則	前期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安原 陽平	1年	E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義のねらいは、「教育はどういった考え方に基づいて進められるべきか」「教育はどういった考え方に基づいて進められているか」ということを、様々な学説や事案を通して考察し、教育の思想と原則に関する自分自身の考えを持てるようにすることです。</p>	<p>「教育」「思想」「原則」と聞くと、なんだか難しそうなことを扱うのではないかと不安になったりする学生もいるのではないかと思います。しかし、教育は、とても身近な存在です。最初は難しいかもしれませんが、自分自身の教育観をつくることができるように主体的に取り組んでください。この講義の時間が有意義な時間となるよう、お互いに頑張りましょう。</p>
到達目標	<p>①教育の思想と原則を考える上で重要な時事的あるいは歴史的な教育問題について理解を深めること。 ②時事的あるいは歴史的な教育問題は、これまでどのように考察されてきたかについて理解を深めること。 ③①および②を踏まえて、教育の思想と原則に関する自分自身の考えを持つこと。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	教育の歴史	講義内で挙げた参考文献の閲読
	3	学校の歴史	教育と国家に関する文献の閲読
	4	教育における子ども・親	教育権論に関する文献の閲読
	5	教育における教師・教育行政等	親の教育権論に関する文献の閲読
	6	映画鑑賞（教育に関する映画）	関連文献の閲読
	7	国旗国歌問題	これまでの復習
8	道徳の教科化をめぐる問題	国旗国歌問題に関する文献の閲読	
9	憲法教育 主権者教育 シチズンシップ教育	道徳教科化に関する文献の閲読	
10	いじめをめぐる諸問題	主権者教育に関する文献の閲読	
11	教育と貧困	教育と貧困に関する文献の閲読	
12	教育と性別 LGBT	関連文献の閲読	
13	インクルーシブ教育	関連文献の閲読	
14	権利としての教育	これまでのまとめをおこなう	
15	教育の自由とは	自分自身の考えをまとめる	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>○テキスト 特定のテキストは使用せず、配付レジュメに沿って講義をおこないます。</p> <p>○参考文献 テーマが多岐にわたるため、参考文献は講義内で適宜紹介します。</p>		
学びの手立て	<p>○履修の心構え 講義開始時の知識量は問いません。少しでも成長しようという意思をもって講義に臨んでください。早く講義を受けられるように、学びやすい環境をお互いに協力してつくります。また、一方的に講義をするのではなく、意見も求めます。特定の問題に対して自分はどう考えるのかということ意識しながら、主体的に講義に参加してください。</p> <p>※講義の進度や学生の理解度によって、スケジュールを変更する場合がありますので、その点注意してください。</p>		
評価	<p>○平常点およびコメントペーパー（30%） 講義内で、意見や感想等のコメントペーパーの提出を求めます。</p> <p>○試験（70%） 試験の詳細は講義内でお伝えします。評価基準は、到達目標①②③が中心となります。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>教育に関わる他の講義を受講する際、本講義を通して獲得した教育の思想と原則に関する自分自身の考えの長所・短所を確認してみてください。他の講義の受講を通して、自身の考えを補強し、修正し、より良いものへと発展できるように努めましょう。とくに、将来教職に就くことを希望している学生は、自分自身の教育観をしっかりとして持てるように学びを続けてください。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の思想と原則	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安原 陽平	1年	E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義のねらいは、「教育はどういった考え方に基づいて進められるべきか」「教育はどういった考え方に基づいて進められているか」ということを、様々な学説や事案を通して考察し、教育の思想と原則に関する自分自身の考えを持てるようにすることです。</p>	<p>「教育」「思想」「原則」と聞くと、なんだか難しそうなことを扱うのではないかと不安になったりする学生もいるのではないかと思います。しかし、教育は、とても身近な存在です。最初は難しいかもしれませんが、自分自身の教育観をつくることができるように主体的に取り組んでください。この講義の時間が有意義な時間となるよう、お互いに頑張りましょう。</p>
到達目標	<p>①教育の思想と原則を考える上で重要な時事的あるいは歴史的な教育問題について理解を深めること。 ②時事的あるいは歴史的な教育問題は、これまでどのように考察されてきたかについて理解を深めること。 ③①および②を踏まえて、教育の思想と原則に関する自分自身の考えを持つこと。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	教育思想に関する概説	講義内で挙げた参考文献の閲読
	3	教育と国家	教育と国家に関する文献の閲読
	4	国民の教育権論と国家の教育権論	教育権論に関する文献の閲読
	5	親の教育権論	親の教育権論に関する文献の閲読
	6	教師と生徒の関係性	関連文献の閲読
	7	映画鑑賞（教育に関する映画）	これまでの復習
	8	国旗国歌問題	国旗国歌問題に関する文献の閲読
	9	道徳の教科化をめぐる問題	道徳教科化に関する文献の閲読
	10	憲法教育 主権者教育 シチズンシップ教育	主権者教育に関する文献の閲読
	11	教育と貧困	教育と貧困に関する文献の閲読
	12	教育と性別 LGBT	関連文献の閲読
	13	インクルーシブ教育	関連文献の閲読
	14	権利としての教育	これまでのまとめをおこなう
15	教育の自由とは	自分自身の考えをまとめる	
16	試験		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>○テキスト 特定のテキストは使用せず、配付レジュメに沿って講義をおこないます。</p> <p>○参考文献 テーマが多岐にわたるため、参考文献は講義内で適宜紹介します。</p>
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>○履修の心構え 講義開始時の知識量は問いません。少しでも成長しようという意思をもって講義に臨んでください。早く講義を受けられるように、学びやすい環境をお互いに協力してつくりましょう。また、一方的に講義をするのではなく、意見も求めます。特定の問題に対して自分はどう考えるのかということ意識しながら、主体的に講義に参加してください。</p> <p>※講義の進度や学生の理解度によって、スケジュールを変更する場合がありますので、その点注意してください。</p>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>○平常点およびコメントペーパー（30%） 講義内で、意見や感想等のコメントペーパーの提出を求めます。</p> <p>○試験（70%） 試験の詳細は講義内でお伝えします。評価基準は、到達目標①②③が中心となります。</p>
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>教育に関わる他の講義を受講する際、本講義を通して獲得した教育の思想と原則に関する自分自身の考えの長所・短所を確認してください。他の講義の受講を通して、自身の考えを補強し、修正し、より良いものへと発展できるように努めましょう。とくに、将来教職に就くことを希望している学生は、自分自身の教育観をしっかりとして持てるように学びを続けてください。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の思想と原則	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安原 陽平	1年	E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義のねらいは、「教育はどういった考え方に基づいて進められるべきか」「教育はどういった考え方に基づいて進められているか」ということを、様々な学説や事案を通して考察し、教育の思想と原則に関する自分自身の考えを持てるようにすることです。</p>	<p>「教育」「思想」「原則」と聞くと、なんだか難しそうなことを扱うのではないかと不安になったりする学生もいるのではないかと思います。しかし、教育は、とても身近な存在です。最初は難しいかもしれませんが、自分自身の教育観をつくることができるように主体的に取り組んでください。この講義の時間が有意義な時間となるよう、お互いに頑張りましょう。</p>
到達目標	<p>①教育の思想と原則を考える上で重要な時事的あるいは歴史的な教育問題について理解を深めること。 ②時事的あるいは歴史的な教育問題は、これまでどのように考察されてきたかについて理解を深めること。 ③①および②を踏まえて、教育の思想と原則に関する自分自身の考えを持つこと。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	教育の歴史	講義内で挙げた参考文献の閲読
	3	学校の歴史	教育と学校に関する文献の閲読
	4	教育における子ども・親	関連文献の閲読
	5	教育における教師・教育行政等	関連文献の閲読
	6	映画鑑賞（教育に関する映画）	これまでの復習
	7	国旗国歌問題	国旗国歌問題に関する文献の閲読
8	道徳の教科化をめぐる問題	道徳教科化に関する文献の閲読	
9	憲法教育 主権者教育 シチズンシップ教育	主権者教育に関する文献の閲読	
10	いじめをめぐる諸問題	いじめ問題に関する文献の閲読	
11	教育と貧困	教育と貧困に関する文献の閲読	
12	教育と性別 LGBT	関連文献の閲読	
13	インクルーシブ教育	関連文献の閲読	
14	権利としての教育	これまでのまとめをおこなう	
15	教育の自由とは	自分自身の考えをまとめる	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>○テキスト 特定のテキストは使用せず、配付レジュメに沿って講義をおこないます。</p> <p>○参考文献 テーマが多岐にわたるため、参考文献は講義内で適宜紹介します。</p>		
学びの手立て	<p>○履修の心構え 講義開始時の知識量は問いません。少しでも成長しようという意思をもって講義に臨んでください。早く講義を受けられるように、学びやすい環境をお互いに協力してつくりましょう。また、一方的に講義をするのではなく、意見も求めます。特定の問題に対して自分はどう考えるのかということ意識しながら、主体的に講義に参加してください。</p> <p>※講義の進度や学生の理解度によって、スケジュールを変更する場合がありますので、その点注意してください。</p>		
評価	<p>○平常点およびコメントペーパー（30%） 講義内で、意見や感想等のコメントペーパーの提出を求めます。</p> <p>○試験（70%） 試験の詳細は講義内でお伝えします。評価基準は、到達目標①②③が中心となります。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>教育に関わる他の講義を受講する際、本講義を通して獲得した教育の思想と原則に関する自分自身の考えの長所・短所を確認してみてください。他の講義の受講を通して、自身の考えを補強し、修正し、より良いものへと発展できるように努めましょう。とくに、将来教職に就くことを希望している学生は、自分自身の教育観をしっかりとして持てるように学びを続けてください。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の制度	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安原 陽平	1年	E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義のねらいは、日本における公教育の仕組みと運用について理解し、長所および短所を自分自身で考察できるようになることです。教育に関心のある学生、とりわけ将来教職に就くことを希望している学生にとっては、公教育制度とその運用についての理解は必須と言えます。</p>	<p>日本の公教育の仕組みについて理解し、その長所と短所を検討していきます。これまでの議論を参考にしながら、お互いに頭を悩ませて考えていきましょう。</p>
到達目標	<p>①日本の公教育制度について理解を深めること。 ②日本の公教育制度について、これまで学説・裁判所・行政はどのように考えてきたのかを知ること。 ③①および②を踏まえて、日本の公教育制度について、自分自身の評価をおこなえるようになること。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	教育を受ける権利 学習権	テキスト指定箇所閲読
	3	教育基本法の構造	テキスト指定箇所閲読
	4	新・旧教育基本法の比較	テキスト指定箇所閲読
	5	学校教育法の構造	テキスト指定箇所閲読
	6	教科書検定 教科書採択 教科書使用義務	テキスト指定箇所閲読
	7	懲戒と体罰	テキスト指定箇所閲読
	8	校則裁判①	テキスト指定箇所閲読
	9	校則裁判②	テキスト指定箇所閲読
	10	児童・生徒の市民的自由	テキスト指定箇所閲読
	11	いじめ裁判 いじめ防止対策推進法	テキスト指定箇所閲読
	12	学校事故—国家賠償法—	テキスト指定箇所閲読
	13	教師の地位—地方公務員法 教育公務員特例法—	テキスト指定箇所閲読
14	教育委員会について—地方教育行政法—	テキスト指定箇所閲読	
15	教師の教育の自由について	テキスト指定箇所閲読	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>○テキスト 姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法 新訂版』（2015年、三省堂）2800円＋税を使用します。ただし、テキストを最初から最後までなぞるように講義をするわけではありません。上記スケジュールに沿って、テキストの該当箇所を参照しながら、配付レジュメ等で情報を整理・追加していきます。また、復習が出来るように講義の最後にテキストの指定箇所を閲読するようにアドバイスします。</p> <p>○参考文献 テーマが多岐にわたるため、参考文献は講義内で適宜紹介します。</p>		
学びの手立て	<p>○履修の心構え 講義開始時の知識量は問いません。少しでも成長しようという意思をもって講義に臨んでください。早く講義を受けられるように、学びやすい環境をお互いに協力してつくりましょう。また、一方的に講義をするのではなく、意見も求めます。特定の問題に対して自分はどう考えるのかということ意識しながら、主体的に講義に参加してください。</p> <p>※講義の進度や学生の理解度によって、スケジュールを変更する場合がありますので、その点注意してください。</p>		
評価	<p>○平常点およびコメントペーパー（30%） 講義内で感想等のコメントペーパーの提出を求めます。</p> <p>○試験（70%） 試験の詳細は講義内でお伝えします。評価基準は、到達目標①②③が中心となります。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>公教育の制度と運用という視点を、他の領域を学ぶ際にも活かしてください。政治、経済、福祉などが、どのような制度のもと、いかにすすめられているのかを理解する際に、本講義で得た視点は参考になります。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の制度	後期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安原 陽平	1年	E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義のねらいは、日本における公教育の仕組みと運用について理解し、長所および短所を自分自身で考察できるようになることです。教育に関心のある学生、とりわけ将来教職に就くことを希望している学生にとっては、公教育制度とその運用についての理解は必須と言えます。</p>	<p>日本の公教育の仕組みについて理解し、その長所と短所を検討していきます。これまでの議論を参考にしながら、お互いに頭を悩ませて考えていきましょう。</p>
到達目標	<p>①日本の公教育制度について理解を深めること。 ②日本の公教育制度について、これまで学説・裁判所・行政はどのように考えてきたのかを知ること。 ③①および②を踏まえて、日本の公教育制度について、自分自身の評価をおこなえるようになること。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	教育を受ける権利 学習権	テキスト指定箇所閲読
	3	教育基本法の構造	テキスト指定箇所閲読
	4	新・旧教育基本法の比較	テキスト指定箇所閲読
	5	学校教育法の構造	テキスト指定箇所閲読
	6	教科書検定 教科書採択 教科書使用義務	テキスト指定箇所閲読
	7	懲戒と体罰	テキスト指定箇所閲読
	8	校則裁判①	テキスト指定箇所閲読
	9	校則裁判②	テキスト指定箇所閲読
	10	児童・生徒の市民的自由	テキスト指定箇所閲読
	11	いじめ裁判 いじめ防止対策推進法	テキスト指定箇所閲読
	12	学校事故—国家賠償法—	テキスト指定箇所閲読
	13	教師の地位—地方公務員法 教育公務員特例法—	テキスト指定箇所閲読
14	教育委員会について—地方教育行政法—	テキスト指定箇所閲読	
15	教師の教育の自由について	テキスト指定箇所閲読	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>○テキスト 姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法 新訂版』（2015年、三省堂）2800円＋税を使用します。ただし、テキストを最初から最後までなぞるように講義をするわけではありません。上記スケジュールに沿って、テキストの該当箇所を参照しながら、配付レジュメ等で情報を整理・追加していきます。また、復習が出来るように講義の最後にテキストの指定箇所を閲読するようにアドバイスします。</p> <p>○参考文献 テーマが多岐にわたるため、参考文献は講義内で適宜紹介します。</p>		
学びの手立て	<p>○履修の心構え 講義開始時の知識量は問いません。少しでも成長しようという意思をもって講義に臨んでください。早く講義を受けられるように、学びやすい環境をお互いに協力してつくきましょう。また、一方的に講義をするのではなく、意見も求めます。特定の問題に対して自分はどう考えるのかということ意識しながら、主体的に講義に参加してください。</p> <p>※講義の進度や学生の理解度によって、スケジュールを変更する場合がありますので、その点注意してください。</p>		
評価	<p>○平常点およびコメントペーパー（30%） 講義内で感想等のコメントペーパーの提出を求めます。</p> <p>○試験（70%） 試験の詳細は講義内でお伝えします。評価基準は、到達目標①②③が中心となります。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>公教育の制度と運用という視点を、他の領域を学ぶ際にも活かしてください。政治、経済、福祉などが、どのような制度のもと、いかにすすめられているのかを理解する際に、本講義で得た視点は参考になります。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の制度	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安原 陽平	1年	E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義のねらいは、日本における公教育の仕組みと運用について理解し、長所および短所を自分自身で考察できるようになることです。教育に関心のある学生、とりわけ将来教職に就くことを希望している学生にとっては、公教育制度とその運用についての理解は必須と言えます。</p>	<p>日本の公教育の仕組みについて理解し、その長所と短所を検討していきます。これまでの議論を参考にしながら、お互いに頭を悩ませて考えていきましょう。</p>
到達目標	<p>①日本の公教育制度について理解を深めること。 ②日本の公教育制度について、これまで学説・裁判所・行政はどのように考えてきたのかを知ること。 ③①および②を踏まえて、日本の公教育制度について、自分自身の評価をおこなえるようになること。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	教育を受ける権利 学習権	テキスト指定箇所閲読
	3	教育基本法の構造	テキスト指定箇所閲読
	4	新・旧教育基本法の比較	テキスト指定箇所閲読
	5	学校教育法の構造	テキスト指定箇所閲読
	6	教科書検定 教科書採択 教科書使用義務	テキスト指定箇所閲読
	7	懲戒と体罰	テキスト指定箇所閲読
	8	校則裁判①	テキスト指定箇所閲読
	9	校則裁判②	テキスト指定箇所閲読
	10	児童・生徒の市民的自由	テキスト指定箇所閲読
	11	いじめ裁判 いじめ防止対策推進法	テキスト指定箇所閲読
	12	学校事故—国家賠償法—	テキスト指定箇所閲読
	13	教師の地位—地方公務員法 教育公務員特例法—	テキスト指定箇所閲読
14	教育委員会について—地方教育行政法—	テキスト指定箇所閲読	
15	教師の教育の自由について	テキスト指定箇所閲読	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>○テキスト 姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法 新訂版』（2015年、三省堂）2800円＋税を使用します。ただし、テキストを最初から最後までなぞるように講義をするわけではありません。上記スケジュールに沿って、テキストの該当箇所を参照しながら、配付レジュメ等で情報を整理・追加していきます。また、復習が出来るように講義の最後にテキストの指定箇所を閲読するようにアドバイスします。</p> <p>○参考文献 テーマが多岐にわたるため、参考文献は講義内で適宜紹介します。</p>		
学びの手立て	<p>○履修の心構え 講義開始時の知識量は問いません。少しでも成長しようという意思をもって講義に臨んでください。早く講義を受けられるように、学びやすい環境をお互いに協力してつくきましょう。また、一方的に講義をするのではなく、意見も求めます。特定の問題に対して自分はどう考えるのかということ意識しながら、主体的に講義に参加してください。</p> <p>※講義の進度や学生の理解度によって、スケジュールを変更する場合がありますので、その点注意してください。</p>		
評価	<p>○平常点およびコメントペーパー（30%） 講義内で感想等のコメントペーパーの提出を求めます。</p> <p>○試験（70%） 試験の詳細は講義内でお伝えします。評価基準は、到達目標①②③が中心となります。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>公教育の制度と運用という視点を、他の領域を学ぶ際にも活かしてください。政治、経済、福祉などが、どのような制度のもと、いかにすすめられているのかを理解する際に、本講義で得た視点は参考になります。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の制度	前期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安原 陽平	1年	E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義のねらいは、日本における公教育の仕組みと運用について理解し、長所および短所を自分自身で考察できるようになることです。教育に関心のある学生、とりわけ将来教職に就くことを希望している学生にとっては、公教育制度とその運用についての理解は必須と言えます。</p>	<p>日本の公教育の仕組みについて理解し、その長所と短所を検討していきます。これまでの議論を参考にしながら、お互いに頭を悩ませて考えていきましょう。</p>
到達目標	<p>①日本の公教育制度について理解を深めること。 ②日本の公教育制度について、これまで学説・裁判所・行政はどのように考えてきたのかを知ること。 ③①および②を踏まえて、日本の公教育制度について、自分自身の評価をおこなえるようになること。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	教育を受ける権利 学習権	テキスト指定箇所閲読
	3	教育基本法の構造	テキスト指定箇所閲読
	4	新・旧教育基本法の比較	テキスト指定箇所閲読
	5	学校教育法の構造	テキスト指定箇所閲読
	6	教科書検定 教科書採択 教科書使用義務	テキスト指定箇所閲読
	7	懲戒と体罰	テキスト指定箇所閲読
	8	校則裁判①	テキスト指定箇所閲読
	9	校則裁判②	テキスト指定箇所閲読
	10	児童・生徒の市民的自由	テキスト指定箇所閲読
	11	いじめ裁判 いじめ防止対策推進法	テキスト指定箇所閲読
	12	学校事故—国家賠償法—	テキスト指定箇所閲読
	13	教師の地位—地方公務員法 教育公務員特例法—	テキスト指定箇所閲読
14	教育委員会について—地方教育行政法—	テキスト指定箇所閲読	
15	教師の教育の自由について	テキスト指定箇所閲読	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>○テキスト 姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法 新訂版』（2015年、三省堂）2800円＋税を使用します。ただし、テキストを最初から最後までなぞるように講義をするわけではありません。上記スケジュールに沿って、テキストの該当箇所を参照しながら、配付レジュメ等で情報を整理・追加していきます。また、復習が出来るように講義の最後にテキストの指定箇所を閲読するようにアドバイスします。</p> <p>○参考文献 テーマが多岐にわたるため、参考文献は講義内で適宜紹介します。</p>		
学びの手立て	<p>○履修の心構え 講義開始時の知識量は問いません。少しでも成長しようという意思をもって講義に臨んでください。早く講義を受けられるように、学びやすい環境をお互いに協力してつくきましょう。また、一方的に講義をするのではなく、意見も求めます。特定の問題に対して自分はどう考えるのかということ意識しながら、主体的に講義に参加してください。</p> <p>※講義の進度や学生の理解度によって、スケジュールを変更する場合がありますので、その点注意してください。</p>		
評価	<p>○平常点およびコメントペーパー（30%） 講義内で感想等のコメントペーパーの提出を求めます。</p> <p>○試験（70%） 試験の詳細は講義内でお伝えします。評価基準は、到達目標①②③が中心となります。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>公教育の制度と運用という視点を、他の領域を学ぶ際にも活かしてください。政治、経済、福祉などが、どのような制度のもと、いかにすすめられているのかを理解する際に、本講義で得た視点は参考になります。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の制度	前期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安原 陽平	1年	E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義のねらいは、日本における公教育の仕組みと運用について理解し、長所および短所を自分自身で考察できるようになることです。教育に関心のある学生、とりわけ将来教職に就くことを希望している学生にとっては、公教育制度とその運用についての理解は必須と言えます。</p>	<p>日本の公教育の仕組みについて理解し、その長所と短所を検討していきます。これまでの議論を参考にしながら、お互いに頭を悩ませて考えていきましょう。</p>
到達目標	<p>①日本の公教育制度について理解を深めること。 ②日本の公教育制度について、これまで学説・裁判所・行政はどのように考えてきたのかを知ること。 ③①および②を踏まえて、日本の公教育制度について、自分自身の評価をおこなえるようになること。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	教育を受ける権利 学習権	テキスト指定箇所閲読
	3	教育基本法の構造	テキスト指定箇所閲読
	4	新・旧教育基本法の比較	テキスト指定箇所閲読
	5	学校教育法の構造	テキスト指定箇所閲読
	6	教科書検定 教科書採択 教科書使用義務	テキスト指定箇所閲読
	7	懲戒と体罰	テキスト指定箇所閲読
	8	校則裁判①	テキスト指定箇所閲読
	9	校則裁判②	テキスト指定箇所閲読
	10	児童・生徒の市民的自由	テキスト指定箇所閲読
	11	いじめ裁判 いじめ防止対策推進法	テキスト指定箇所閲読
	12	学校事故—国家賠償法—	テキスト指定箇所閲読
	13	教師の地位—地方公務員法 教育公務員特例法—	テキスト指定箇所閲読
14	教育委員会について—地方教育行政法—	テキスト指定箇所閲読	
15	教師の教育の自由について	テキスト指定箇所閲読	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>○テキスト 姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法 新訂版』（2015年、三省堂）2800円＋税を使用します。ただし、テキストを最初から最後までなぞるように講義をするわけではありません。上記スケジュールに沿って、テキストの該当箇所を参照しながら、配付レジュメ等で情報を整理・追加していきます。また、復習が出来るように講義の最後にテキストの指定箇所を閲読するようにアドバイスします。</p> <p>○参考文献 テーマが多岐にわたるため、参考文献は講義内で適宜紹介します。</p>		
学びの手立て	<p>○履修の心構え 講義開始時の知識量は問いません。少しでも成長しようという意思をもって講義に臨んでください。早く講義を受けられるように、学びやすい環境をお互いに協力してつくりましょう。また、一方的に講義をするのではなく、意見も求めます。特定の問題に対して自分はどう考えるのかということ意識しながら、主体的に講義に参加してください。</p> <p>※講義の進度や学生の理解度によって、スケジュールを変更する場合がありますので、その点注意してください。</p>		
評価	<p>○平常点およびコメントペーパー（30%） 講義内で感想等のコメントペーパーの提出を求めます。</p> <p>○試験（70%） 試験の詳細は講義内でお伝えします。評価基準は、到達目標①②③が中心となります。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>公教育の制度と運用という視点を、他の領域を学ぶ際にも活かしてください。政治、経済、福祉などが、どのような制度のもと、いかにすすめられているのかを理解する際に、本講義で得た視点は参考になります。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育の制度	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安原 陽平	1年	E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義のねらいは、日本における公教育の仕組みと運用について理解し、長所および短所を自分自身で考察できるようになることです。教育に関心のある学生、とりわけ将来教職に就くことを希望している学生にとっては、公教育制度とその運用についての理解は必須と言えます。</p>	<p>日本の公教育の仕組みについて理解し、その長所と短所を検討していきます。これまでの議論を参考にしながら、お互いに頭を悩ませて考えていきましょう。</p>
到達目標	<p>①日本の公教育制度について理解を深めること。 ②日本の公教育制度について、これまで学説・裁判所・行政はどのように考えてきたのかを知ること。 ③①および②を踏まえて、日本の公教育制度について、自分自身の評価をおこなえるようになること。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	教育を受ける権利 学習権	テキスト指定箇所閲読
	3	教育基本法の構造	テキスト指定箇所閲読
	4	新・旧教育基本法の比較	テキスト指定箇所閲読
	5	学校教育法の構造	テキスト指定箇所閲読
	6	教科書検定 教科書採択 教科書使用義務	テキスト指定箇所閲読
	7	懲戒と体罰	テキスト指定箇所閲読
	8	校則裁判①	テキスト指定箇所閲読
	9	校則裁判②	テキスト指定箇所閲読
	10	児童・生徒の市民的自由	テキスト指定箇所閲読
	11	いじめ裁判 いじめ防止対策推進法	テキスト指定箇所閲読
	12	学校事故—国家賠償法—	テキスト指定箇所閲読
	13	教師の地位—地方公務員法 教育公務員特例法—	テキスト指定箇所閲読
14	教育委員会について—地方教育行政法—	テキスト指定箇所閲読	
15	教師の教育の自由について	テキスト指定箇所閲読	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>○テキスト 姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法 新訂版』（2015年、三省堂）2800円＋税を使用します。ただし、テキストを最初から最後までなぞるように講義をするわけではありません。上記スケジュールに沿って、テキストの該当箇所を参照しながら、配付レジュメ等で情報を整理・追加していきます。また、復習が出来るように講義の最後にテキストの指定箇所を閲読するようにアドバイスします。</p> <p>○参考文献 テーマが多岐にわたるため、参考文献は講義内で適宜紹介します。</p>		
学びの手立て	<p>○履修の心構え 講義開始時の知識量は問いません。少しでも成長しようという意思をもって講義に臨んでください。早く講義を受けられるように、学びやすい環境をお互いに協力してつくきましょう。また、一方的に講義をするのではなく、意見も求めます。特定の問題に対して自分はどう考えるのかということ意識しながら、主体的に講義に参加してください。</p> <p>※講義の進度や学生の理解度によって、スケジュールを変更する場合がありますので、その点注意してください。</p>		
評価	<p>○平常点およびコメントペーパー（30%） 講義内で感想等のコメントペーパーの提出を求めます。</p> <p>○試験（70%） 試験の詳細は講義内でお伝えします。評価基準は、到達目標①②③が中心となります。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>公教育の制度と運用という視点を、他の領域を学ぶ際にも活かしてください。政治、経済、福祉などが、どのような制度のもと、いかにすすめられているのかを理解する際に、本講義で得た視点は参考になります。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

教育職員免許法に定める「教職に関する科目」の「教職の意義等に関する科目」（2単位）の内の初年次用を内容とする科目。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職研究 I	前期	水 3	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	三村 和則	1年	研究室番号：5505 E-mail：mimura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	教育職員免許法では「教職の意義等に関する科目」(2単位)の内容を①教職の意義及び教員の役割②進路選択に資する各種の機会の提供③教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。)と定めている。この科目は教職課程初年時に1単位として編成しており、①と②を主な内容としている。なお残りの1単位分は、3年次用に「教職研究Ⅱ」として開設している。	ようこそ沖縄国際大学教職課程へ。教員免許状取得希望者は必ずこの科目から受講してください。

到達目標	沖繩国際大学の教職課程の履修方法、現代社会で求められる教員の資質と能力ならびにわが国の教員養成の歴史と諸外国の教員養成制度についての知識・理解が身につく。自分自身の現在の職業興味と教師を目指すために必要な課題についての自己認識が深まる。よい教師とは何かについての思考力・判断力が身につく。これらを通して教職課程を受講することへの関心・意欲・態度が形成される。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス/先発・後発クラス分け / 課題レポート提示(「なぜ、教師をめざすのか」)	「なぜ、教師をめざすのか」書く☆
	2	教職課程の履修方法について(『履修ガイド』の解説) 1 教職に関する科目 他	『履修ガイド』教職課程の章精読
	3	教職課程の履修方法について(『履修ガイド』の解説) 2 教科に関する科目、その他の指定科目 他	同上、履修計画作成☆
	4	教員養成カリキュラム改編の背景と今日の教師に求められる資質と能力	資料教養審答申とpp. 7-9精読
	5	教職実践演習について / 教職適性検査(V P I 職業興味検査と自己判定)	資料中教審答申とpp. 10-11精読
	6	教員養成の歴史(戦前の閉鎖制養成と戦後の開放制養成)・世界の教員養成	ライフプラン作成☆
	7	履修カルテについて / よい教師への道 1 (履修計画、ライフプラン)	祖父母又は曾祖父母の学校調べ
	8	よい教師への道 2 (公務員と教員、自主研修) / 課題レポート提示(「再びなぜ教師をめざすのか」)	資料合格体験記とpp. 28-32精読
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：『履修ガイド』、配付する資料集。 主要参考文献：①上地・西本編『沖縄で教師をめざす人のために』協同出版、2015年。②赤星晋作他編著『学校教師の探求』学文社、2001年。③教養審第1次答申『新たな時代に向けた教員養成の改善方策について』1997年。④中教審答申『今後の教員養成・免許制度の在り方について』2006年。
----	--

学びの手立て	①履修の心構え：抽選の場合でも他のクラスで必ず受講できるようにするので、必ず相談に来ること。1単位科目なので8週で終了する。そのため受講者数の関係で、前期は先発クラスと後発クラスに分ける。先発クラスは4～6月、後発クラスは6～7月が受講期間の目安である。後期は先発クラスだけの開講となり、12月初旬に終了予定である。 教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。 ②学びを深めるために：毎回の講義を受講し理解することは当然であるが、講義時間内だけでは到達目標を達成するには至らないため、指定された時間外学習は必ず行うこと。
--------	--

評価	5件提出物がある。最後の提出物(「再び、なぜ教師をめざすのか」)で、まず仮の評価を決める。決め方は、8回の講義内容の要点となる用語の出現が6回分以上は優、4回分と5回分は良、3回分は可、2回分以下は不可とする。その後、この評価を他の4件の提出物の件数とクロスさせ最終の評価とする。4件の場合1ランク上、3件の場合そのまま、2件の場合1ランク下の評価とする。但し、1件以下の場合は不可の評価とする。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 本学教職課程の中の「教職に関する科目」には「履修階梯」があり、その最初の科目がこの科目である。この科目を履修することで次の段階の科目である「教育の思想と原則」と「教育心理学」を受講することができる。「教職の意義等に関する科目」(2単位)のもう1単位分については3年次用科目として『教職研究Ⅱ』を開設している。
-------	---

※ポリシーとの関連性

教育職員免許法に定める「教職に関する科目」の「教職の意義等に関する科目」（2単位）の内の初年次用を内容とする科目。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職研究 I	後期	月 5	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	三村 和則	1年	研究室番号：5505 E-mail：mimura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>教育職員免許法では「教職の意義等に関する科目」(2単位)の内容を①教職の意義及び教員の役割②進路選択に資する各種の機会の提供③教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。)と定めている。この科目は教職課程初年時に1単位として編成しており、①と②を主な内容としている。なお残りの1単位分は、3年次用に「教職研究Ⅱ」として開設している。</p>	<p>ようこそ沖縄国際大学教職課程へ。教員免許状取得希望者は必ずこの科目から受講してください。</p>
到達目標	<p>沖縄国際大学の教職課程の履修方法、現代社会で求められる教員の資質と能力ならびにわが国の教員養成の歴史と諸外国の教員養成制度についての知識・理解が身につく。自分自身の現在の職業興味と教師を目指すために必要な課題についての自己認識が深まる。よい教師とは何かについての思考力・判断力が身につく。これらを通して教職課程を受講することへの関心・意欲・態度が形成される。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス / 課題レポート提示(「なぜ、教師をめざすのか」)	「なぜ、教師をめざすのか」書く☆
	2	教職課程の履修方法について(『履修ガイド』の解説) 1 教職に関する科目 他	『履修ガイド』教職課程の章精読
	3	教職課程の履修方法について(『履修ガイド』の解説) 2 教科に関する科目、その他の指定科目 他	同上、履修計画作成☆
	4	教員養成カリキュラム改編の背景と今日の教師に求められる資質と能力	資料教養審答申とpp. 7-9精読
	5	教職実践演習について / 教職適性検査(V P I 職業興味検査と自己判定)	資料中教審答申とpp. 10-11精読
	6	教員養成の歴史(戦前の閉鎖制養成と戦後の開放制養成)・世界の教員養成	ライフプラン作成☆
	7	履修カルテについて / よい教師への道 1 (履修計画、ライフプラン)	祖父母又は曾祖父母の学校調べ
	8	よい教師への道 2 (公務員と教員、自主研修) / 課題レポート提示(「再びなぜ教師をめざすのか」)	資料合格体験記とpp. 28-32精読
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：①『履修ガイド』、③配付する資料集。 主要参考文献：①上地・西本編『沖縄で教師をめざす人のために』協同出版、2015年、②赤星晋作他編著『学校教師の探求』学文社、2001年、③教養審第1次答申『新たな時代に向けた教員養成の改善方策について』1997年、④中教審答申『今後の教員養成・免許制度の在り方について』2006年。</p>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>①履修の心構え：抽選の場合でも他のクラスで必ず受講できるようにするので、必ず相談に来ること。1単位科目なので8週で終了する。そのため後期は、12月初旬に終了予定である。 教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。 ②学びを深めるために：毎回の講義を受講し理解することは当然であるが、講義時間内だけでは到達目標を達成するには至らないため、指定された時間外学習は必ず行うこと。</p>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>5件提出物がある。最後の提出物(「再び、なぜ教師をめざすのか」)で、まず仮の評価を決める。決め方は、8回の講義内容の要点となる用語の出現が6回分以上は優、4回分と5回分は良、3回分は可、2回分以下は不可とする。その後、この評価を他の4件の提出物の件数とクロスさせ最終の評価とする。4件の場合1ランク上、3件の場合そのまま、2件の場合1ランク下の評価とする。但し、1件以下の場合不可の評価とする。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本学教職課程の中の「教職に関する科目」には「履修階梯」があり、その最初の科目がこの科目である。この科目を履修することで次の段階の科目である「教育の思想と原則」と「教育心理学」を受講することができる。「教職の意義等に関する科目」(2単位)のうち1単位分については3年次用科目として『教職研究Ⅱ』を開設している。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職研究 I	前期	火 3	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	1年	オフィス・アワー 水曜4校時 katamoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、教職課程履修階梯の入り口に当たり、他の受講生とのグループワークや先輩との関わりを通じて、教職課程履修について具体的に学び、学問的立場から教師の仕事および教職につくということの理解を深めるための科目です。講義を通じて青年期の発達課題と進路選択の観点から教職を考察することももろんでいます。</p>	<p>教職課程履修を始めるときの不安や疑問は誰にでもあります。他の受講生や教職の先輩とディスカッションしながらこれらを共有・解決しましょう。一人で悩んで「正解」を出す必要も、失敗を恐れる必要もありません。たくさんの考えを出し合いながら仲間や教員と一緒に教職課程を始めましょう。</p>
到達目標	<p>①4年間の教職課程履修の道筋を理解し、大まかな計画が立てられる。 ②教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を起こす。 ③大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を起こす。 ④大学での講義への参加の基本となる予習・復習ができるようになる。 ⑤青年期の発達と進路選択の観点から教職について考察することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・登録調整	シラバスを読んでくる
	2	今日の教員養成の在り方にもとづいた教職課程履修の理解	講義中に指示の課題①
	3	青年期の発達と進路選択の観点から「教師になること」を考察する①	講義中に指示の課題②
	4	学問的態度の基礎と教職	講義中に指示の課題③
	5	青年期の発達過程と進路選択の観点から「教師になること」を考察する②	講義中に指示の課題④
	6	教師として生きる～映画で見る教師像	講義中に指示の課題⑤
	7	教師に求められる倫理	講義中に指示の課題⑥
	8	まとめ・振り返り	講義中に指示の課題⑦
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は使用しない。講義の中で適宜配布する資料や、各自が文科省や県教育委員会HP等からダウンロードした資料を活用する。 参考書等は講義中に指示する。</p>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>①予習・復習は必須です。 ②グループディスカッションが苦手でも、社交的でなくとも結構です。少しずつできるようになっていきます。 ③欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ④配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。 上記①～③は成績評価に反映します。</p>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」を含む平常点 … 20% ②最終レポート … 80% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」①～⑤がどの程度できているかを評価します。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この科目の単位を取得すると、本学の履修階梯に沿って、教育の基礎理論に関する科目である「教育心理学」「教育の思想と原則」などに進むことができます。履修階梯上、この科目は全ての基礎となるスタート科目であり、単位取得が遅れると半期、1年単位で教育実習や免許取得が遅れていきますので注意して下さい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

本講義は、本学の養成する教員像を理解し求められる資質能力を身につけるための具体的な行動が起こせるようになる科目です。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職研究 I	前期	火 5	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	1年	オフィス・アワー 水曜4校時	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、教職課程履修階梯の入り口に当たり、他の受講生とのグループワークや先輩との関わりを通じて、教職課程履修について具体的に学び、学問的立場から教師の仕事および教職につくということの理解を深めるための科目です。講義を通じて青年期の発達課題と進路選択の観点から教職を考察することももろんでいます。</p>	<p>教職課程履修を始めるときの不安や疑問は誰にでもあります。他の受講生や教職の先輩とディスカッションしながらこれらを共有・解決しましょう。一人で悩んで「正解」を出す必要も、失敗を恐れる必要もありません。たくさんの考えをぶ出し合いながら仲間や教員と一緒に教職課程を始めましょう。</p>
到達目標	<p>①4年間の教職課程履修の道筋を理解し、大まかな計画が立てられる。 ②教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を起こす。 ③大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を起こす。 ④大学での講義への参加の基本となる予習・復習ができるようになる。 ⑤青年期の発達と進路選択の観点から教職について考察することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・登録調整	シラバスを読み内容を理解する
	2	今日の教員養成の在り方にもとづいた教職課程履修の理解	講義内指示の課題①
	3	教員養成の歴史と今日求められている教員像	講義内指示の課題②
	4	学問的態度の基礎と教職	講義内指示の課題③
	5	青年期の発達課題と進路選択の観点から「教師になること」を考察する	講義内指示の課題④
	6	教師になるということ～映画で見る教師像	講義内指示の課題⑤
	7	教師に求められる倫理	講義内指示の課題⑥
	8	まとめ・振り返り	講義内指示の課題⑦
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は使用しない。講義の中で適宜配付する資料や、各自が文科省や県教育委員会HP等からダウンロードした資料を活用する。参考書等は講義内で指示する。</p>
-------	--

学びの手立て	<p>①予習・復習は必須です。 ②グループディスカッションが苦手でも、社交的でなくとも結構です。少しずつできるようになっていきます。 ③欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ④配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。 上記①～③は成績評価に反映します。</p>
--------	--

評価	<p>①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」を含む平常点 … 20% ②最終レポート … 80% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」①～⑤がどの程度できているかを評価します。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この科目の単位を取得すると、本学の履修階梯に沿って、教育の基礎理論に関する科目である「教育心理学」「教育の思想と原則」などに進むことができます。履修階梯上、この科目は全ての基礎となるスタート科目であり、単位取得が遅れると半期、1年単位で教育実習や免許取得が遅れていきますので注意して下さい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職研究Ⅱ	後期	土5	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安原 陽平	3年	E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、教育実習の前提となる科目です。そのため、本講義のねらいは、特定のテーマにつき、賛成意見・反対意見の考え方を知り、そのうえで自分の考えを根拠を示し論理的に相手に伝えられるようになることです。講義では、グループ分けをし、ディベートをおこないます。</p> <p>到達目標</p> <p>①特定のテーマにつき自分の意見を相手に理由を示して論理的に伝えられるようになること。 ②自分とは異なる立場の意見がいかなる論理であるかを理解できるようになること。 ③異なる立場の人と適切にコミュニケーションをとれるようになること。</p>	<p>学校の先生は、特定の事柄について、児童・生徒、保護者、同僚の先生、地域住民などに、理由を挙げて説明することが求められます。「私がこう思うのだからこうだ！」では、相手も納得してくれず、信頼を築くことが難しくなります。自分とは異なる意見を持つ相手に、適切に理由を示して自分の主張を伝えられるようになるために、この講義を通じて経験を積んでみてください。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス グループ分け ディベートの方法について	
	2	ディベート①	ディベート準備
	3	ディベート②	ディベート準備
	4	ディベート③	ディベート準備
	5	ディベート④	ディベート準備
	6	ディベート⑤	ディベート準備
	7	ディベート⑥	ディベート準備
8	まとめ		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>○テキスト テキストは、使用しません。</p> <p>○参考文献 講義内で、適宜紹介する予定です。</p>	
	学びの手立て	<p>○履修の心構え</p> <p>①ディベートの準備期間をとるため、また、クラスを学期の前半クラス・後半クラスに分ける可能性があるため、第1週～8週で終了するわけではありません。その点注意してください。具体的な日程は講義内にて。 ②ディベートをおこなうため、数人1組のグループ分けをおこないます。 ③特定のテーマにつき、賛成グループと反対グループの対立でディベートをすすめます。その際、自分の実際の考えと異なるグループとなることがあります。 ④ディベートの準備（文献等の調査）のために、十分な時間が必要となります。 ⑤ディベートの実施、その後の質疑応答等のため、講義を延長する場合があります。</p>	
	評価	<p>○平常点 (30%) 出席、他のディベートの分析と評価 ○ディベートの内容 (50%) ○最終レポート (20%)</p>	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この講義を踏まえて、教育実習に参加することになります。児童・生徒、保護者、同僚の先生、地域住民など、多くの方が学校に集い、多様な価値観のもと様々な意見を持っています。様々な意見を待つ人々と建設的な対話ができるように、この講義で得たものを役立ててください。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職研究Ⅱ	前期	土5	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安原 陽平	3年	E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、教育実習の前提となる科目です。そのため、本講義のねらいは、特定のテーマにつき、賛成意見・反対意見の考え方を知り、そのうえで自分の考えを根拠を示し論理的に相手に伝えられるようになることです。講義では、グループ分けをし、ディベートをおこないます。</p> <p>到達目標</p> <p>①特定のテーマにつき自分の意見を相手に理由を示して論理的に伝えられるようになること。 ②自分とは異なる立場の意見がいかなる論理であるかを理解できるようになること。 ③異なる立場の人と適切にコミュニケーションをとれるようになること。</p>	<p>学校の先生は、特定の事柄について、児童・生徒、保護者、同僚の先生、地域住民などに、理由を挙げて説明することが求められます。「私がこう思うのだからこうだ！」では、相手も納得してくれず、信頼を築くことが難しくなります。自分とは異なる意見を持つ相手に、適切に理由を示して自分の主張を伝えられるようになるために、この講義を通じて経験を積んでみてください。</p>

学びの実践	学びのヒント 授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ガイダンス グループ分け ディベートの方法について</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>ディベート①</td><td>ディベート準備</td></tr> <tr><td>3</td><td>ディベート②</td><td>ディベート準備</td></tr> <tr><td>4</td><td>ディベート③</td><td>ディベート準備</td></tr> <tr><td>5</td><td>ディベート④</td><td>ディベート準備</td></tr> <tr><td>6</td><td>ディベート⑤</td><td>ディベート準備</td></tr> <tr><td>7</td><td>ディベート⑥</td><td>ディベート準備</td></tr> <tr><td>8</td><td>まとめ</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	ガイダンス グループ分け ディベートの方法について		2	ディベート①	ディベート準備	3	ディベート②	ディベート準備	4	ディベート③	ディベート準備	5	ディベート④	ディベート準備	6	ディベート⑤	ディベート準備	7	ディベート⑥	ディベート準備	8	まとめ		9			10			11			12			13			14			15			16			
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
	1	ガイダンス グループ分け ディベートの方法について																																																			
2	ディベート①	ディベート準備																																																			
3	ディベート②	ディベート準備																																																			
4	ディベート③	ディベート準備																																																			
5	ディベート④	ディベート準備																																																			
6	ディベート⑤	ディベート準備																																																			
7	ディベート⑥	ディベート準備																																																			
8	まとめ																																																				
9																																																					
10																																																					
11																																																					
12																																																					
13																																																					
14																																																					
15																																																					
16																																																					
テキスト・参考文献・資料など ○テキスト テキストは、使用しません。 ○参考文献 講義内で、適宜紹介する予定です。																																																					
学びの手立て ○履修の心構え ①ディベートの準備期間をとるため、また、クラスを学期の前半クラス・後半クラスに分ける可能性があるため、第1週～8週で終了するわけではありません。その点注意してください。具体的な日程は講義内にて。 ②ディベートをおこなうため、数人1組のグループ分けをおこないます。 ③特定のテーマにつき、賛成グループと反対グループの対立でディベートをすすめます。その際、自分の実際の考えと異なるグループとなることがあります。 ④ディベートの準備（文献等の調査）のために、十分な時間が必要となります。 ⑤ディベートの実施、その後の質疑応答等のため、講義を延長する場合があります。																																																					
評価 ○平常点 (30%) 出席、他のディベートの分析と評価 ○ディベートの内容 (50%) ○最終レポート (20%)																																																					

学びの継続	次のステージ・関連科目 この講義を踏まえて、教育実習に参加することになります。児童・生徒、保護者、同僚の先生、地域住民など、多くの方が学校に集い、多様な価値観のもと様々な意見を持っています。様々な意見を待つ人々と建設的な対話ができるように、この講義で得たものを役立ててください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教職実践演習（中・高）	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔、他	4年	科目全体に関しては教職課程主任か学務課、個別の内容は担当者に直接問い合わせること。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	教職課程における四年間の学びを発展的に振り返ることで、これまで培ってきた数々の学習知・実践知の統合をはかる。また、授業全体を通じ、受講者相互の協力・協働を前提とした課題設定を行うことで、社会性や対人関係能力をはかる。	本学では15回の講義を、「教科外活動研究」「授業実践研究」「教育科学研究」の3つの領域に分けて、それぞれ別の担当者が5回分ずつの授業を担当する。クラス編成や講義の詳細については、5月に実施される「第2回教育実習オリエンテーション」の際に説明する。
到達目標	(1) 「特別活動演習」や教育実習での経験をふまえて、生徒理解や学級経営能力の錬成を図ることができる。 (2) 教育実習において析出された課題の克服をふまえて、授業の再実践ができる。 (3) 教育現場の現在および将来について、科学的に考察し、討議することができる。	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1～5回 教科外活動研究 学級経営を中心とした教科外活動実践（学級通信作成、模擬学級行事の実践など）をおこなう。 基本的には、10月に集中講義の形式で開講する。 第6～10回 授業実践研究 問題点の改善をふまえた教育実習の研究授業の再実践をおこなう。 原則として、11月から12月にかけて、通常講義の形式で開講するが、担当教員や教室の関係で、集中講義形式となる場合がある。 第11～15回 教育科学研究 教育実習をふまえて、教育現場の現在および将来に関する問題（いじめ、不登校、教育政策、学力問題など）について、科学的に考察し、討議する。 原則として12月から2月にかけて、通常講義また集中講義の形式で開講する。
	テキスト・参考文献・資料など テキストや参考文献については、クラス担当教員が授業中に指示、紹介する。
	学びの手立て ① 本講義は必修科目であるので、教育実習を終えても、本講義の単位が修得できなければ、教員免許証は取得できない。 ② 教職課程の「集大成」としての位置づけがなされる授業であるので、教育実習を含め、これまでの学びの成果を総動員することが不可欠である。 ③ 日常的に教育や子どもを取り巻く社会状況について、強く関心を持つことが重要である。
評価 クラス担当教員三者がそれぞれ100点で評価したものを、合算し、100点に換算した結果に基づき、総合的に評価する。なお、それぞれの領域ごとの評価基準、評価方法については、担当者より説明がある。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 本科目は、教職課程の最終段階に位置づけられる。
-------	--

※ポリシーとの関連性

本学の教員養成の目標 1・2（採用当初から、教科等の専門的知識・技能を有し、実践的指導力のある教員）の養成。に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教育法演習Ⅰ	後期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	3年	授業終了後に、教室で受け付けます。 または、c.toubaru@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「国語科教育法Ⅰ」「国語科教育法Ⅱ」で学んだ、国語科学習指導の理念や教材研究の方法についての理解を深化させ、実際の授業ができるようになることを目標とする。また、授業実践者として常に学ぶ姿勢をもち、自らを省みる客観的な視点を持つことができることも目標とする。	教育実習における研究授業を想定した模擬授業を行う。教材を読み込み、実践論文などの文献に当たり、指導案を作成すること。
到達目標	教材分析をしっかり行い、学習のねらいを明確にした指導案を作成することができる。学習目標達成のための言語活動を取り入れた授業を行うことができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	指導案作成
	2	授業構築の実際①（講義）	指導案作成
	3	授業構築の実際②（講義）	指導案作成・配布
	4	模擬授業と研究討議①	指導案作成・配布
	5	模擬授業と研究討議②	指導案作成・配布
	6	模擬授業と研究討議③	指導案作成・配布
	7	模擬授業と研究討議④	指導案作成・配布
8	模擬授業と研究討議⑤	指導案作成・配布	
9	模擬授業と研究討議⑥	指導案作成・配布	
10	模擬授業と研究討議⑦	指導案作成・配布	
11	模擬授業と研究討議⑧	指導案作成・配布	
12	模擬授業と研究討議⑨	指導案作成・配布	
13	模擬授業と研究討議⑩	指導案作成・配布	
14	模擬授業と研究討議⑪	指導案作成・配布	
15	模擬授業と研究討議⑫		
16	総括		
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】 各自の必要に応じて中学校・高等学校の教科書を購入する。 他は、プリントにして適宜配布する。</p> <p>【参考文献】 学校教育研究所編『新しい教科書と授業改善』学校図書，H24 大城貞俊・田名裕治編『国語科授業づくりの視点と実践』沖縄県・国語科の授業づくり研究会，2013</p>		
学びの手立て	<p>①「国語科教育法Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得していること。 ②履修前の所定の期日に行われるテストを受け、合格しなければならない。 ③無断欠席・遅刻・途中退回は一切認めない。 ④毎週1人、授業開始前に、1分間スピーチを行う。 ⑤授業終了後、翌週までにリフレクションシートを作成し、受講者及び教員に配布すること。</p>		
評価	指導案の内容、取り組みの状況（事前指導含む）、討論への参加状況、提出物、出席状況などにより、総合的に評価する。		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目【上位科目】国語科教育法演習Ⅱ（4年次・前期） (2) 次のステージ 国語科教育法演習Ⅱでは、個人で学習指導案作成を行う。 教材の価値・学習者にとっての意味という視点に立った、実際の授業を想定した指導案作成の力が求められる。 【教員養成の目標との関連】 1・2</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教育法演習Ⅰ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	3年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>教育実習における研究授業を想定した模擬授業をおこないます。前期の国語科教育法等でおこなった教材研究を応用しつつ、各自が担当する教材をもとに模擬授業をおこないます。教材研究を行うために必要な知見を深め、さらに基本的な授業実践力を身に付けることがねらいです。</p>	<p>・ 模擬授業担当者は、事前に教員の指導を受け、担当する回の1週間前に、教材研究資料、学習指導案（教材観・指導目標・指導計画・授業細案・発問計画・教材の分析等を含む）を配布したうえで模擬授業に臨んでください。・ 教職課程に関わる事務的な手続きをしっかりと行いましょう。</p>
到達目標	<p>1 教材研究、学習指導案を踏まえた基本的な授業実践力を身に付ける。 2 模擬授業を振り返り、省察を繰り返すことで、指導技術の向上に資する授業実践の視点を身に付ける。</p>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
		回	テーマ	時間外学習の内容
		1	ガイダンス	次時の資料の検討
		2	国語科授業づくりの視点と工夫	次時の資料の検討
		3	言語活動、アクティブラーニングと国語の学び	次時の資料の検討
		4	模擬授業と研究討議 1	次時の資料の検討
		5	模擬授業と研究討議 2	次時の資料の検討
		6	模擬授業と研究討議 3	次時の資料の検討
		7	模擬授業と研究討議 4	次時の資料の検討
		8	模擬授業と研究討議 5	次時の資料の検討
	9	模擬授業と研究討議 6	次時の資料の検討	
	10	模擬授業と研究討議 7	次時の資料の検討	
	11	模擬授業と研究討議 8	次時の資料の検討	
	12	模擬授業と研究討議 9	次時の資料の検討	
	13	模擬授業と研究討議 10	次時の資料の検討	
	14	模擬授業と研究討議 11	次時の資料の検討	
	15	模擬授業と研究討議 12	次時の資料の検討	
	16	総括		
	テキスト・参考文献・資料など	<p>必要に応じて紹介する。または、プリント等を適宜配布します（熟読すること）。 必要に応じて紹介する。または、プリント等を適宜配布します（熟読すること）。</p>		
	学びの手立て	<p>・ 模擬授業では授業記録をつけ、具体的な応答、指示、発問に対する反応、教師の動きなどをまとめておきましょう。 ・ 模擬授業者は、担当した授業後、リフレクションシートを作成し、次回提出してください。</p>		
	評価	<p>教材研究資料、学習指導案（40%）、模擬授業（40%）、授業態度、授業参加状況（20%）</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	国語科教育法演習Ⅱ、教育実習A、教育実習B、教職実践演習

※ポリシーとの関連性

本学の教員養成の目標 1・2（採用当初から、教科等の専門的知識・技能を有し、実践的指導力のある教員）の養成。に関連する。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教育法演習Ⅱ	前期	火 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	4年	授業終了後に、教室で受け付けます。 または、c.toubaru@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 教育実習における研究授業を想定した模擬授業を行う。国語科教育法等で行った教材研究を応用しつつ、各自が担当する教材をもとに模擬授業を行う。模擬授業担当者は、指導案（教材観・指導目標・指導計画・授業細案・発問計画・教材の分析等を含む）を作成・配布した上で模擬授業に臨むこと。	メッセージ 教育実習における研究授業を想定した模擬授業を行う。発問の工夫・応答予想も具体的に考えること。
	到達目標 指導目標を明確にした、学習指導案を作成することができる。 学習者の思考を促す発問と、予想される応答を考えることができる。 板書、ワークシートを工夫することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	指導案作成
	2	国語科授業の改善と工夫（講義）	指導案作成
	3	模擬授業と研究討議(1)	指導案作成・配布
	4	模擬授業と研究討議(2)	指導案作成・配布
	5	模擬授業と研究討議(3)	指導案作成・配布
	6	模擬授業と研究討議(4)	指導案作成・配布
	7	模擬授業と研究討議(5)	指導案作成・配布
	8	模擬授業と研究討議(6)	指導案作成・配布
	9	模擬授業と研究討議(7)	指導案作成・配布
	10	模擬授業と研究討議(8)	指導案作成・配布
	11	模擬授業と研究討議(9)	指導案作成・配布
	12	模擬授業と研究討議(10)	指導案作成・配布
	13	模擬授業と研究討議(11)	指導案作成・配布
	14	模擬授業と研究討議(12)	指導案作成・配布
	15	模擬授業と研究討議(13)	指導案作成・配布
	16	模擬授業と研究討議(14)	
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて紹介する。または、プリント等を適宜配布する（熟読すること）。		
	学びの手立て ①無断欠席・遅刻・途中退出は一切認めない。 ②毎週1人、授業開始時に1分間スピーチを行う。教育や社会情勢をテーマに、考えておくこと。 ③授業担当者は、指導案等について事前指導を受けること。 ④模擬授業担当者は、模擬授業終了後翌週までに授業のリフレクションシートを作成し、受講者及び教員に配布すること。		
	評価 ①出席を重視する。②指導案の内容、取り組み状況、討論への参加状況提出物等を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】教育実習A・B（4年次・前期）教育実践演習（4年次・後期） (2) 次のステージ 教育実習では、専門的な教材分析の力、学習者の実態に応じた指導案作成が求められる。 【教員養成の目標との関連】 1・2・3
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教育法演習Ⅱ	前期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	4年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>・教育実習における研究授業を想定した模擬授業をおこないます。国語科教育法ⅠⅡ、国語科教育法演習Ⅰでおこなった教材研究を応用しつつ、各自が担当する教材をもとに模擬授業をおこないます。</p>	<p>模擬授業担当者は、教員の指導を受け、担当する回の1週間前までに、教材研究資料、学習指導案（教材観・指導目標・指導計画・授業細案・発問計画・教材の分析等を含む）を作成し、受講者配布したうえで模擬授業に臨んでください。・教職課程に関わる事務的な手続きをしっかりと行いましょう。</p>

到達目標
<p>1 教材研究、学習指導案を踏まえた基本的な授業実践力を身に付ける。 2 模擬授業を振り返り、省察を深めることで、指導技術の向上に資する授業実践の視点を身に付ける。</p>

学びの実践	学びのヒント																																																			
	授業計画																																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ガイダンス</td><td>次時の資料の検討</td></tr> <tr><td>2</td><td>国語科授業づくりの視点と工夫</td><td>次時の資料の検討</td></tr> <tr><td>3</td><td>言語活動、アクティブラーニングと国語の学び</td><td>次時の資料の検討</td></tr> <tr><td>4</td><td>模擬授業と研究討議 1</td><td>次時の資料の検討</td></tr> <tr><td>5</td><td>模擬授業と研究討議 2</td><td>次時の資料の検討</td></tr> <tr><td>6</td><td>模擬授業と研究討議 3</td><td>次時の資料の検討</td></tr> <tr><td>7</td><td>模擬授業と研究討議 4</td><td>次時の資料の検討</td></tr> <tr><td>8</td><td>模擬授業と研究討議 5</td><td>次時の資料の検討</td></tr> <tr><td>9</td><td>模擬授業と研究討議 6</td><td>次時の資料の検討</td></tr> <tr><td>10</td><td>模擬授業と研究討議 7</td><td>次時の資料の検討</td></tr> <tr><td>11</td><td>模擬授業と研究討議 8</td><td>次時の資料の検討</td></tr> <tr><td>12</td><td>模擬授業と研究討議 9</td><td>次時の資料の検討</td></tr> <tr><td>13</td><td>模擬授業と研究討議 10</td><td>次時の資料の検討</td></tr> <tr><td>14</td><td>模擬授業と研究討議 11</td><td>次時の資料の検討</td></tr> <tr><td>15</td><td>模擬授業と研究討議 12</td><td>次時の資料の検討</td></tr> <tr><td>16</td><td>総括</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	ガイダンス	次時の資料の検討	2	国語科授業づくりの視点と工夫	次時の資料の検討	3	言語活動、アクティブラーニングと国語の学び	次時の資料の検討	4	模擬授業と研究討議 1	次時の資料の検討	5	模擬授業と研究討議 2	次時の資料の検討	6	模擬授業と研究討議 3	次時の資料の検討	7	模擬授業と研究討議 4	次時の資料の検討	8	模擬授業と研究討議 5	次時の資料の検討	9	模擬授業と研究討議 6	次時の資料の検討	10	模擬授業と研究討議 7	次時の資料の検討	11	模擬授業と研究討議 8	次時の資料の検討	12	模擬授業と研究討議 9	次時の資料の検討	13	模擬授業と研究討議 10	次時の資料の検討	14	模擬授業と研究討議 11	次時の資料の検討	15	模擬授業と研究討議 12	次時の資料の検討	16	総括	
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																	
	1	ガイダンス	次時の資料の検討																																																	
	2	国語科授業づくりの視点と工夫	次時の資料の検討																																																	
	3	言語活動、アクティブラーニングと国語の学び	次時の資料の検討																																																	
	4	模擬授業と研究討議 1	次時の資料の検討																																																	
	5	模擬授業と研究討議 2	次時の資料の検討																																																	
	6	模擬授業と研究討議 3	次時の資料の検討																																																	
	7	模擬授業と研究討議 4	次時の資料の検討																																																	
	8	模擬授業と研究討議 5	次時の資料の検討																																																	
	9	模擬授業と研究討議 6	次時の資料の検討																																																	
	10	模擬授業と研究討議 7	次時の資料の検討																																																	
	11	模擬授業と研究討議 8	次時の資料の検討																																																	
	12	模擬授業と研究討議 9	次時の資料の検討																																																	
	13	模擬授業と研究討議 10	次時の資料の検討																																																	
14	模擬授業と研究討議 11	次時の資料の検討																																																		
15	模擬授業と研究討議 12	次時の資料の検討																																																		
16	総括																																																			

<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>必要に応じて紹介する。または、プリント等を適宜配布する（熟読すること）。 必要に応じて紹介する。または、プリント等を適宜配布する（熟読すること）。</p>
--

<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業では授業記録をつけ、具体的な応答、指示、発問に対する反応、教師の動きなどをまとめておきましょう。 ・模擬授業者は、担当した授業後、リフレクションシートを作成し、次回提出してください。

<p>評価</p> <p>教材研究資料、学習指導案（40%）、模擬授業（40%）、授業態度、授業参加状況（20%）</p>

<p>学びの継続</p> <p>次のステージ・関連科目</p> <p>教育実習A、教育実習B、教職実践演習</p>

※ポリシーとの関連性

本学の教員養成の目標 1・2（採用当初から、教科等の専門的知識・技能を有し、実践的指導力のある教員）の養成。に関連する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教育法 I	後期	火 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	2年	授業終了後に、教室で受け付けます。 または、c.toubaru@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 中学校及び高等学校国語科教師を目指す学生のための、入門的な科目である。国語科教育学の諸領域に関する歴史と理論の概要を理解するとともに、実践事例を検討して優れた点に学び、自らの教材研究・授業構想に生かすための基礎を身につけることを目標とする。	メッセージ 履修前に行われるテストを受け、合格した者のみ履修が認められる。国語科の基礎的能力を身に付け、学習指導力をつけておくこと。
	到達目標 学習指導要領に関する基礎的知識と、国語科教育学の基礎を身に付け、実践論文をもとに学習の実体を分析、検討することができる。新たな学習デザインや、学習方法の改善策を考えることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	ガイダンス	
	2	国語科教育法を学ぶにあたって（講義）	
		時間外学習の内容	
	3	国語科の授業構築に向けて（講義）	レポート課題
	4	表現（「書くこと」）教育の研究(1)	レポート課題・グループ課題
	5	表現（「書くこと」）教育の研究(2)	レポート課題・グループ課題
	6	文学教育の研究(1)	レポート課題・グループ課題
	7	文学教育の研究(2)	レポート課題・グループ課題
	8	説明的文章教育の研究(1)	レポート課題・グループ課題
	9	説明的文章教育の研究(2)	レポート課題・グループ課題
	10	読書教育の研究(1)	レポート課題・グループ課題
	11	読書教育の研究(2)	レポート課題・グループ課題
	12	音声言語教育の研究(1)	レポート課題・グループ課題
	13	音声言語教育の研究(2)	レポート課題・グループ課題
	14	〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の指導に関する研究(1)	レポート課題・グループ課題
	15	〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の指導に関する研究(2)	レポート課題・グループ課題
	16	総括・期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など 森田信義・山元隆春・山元悦子・千々岩弘一『新訂国語科教育学の基礎』溪水社 2010 『中学校学習指導要領解説 国語編』文部科学省 2008 『高等学校学習指導要領解説 国語編』文部科学省 2010		
	学びの手立て ①中学校及び高等学校国語科の教員免許を取得するための必修科目である。 ②履修前の所定の期日に行われるテストを受け、合格しなければならない。 ③無断欠席・遅刻・途中退回は一切認めない。 ④授業外の課題や、グループ活動などへの参加が要求される。		
	評価 期末試験、発表の内容、討論への参加状況、提出物、出席状況などにより、総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】国語科教育法Ⅱ（3年次・前期）国語科教育法演習Ⅰ（3年次・後期）国語科教育法演習Ⅱ（4年次・前期）(2) 次のステージ 国語科教育法Ⅱでは、グループでの教材研究・学習指導案作成を行う。国語科教育学の基礎を学び、それを実践に活かす事が求められる。【教員養成の目標との関連】1・2
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教育法 I	後期	火 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 貞俊	2年	授業終了後	

学びの準備	ねらい 国語科教育の歴史と現状へ理解を深め、新しい時代にふさわしい国語科教育法を学びます。そのために、ゼミ形式でテキストを精読し、具体的な課題に沿って考えを深めます。	メッセージ テキストの精読は、割り当てられた範囲を予習し、しっかりとレポートをしましょう。本講座での学びは、教員採用試験対策の大きな基盤になります。
	到達目標 1 国語科教育の歴史と現状を、理解することができる。 2 国語科教育の課題を把握し、その対策を考えることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに。本講座の目標。国語科教育の歴史	レジュメ配布
	2	学習指導要領について	参照：「新学習指導要領」
	3	文献精読 「国語科教育の意義と目標」	テキストP01～27を読む
	4	文献精読 「表現教育の研究」	テキストP28～51を読む
	5	文献精読 「表現教育の研究」	テキストP52～73を読む
	6	文献精読 「文学教育の研究」	テキストP74～87を読む
	7	文献精読 「文学教育の研究」	テキストP88～127を読む
	8	文献精読 「説明的文章教育の研究」	テキストP128～150を読む
	9	文献精読 「説明的文章教育の研究」	テキストP151～181を読む
	10	文献精読 「読書教育の研究」	テキストP182～198を読む
	11	文献精読 「読書教育の研究」	テキストP199～229を読む
	12	文献精読 「音声言語教育の研究」	テキストP230～258を読む
	13	文献精読 「音声言語教育の研究」	テキストP259～277を読む
	14	文献精読 「伝統的な言語文化教育の研究」	テキストP278～297を読む
15	文献精読 「伝統的な言語文化教育の研究」	テキストP298～323を読む	
16	合評・まとめ・評価	まとめ	
実践	テキスト・参考文献・資料など ●精読テキストあり。テキスト名：『新訂 国語科教育学の基礎』（森田信義他・溪水社・2010/4/20）		
	学びの手立て ○テキストを精読し国語科教育の現状を理解し、課題を把握する。そのためにテキスト精読の分担箇所を決めてレポート形式で報告し、ディスカッションしながら学びを深めます。		
	評価 1 テキスト分担箇所のレポート内容による評価（60%） 2 課題レポートの提出と、出欠状況による評価（40%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育は時代の変化とともに大きく変容していきます。日本における国語教育の歴史を概観しながら、国語教育の重要性や新し課題を確認し、豊かな言語生活を築く基盤にします。また将来、国語科教育に携わる者としての知識を身に付け、教師生活へ踏み出す基盤にします。
-------	--

※ポリシーとの関連性

本学の教員養成の目標 1・2（採用当初から、教科等の専門的知識・技能を有し、実践的指導力のある教員）の養成。に関連する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教育法Ⅱ	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	3年	授業終了後に、教室で受け付けます。 または、c.toubaru@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	国語科の授業における諸教材について、素材としての分析のみならず、教材としての価値、学習者にとっての意味という視点をもって研究を深め、実際の授業を想定した学習指導案の作成ができるようになることを目標とする。	国語科教育法Ⅰで学んだ、国語科教育学の基礎的知識・技能をもとに、学習指導案を作成します。教材文の読解力をつけておくこと。

到達目標
①学習指導案の書き方の基本を知り、実際に学習指導案の細案を作成することができる。
②文献をもとにした、学習素材分析・教材分析を行うことができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	教材研究（教材を読み込む）
	2	授業と学習指導案（講義）	復習（用語の確認）指導案作成
	3	教材化の視点（講義）	指導案作成
	4	学習指導案の研究(1)	指導案作成
	5	学習指導案の研究(2)	指導案作成
	6	学習指導案の研究(3)	指導案作成
	7	学習指導案の研究(4)	指導案作成
	8	学習指導案の研究(5)	指導案作成
	9	学習指導案の研究(6)	指導案作成
	10	学習指導案の研究(7)	指導案作成
	11	学習指導案の研究(8)	指導案作成
	12	学習指導案の研究(9)	指導案作成
	13	学習指導案の研究(10)	指導案作成
	14	学習指導案の研究(11)	指導案作成
15	学習指導案の研究(12)		
16	総括		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	【テキスト】 各自の必要に応じて、中学校・高等学校の教科書を購入する。 プリントを適宜配布する。 【参考文献】 授業内に紹介する。

学びの実践	学びの手立て
	①「国語科教育法Ⅰ」の単位を取得していること。 ②無断欠席・遅刻・途中退出は一切認めない。 ③授業外の課題やグループ活動などへの参加が要求される。

学びの実践	評価
	発表内容、討論への参加状況、提出物、出席状況などにより、総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
	(1) 関連科目【上位科目】国語科教育法演習Ⅰ（3年次・後期）国語科教育法演習Ⅱ（4年次・前期）(2) 次のステージ 国語科教育法演習Ⅰでは、個人で教材研究・学習指導案作成を行う。ワークシートや板書の工夫も求められ、より実践的な力が必要とされる。【教員養成の目標との関連】 1・2

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教育法Ⅱ	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	3年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講は国語科の授業における教材について、素材としての分析のみならず、教材としての価値、学習者にとっての意味という視点をもって研究を深め、実際の授業を想定した学習指導案の作成ができるようになることをねらいとします。</p>	<p>・真に教員を目指す学生が受講するように。 ・事前指導の日程調整をしっかりと行いましょう。 ・教職関係の事務的な手続きをしっかりと行いましょう。 ・国語科教員の姿を具体的にイメージし、資格のための学びではなく、子どもたちのための学びを追求する視点を持ちましょう。</p>
到達目標	<p>1 教材研究の方法を学び、教材研究資料を作成できるようになる。 2 学習指導案の作成方法を学び、授業実践を想定した指導案が作成できるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	授業と学習指導案	
	3	国語科教材論と教材化の視点	次時資料の検討、予習
	4	教材研究と学習指導案の研究 1	次時資料の検討、予習
	5	教材研究と学習指導案の研究 2	次時資料の検討、予習
	6	教材研究と学習指導案の研究 3	次時資料の検討、予習
	7	教材研究と学習指導案の研究 4	次時資料の検討、予習
8	教材研究と学習指導案の研究 5	次時資料の検討、予習	
9	教材研究と学習指導案の研究 6	次時資料の検討、予習	
10	教材研究と学習指導案の研究 7	次時資料の検討、予習	
11	教材研究と学習指導案の研究 8	次時資料の検討、予習	
12	教材研究と学習指導案の研究 9	次時資料の検討、予習	
13	教材研究と学習指導案の研究 10	次時資料の検討、予習	
14	教材研究と学習指導案の研究 11	次時資料の検討、予習	
15	教材研究と学習指導案の研究 12	次時資料の検討、予習	
16	総括		
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など 各自の必要に応じて中学校・高等学校の教科書を購入してください。</p>		
学びの手立て	<p>国語教育指導用語事典（教育出版）、国語教育総合事典（朝倉書店）で下調べを行い、まずは、先行する実践研究に学びましょう。</p>		
評価	<p>発表資料（70%）、授業参加状況・授業態度（発表の内容、討論への参加状況、提出物、出席状況等）（30%）</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 国語科教育法演習Ⅰ、国語科教育法演習Ⅱ</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・公民科教育法	後期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安原 陽平	2年	E-mailアドレスや研究室番号等は、講義内でお伝えします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、中学校社会科免許取得に関する社会科教育法の最初の講義となります。本講義のねらいは、社会科のための基本的な知識を深めることです。講義の進め方としては、まず講義前半に、グループによる報告をおこないます。講義後半には、模擬授業をおこないます。グループ報告および模擬授業の詳細については、講義内でお伝えします。</p>	<p>将来自分がなりたいたい教師像、あるいは実際に展開したい授業モデルなど、教師になったときのイメージがみなさんのなかにあるかと思えます。そのイメージを大切にしながら、グループ報告や模擬授業に臨んでみてください。新しい発見のある講義となるよう、お互いに頑張ってください。</p>
到達目標	<p>①中学校社会科のための基本的な知識の理解を深めること。 ②基本的な知識の理解を相手に論理的に伝えられるようになること。 ③①および②を踏まえて、三年次・四年次の社会科教育法につながる模擬授業の経験を積むこと。</p>	

学びの実践	学びのヒント																																																				
	授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ガイダンス</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>中学校社会科を振り返る①</td><td>中学校社会科の内容を復習する</td></tr> <tr><td>3</td><td>中学校社会科を振り返る②</td><td>グループ報告の準備・報告・整理等</td></tr> <tr><td>4</td><td>グループ報告①</td><td>グループ報告の準備・報告・整理等</td></tr> <tr><td>5</td><td>グループ報告②</td><td>グループ報告の準備・報告・整理等</td></tr> <tr><td>6</td><td>グループ報告③</td><td>グループ報告の準備・報告・整理等</td></tr> <tr><td>7</td><td>グループ報告④</td><td>グループ報告の準備・報告・整理等</td></tr> <tr><td>8</td><td>グループ報告⑤</td><td>グループ報告の準備・報告・整理等</td></tr> <tr><td>9</td><td>グループ報告⑥</td><td>模擬授業の準備等</td></tr> <tr><td>10</td><td>模擬授業①</td><td>模擬授業の準備等</td></tr> <tr><td>11</td><td>模擬授業②</td><td>模擬授業の準備等</td></tr> <tr><td>12</td><td>模擬授業③</td><td>模擬授業の準備等</td></tr> <tr><td>13</td><td>模擬授業④</td><td>模擬授業の準備等</td></tr> <tr><td>14</td><td>模擬授業⑤</td><td>模擬授業の準備等</td></tr> <tr><td>15</td><td>模擬授業⑥</td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td>まとめ（レポート）</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	ガイダンス		2	中学校社会科を振り返る①	中学校社会科の内容を復習する	3	中学校社会科を振り返る②	グループ報告の準備・報告・整理等	4	グループ報告①	グループ報告の準備・報告・整理等	5	グループ報告②	グループ報告の準備・報告・整理等	6	グループ報告③	グループ報告の準備・報告・整理等	7	グループ報告④	グループ報告の準備・報告・整理等	8	グループ報告⑤	グループ報告の準備・報告・整理等	9	グループ報告⑥	模擬授業の準備等	10	模擬授業①	模擬授業の準備等	11	模擬授業②	模擬授業の準備等	12	模擬授業③	模擬授業の準備等	13	模擬授業④	模擬授業の準備等	14	模擬授業⑤	模擬授業の準備等	15	模擬授業⑥		16	まとめ（レポート）		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	ガイダンス																																																				
2	中学校社会科を振り返る①	中学校社会科の内容を復習する																																																			
3	中学校社会科を振り返る②	グループ報告の準備・報告・整理等																																																			
4	グループ報告①	グループ報告の準備・報告・整理等																																																			
5	グループ報告②	グループ報告の準備・報告・整理等																																																			
6	グループ報告③	グループ報告の準備・報告・整理等																																																			
7	グループ報告④	グループ報告の準備・報告・整理等																																																			
8	グループ報告⑤	グループ報告の準備・報告・整理等																																																			
9	グループ報告⑥	模擬授業の準備等																																																			
10	模擬授業①	模擬授業の準備等																																																			
11	模擬授業②	模擬授業の準備等																																																			
12	模擬授業③	模擬授業の準備等																																																			
13	模擬授業④	模擬授業の準備等																																																			
14	模擬授業⑤	模擬授業の準備等																																																			
15	模擬授業⑥																																																				
16	まとめ（レポート）																																																				
テキスト・参考文献・資料など	<p>○テキスト グループ報告の対象となる文献を複数紹介し、そのうちの1冊をテキストとして使用します。難易度や価格は、新書クラスのを想定しています。</p> <p>○参考文献 必要に応じて、適宜講義内で紹介する予定です。</p>																																																				
学びの手立て	<p>○履修の心構え ①グループ報告のため、数人1組のグループ分けをおこないます。 ②グループ報告および模擬授業の準備のために、十分な時間が必要となります。 ③グループ報告および模擬授業の実施、その後の質疑応答等のため、講義を延長する場合があります。</p>																																																				
評価	<p>○平常点 (30%) 出席、他のグループ報告・模擬授業に対する分析と評価 ○グループ報告 (25%) ○模擬授業 (25%) ○最終レポート (20%)</p>																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次年度から、社会科教育法においては模擬授業が中心となります。そのため、本講義での基礎的な知識の確認および模擬授業の経験を活かして、将来自分がなりたいたい教師像あるいは展開したい授業モデルをイメージしながら、次年度以降の模擬授業に臨んでください。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

教育職員免許法に定める「教職に関する科目」の「教育課程及び指導法に関する科目」の内、高校公民科の指導法に係る科目。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・公民科教育法	前期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	三村 和則	3年	研究室番号：5505 E-mail：mimura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	わが国の中等社会科教育、特に公民科教育の歴史、目的及び内容の批判的検討ならびに教材研究と授業方法を学ぶことで、中等社会科教育、特に公民科教育の理論の修得をめざす。	後期の「社会科・公民科教育法演習」を同一教員(三村)・同一クラスで受講するので通年のゼミという理解で受講して下さい。内容も演習形式で行い、課題が毎回のようにあります。本来は公民科が好きで得意という学生が受講する科目です。しかしこの点が不十分な者がいますので、学期末に公民科学力試験を実施します。授業の時間外で自分で勉強し合格するようにして下さい。
到達目標	公民科3科目(現代社会、倫理、政治・経済)のカリキュラム構造、公民科をはじめとするわが国の中等社会科教育の歴史、公民科教材研究の方法及び指導案作成の方法についての知識・理解ならびに公民科の教材づくりの技能が身につく。日常的に自学科の専門教育科目から教材研究のヒントを見つけようとする関心・意欲・態度が身につく。今日の公民科授業はどうあるべきかを批判的かつ創造的に思考・判断できるようになる。これらを通して後期の模擬授業に向けての知識・理解、技能、思考力・判断力・表現力、関心・意欲・態度が身につく。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	クラス分け / 講義ガイダンス	公民科学力試験対策(以下同じ)
	2	公民科授業のための批判的リテラシーの方法 / 学級組織編成	社説の要旨読み
	3	「現代社会」のカリキュラム構造	教科書指導要領専攻科学問対照
	4	「倫理」のカリキュラム構造	同上
	5	「政治・経済」のカリキュラム構造	同上
	6	わが国の中等社会科の成立と展開1 「公民」概念の変遷	公民概念変遷調べ、公民概念指定
	7	わが国の中等社会科の成立と展開2 「公民」名称復活の問題性	公民用語復活理由考究
	8	高校社会科解体の問題性1 地理歴史科と公民科分離の問題点	社会科≠地歴科+公民科理由考究
	9	高校社会科解体の問題性2 社会科解体の対抗軸を考える	地歴科と公民科再統合方法考究
	10	公民科授業づくりの工夫1 日常の世界から科学の世界へ、「ウソッ!」「ホント!」教材	人間網目法則調べ、教材づくり
	11	公民科授業づくりの工夫2 絵・図・マンガの教材化、実際にやっておもしろい、社会認識変革教材	教材づくり
	12	公民科授業づくりの工夫3 一つのものから社会のしくみへ、音楽・歌の教材化	同上
	13	公民科学習指導案づくりの方法(1) 指導案づくりの方法	「教育課程・教育方法」の復習
	14	公民科学習指導案づくりの方法(2) 学力観の変遷と公民科指導目標の設定方法	指導案例集精読
15	公民科学力試験 / 講義のまとめと夏休みの課題提示	公民科学力テスト準備	
16	予備		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキスト：配付する資料集。 主要参考文献：1.加藤西郷他編著『社会・地歴・公民科教育論』高菅出版、2002年。2.森分孝治他編著『社会科重要用語300の基礎知識』明治図書、2000年。3.歴史教育者協議会 http://www.jca.apc.org/rekkyo/ 4.文部科学省『高等学校学習指導要領』2009年。

実践	学びの手立て
	①履修の心構え：「教育課程・教育方法」履修者が望ましい。芝田先生クラスと登録者調整し、少人数の場合本年度は芝田先生のクラスだけ開講する。延長となることのあるので6校時は必ず空けておくこと。教育実習事前指導科目として位置づけるので遅刻や無断欠席をしてはならない。 ②学びを深めるために：「教育課程・教育方法」と関連しているので、その履修内容と関連づけると理解しやすい。教科に関する科目や自学科専門教育科目は公民科の親学問を構成し、教科内容の供給源となっているので、それらの科目に教材研究のヒントが多く隠されている。そのことを意識してそれらの科目を受講するとよい。

実践	評価
	①出席・参加状況と公民科学力試験によって行う。②遅刻と欠席が1度でもある場合、原則として不可とする。③割り当てられた課題発表ができなかった場合も不可とする。④学期末実施の公民科学力試験(大学入試センター試験レベル)が6割未満の成績の場合、不可とする。⑤夏休みの課題(後期模擬授業指導案素案と教材研究レポート)未提出の場合、不可とする。⑥不可でない場合、優とする。

学びの継続	次のステージ・関連科目
	後期の「社会科・公民科教育法演習」と同一教員(三村)・同一クラスで受講し、4年生6月の教育実習の教壇実習に備える。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・公民科教育法	前期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	芝田 秀幹	3年	hidekis@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 公民科の教師として必要な知識を供し、受講生の教養をより高めることが本講義の目的である。	メッセージ 専門職としての教師になる、という強い意識をもつこと。そのために、常日頃から自らの人格に磨きをかけること。
	到達目標 高等学校学習指導要領（公民科）を理解できる。公民科授業の実際を理解できる。公民＝社会の一員としてもつ自由と責任について理解できる。公民を育てる教師としての役割について理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	開講にあたって	
	2	高等学校学習指導要領公民編（1）	
	3	高等学校学習指導要領公民編（2）	
	4	公民科授業の実際（1）	
	5	公民科授業の実際（2）	
	6	公民科授業の実際（3）	
	7	公民としての自由と責任（1）－自由、秩序、法－	
	8	公民としての自由と責任（2）－正義、人格、平等－	
	9	公民としての自由と責任（3）－学校の一員としての自覚と役割－	
	10	公民としての自由と責任（4）－家族・コミュニティ・国－	
	11	公民としての自由と責任（5）－国際的視野の拡大と異文化理解－	
	12	模擬授業の方法	
	13	指導案づくりの方法	
	14	テスト（公民科学力試験）	
	15	まとめ：夏休みの課題提示	
	16		
	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定する。		
	学びの手立て 私語は厳禁。真面目に授業を聞こうとする学生を、私語で邪魔をする権利は受講者の誰にもないはずである。また、無断欠席・早退・遅刻も厳禁。		
	評価 授業への参加状況と公民科学力試験の成績によって評価する。 遅刻と欠席が1度でもある場合、原則として不可とする。 学期末実施の公民科学力試験（大学入試センター試験レベル）の6割未満の成績の場合、不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「社会科・公民科教育法演習」
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・公民科教育法演習	前期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「社会科・公民科教育法」における学習内容をふまえ、教育実習にむかって、学生各人が教材研究および指導案の作成を行い、それをもとに模擬授業およびその分析と評価を行う。本演習の眼目は、授業技術のみならず、参加者全員の相互協力、相互批評による総合的教職実践力の練成にある。	
到達目標		

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 自己紹介、グループ分け 3 社会科教育の目的と課題 4 指導案の書き方の復習 5 模擬授業・分析と評価（1） 6 模擬授業・分析と評価（2） 7 模擬授業・分析と評価（3） 8 模擬授業・分析と評価（4） 9 模擬授業・分析と評価（5） 10 模擬授業・分析と評価（6） 11 模擬授業・分析と評価（7） 12 模擬授業・分析と評価（8） 13 模擬授業・分析と評価（9） 14 模擬授業・分析と評価（10） 15 模擬授業・分析と評価（11）
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>中学校社会科公民分野の教科書など。授業中に適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p>
評価	<p>作成した指導案、模擬授業、その他提出物によって総合的に評価する。なお、学習意欲に乏しい者、模擬授業を行わない者は無条件に不合格とする。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・公民科教育法演習	前期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	3年	研究室 (5434)、またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は、中学校社会科教育における実践的な技能の修得を目的としている。具体的には、教材研究及び指導案作成の能力、模擬授業の実践能力、他者の模擬授業に対する批判的分析能力の基礎の育成をめざす。また、本講義は社会科・地理歴史科教育法演習との合同授業であるので、1回目の模擬授業を経験した4年生との交流を通じた学びに取り組んでもらいたい。	教員として社会科を指導するのに必要な技能の基礎を修得するだけでなく、教員になるための大変さを経験し、他者との協力と自らの責任において、その大変さを克服することをめざします。

到達目標	<p>(1) 自ら担当する単元について、適切に教材研究をおこなうことができる。</p> <p>(2) 基本的な形式に従って、指導案を作成することができる。</p> <p>(3) 適切な指導方法を用いて、模擬授業を実践することができる。</p> <p>(4) 他者が実践した模擬授業について、批判的に分析することができる。</p> <p>(5) 他者との協調と自らの責任において、模擬授業実践に取り組むことができる。</p>
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバス内容の理解
	2	社会科の成立	事前配布資料の精読
	3	公民的分野の教育目的	事前配布資料の精読
	4	模擬授業と批判的分析①	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	5	模擬授業と批判的分析②	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	6	模擬授業と批判的分析③	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	7	模擬授業と批判的分析④	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	8	模擬授業と批判的分析⑤	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	9	模擬授業と批判的分析⑥	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	10	模擬授業と批判的分析⑦	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	11	模擬授業と批判的分析⑧	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	12	模擬授業と批判的分析⑨	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	13	模擬授業と批判的分析⑩	模擬授業の準備・協力/評価表作成
	14	模擬授業と批判的分析⑪	模擬授業の準備・協力/評価表作成
15	模擬授業と批判的分析⑫	模擬授業の準備・協力/評価表作成	
16	まとめ		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>中学校社会科公民的分野の教科書、中学校学習指導要領。 参考資料については、適宜紹介する。</p>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>① 安原先生担当の「社会科・公民科教育法演習」の単位を修得済みであること。</p> <p>② 教職科目であるので、無断欠席、遅刻は厳禁である。</p> <p>③ ゼミ生との協調に基づく学びに、積極的に取り組み姿勢が求められる。</p> <p>④ 受講生数によっては、休日や6校時に補講を実施することがある。</p>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>到達目標 (1) (2) の評価 : 指導案の提出と内容 (40%)</p> <p>到達目標 (3) の評価 : 模擬授業実践の内容 (30%)</p> <p>到達目標 (4) の評価 : 模擬授業へのコメントと評価表の提出 (20%)</p> <p>到達目標 (5) の評価 : 模擬授業への取り組み内容 (10%)</p> <p>の総合評価とする。</p>
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本科目が未修得だと、後期開講の社会科・地理歴史科教育法は履修できない。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・公民科教育法演習	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	芝田 秀幹	3年	hidekis@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 「社会科・公民科教育法」の履修成果を踏まえ、学習指導案を作成し、全員模擬授業を実践する。生徒役として模擬授業を受ける際は、授業の分析と批評を行い、授業実践の力量形成の一助とする。	メッセージ 専門職としての教師になる、という強い意識をもつこと。そのために、常日頃から自らの人格に磨きをかけること。
	到達目標 4年次の教育実習における授業を想定した授業＝模擬授業を、指導案作りも含めて首尾よく行うことができる。	

学びの準備	到達目標 4年次の教育実習における授業を想定した授業＝模擬授業を、指導案作りも含めて首尾よく行うことができる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス
	2	模擬授業を実践するに当たって
	3	模擬授業の実践
	4	模擬授業の実践
	5	模擬授業の実践
	6	模擬授業の実践
	7	模擬授業の実践
	8	模擬授業の実践
	9	中間総括：成果と課題
	10	模擬授業の実践
	11	模擬授業の実践
	12	模擬授業の実践
	13	模擬授業の実践
	14	模擬授業の実践
	15	まとめ
16		
		時間外学習の内容

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 使用しない。講義のなかで適宜紹介する。
-------	---------------------------------------

学びの実践	学びの手立て 私語は厳禁。真面目に授業を聞こうとする学生を、私語で邪魔をする権利は受講者の誰にもないはずである。また、無断欠席・早退・遅刻も厳禁。
-------	--

学びの実践	評価 出席・参加状況と模擬授業によって判断する。遅刻・欠席が一度でもある場合は原則不可となる。提出すべき物が未提出の場合も同じく不可。模擬授業不成立の場合も不可となる。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 「社会科・公民科教育法」
-------	-----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・地理歴史科教育法	後期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>社会科教育は、子どもたちの社会観を決定付けるという意味で、極めて責任の重い仕事である。そうである以上、社会科教員を志す者には、社会と教育に対する深い考察能力が求められることになる。ゆえに本講義では、種々の資料・論考の検討を通じて社会科学的・教育学的認識能力の錬成をはかりつつ、あるべき社会科授業実践のあり方を学生とともに模索していく。</p>	
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨン 2 中学校社会科教育における目的と課題 3 社会科学的・教育学的認識の錬成（1）一ゼミ形式による討議① 4 社会科学的・教育学的認識の錬成（2）一ゼミ形式による討議② 5 社会科学的・教育学的認識の錬成（3）一ゼミ形式による討議③ 6 社会科学的・教育学的認識の錬成（4）一ゼミ形式による討議④ 7 社会科学的・教育学的認識の錬成（5）一ゼミ形式による討議⑤ 8 社会科学的・教育学的認識の錬成（6）一ゼミ形式による討議⑥ 9 社会科学的・教育学的認識の錬成（7）一ゼミ形式による討議⑦ 10 模擬授業・分析と評価（1） 11 模擬授業・分析と評価（2） 12 模擬授業・分析と評価（3） 13 模擬授業・分析と評価（4） 14 模擬授業・分析と評価（5） 15 模擬授業・分析と評価（6）
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>中学校社会科歴史的分野・地理的分野の教科書など。授業中に適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>出席状況、受講態度、ゼミ発表、模擬授業、指導案、その他の提出物によって総合的に評価する。なお、ゼミ発表、模擬授業を行わない者は無条件に不合格とする。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・地理歴史科教育法	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	3年	研究室 (5434)、またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>社会科教育、とくに歴史教育は、国内外からの様々な意見にさらされてる。また、学習指導要領の改訂等により、社会科教育は大きな転換を迫られている。そこで本講義では、中学校で社会科を教えることの意味、学校教育における歴史教育の意味と魅力ある歴史授業の在り方について理解することを目的とする。また、指導案の作成を通じて、教育現場にたつための基本的技能の修得も目指す。</p>	<p>班での討議に基づく班レポートの作成や、班単位による指導案の作成と提出等、他者との協調に基づく学びの実践を主体としたゼミ活動をおこないます。</p>
到達目標	<p>(1) 中学校という学びの空間が置かれた現状を理解することができる。 (2) 学校教育で社会科(ときに歴史的分野)を学ぶ意味を、自らの言葉で表現できる。 (3) 社会科における学力の内容について理解することができる。 (4) 魅力があり、かつ学力を伸ばすことにつながる、歴史または地理の指導案を作成することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバス内容の理解
	2	中学校教育における社会科教育の目的①：学習指導要領改訂の経緯	事前配布資料の精読
	3	中学校教育における社会科教育の目的②：次期学習指導要領の方向性	事前配布資料の精読
	4	中学校教育における社会科教育の目的③：地理的分野・歴史的分野のねらい	事前配布資料の精読
	5	中学校をとりまく社会状況と社会科教員①：「教育改革」の背景	事前配布資料の精読
	6	中学校をとりまく社会状況と社会科教員②：「教育改革」の実際	事前配布資料の精読
	7	中学校教育をとりまく現状①：先輩から話を聴こう	班での議論・班レポの作成
	8	中学校教育をとりまく現状②：先輩から話を聴こう	班での議論・班レポの作成
	9	歴史教育をめぐる社会状況①：「歴史教科書」問題の経緯	事前配布資料の精読
	10	歴史教育をめぐる社会状況②：「従軍慰安婦」掲載論争	事前配布資料の精読
	11	歴史教育をめぐる社会状況③：「教科書」を考える	班での議論・班レポの作成
	12	社会科における学力とは①：「学力」は低下したのか？	事前配布資料の精読
	13	社会科における学力とは②：「学力」とは何か？	事前配布資料の精読
14	社会科における学力とは③：社会科における「学力」とは何か？	事前配布資料の精読	
15	魅力ある地理・歴史教育のための工夫：実践論文の検証	指導案の作成	
16	まとめ		
テキスト・参考文献・資料など	<p>中学校社会科歴史的分野・地理的分野の教科書、中学校学習指導要領。 参考思慮については、適宜紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>① 藤波担当の「社会科・公民科教育法演習」の単位を修得済みであること。 ② 教職科目であるので、無断欠席、遅刻は厳禁である。 ③ ゼミ生との協調に基づく学びに、積極的に取り組む姿勢が求められる。</p>		
評価	<p>到達目標 (1) の評価：班レポートの提出 (30%) 到達目標 (2) の評価：班レポートの提出 (30%) 到達目標 (3) の評価：受講時の発言 (10%) 到達目標 (4) の評価：指導案の提出 (30%)</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本科目が未修得だと、社会科・地理歴史科教育法演習は履修できない。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・地理歴史科教育法	前期	火6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	3年	sakihama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、高等学校における地理・歴史教育の理論の修得を基本に、授業研究・教材研究の方法を体得させる。とくに、模擬授業への参加や授業実践論文の分析を通して、現場の状況に対応した学習指導案の作成を目指す。また本講義では、学校現場の課題について幅広く議論しながら、実践的なトレーニングの場となることを目標とする。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案を作成する。 ・世界史、地理、日本史など各科目の性格を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科・地理歴史科における教授法について学習します。 ・学校現場の情報を盛り込みながら、講義を進めていきます。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	社会科・地理歴史科の歴史と学習指導要領	事前に配ったプリントを読むこと
	3	高等学校社会科教育（地理・歴史）の目標と課題	同上
	4	高等学校社会科教育（地理・歴史）の目標と課題	同上
	5	現場教師との情報交換会	同上
	6	教材研究と授業方法論①	同上
	7	教材研究と授業方法論②	同上
8	教材研究と授業方法論③	同上	
9	模擬授業の見学・討論①	同上	
10	模擬授業の見学・討論②	同上	
11	学習指導案の作成方法	世界史の教科書を読んでおくこと	
12	学習指導案作成の手順	同上	
13	学習指導案の発表①	同上	
14	学習指導案の発表②	同上	
15	学習指導案の検討	同上	
16	まとめ	事前に配ったプリントの検討	
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>高等学校用教科書：東京書籍『地理B』、東京書籍『新選日本史B』、東京書籍『世界史B』帝国書院『新詳高等地図』などを使用する。学習指導要領解説編（高校地歴科編）などは、講義のなかで適宜紹介する。</p>		
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やむを得ず欠席・遅刻する場合は、メールなどで事前に連絡すること。 ・履修にあたり、教師を目指す意識を高く持ち、各課題にチャレンジすること。 		
	<p>評価</p> <p>①授業時における質問・意見・討論・発表などにみられる熱意や態度（40点）。 ②学習指導案などに示された学習・研究活動への熱意や成果（40点）。 ③その他、指定した課題レポート（20点）。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>後期の演習科目（社会科・地理歴史科教育法演習）での教壇実践に繋げるように、各自、教材研究を行うこと。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・地理歴史科教育法演習	前期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「社会科・地理歴史科教育法」における学習内容をふまえ、教育実習にむかって、学生各人が教材研究および指導案の作成を行い、それをもとに模擬授業およびその分析と評価を行う。本演習の眼目は、授業技術のみならず、参加者全員の相互協力、相互批評による総合的教職実践力の練成にある。したがって、学生各人のコミュニケーションスキルの深化が強く求められると考えてよい。	
到達目標		

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 自己紹介、グループ分け 3 社会科教育の目的と課題 4 模擬授業・分析と評価（1） 5 模擬授業・分析と評価（2） 6 模擬授業・分析と評価（3） 7 模擬授業・分析と評価（4） 8 模擬授業・分析と評価（5） 9 模擬授業・分析と評価（6） 10 模擬授業・分析と評価（7） 11 模擬授業・分析と評価（8） 12 模擬授業・分析と評価（9） 13 模擬授業・分析と評価（10） 14 模擬授業・分析と評価（11） 15 模擬授業・分析と評価（12）
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>中学校社会科歴史的分野・地理的分野の教科書など。適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>評価</p> <p>受講態度、作成した指導案、模擬授業、その他提出物によって総合的に評価する。なお、模擬授業を行わない者は無条件に不合格とする。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・地理歴史科教育法演習	前期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	3年	研究室 (5434)、またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、社会科教育の実践的な技能の修得・向上、並びに最後の模擬授業実践を通じた教育実習参加への意識高揚を目的としている。具体的には、指導案作成能力、模擬授業を通じた授業実践能力、模擬授業への参加による授業批判力等の技能の向上をめざす。さらに、社会科公民科教育法演習との合同授業なので、これから模擬授業を実施する3年生の見本となるように取り組んでもらいたい。</p>	<p>単に2度目の模擬授業に取り組むだけでなく、教育実習生として学校現場に出ることを強く意識して、ゼミでの学びに取り組んでもらいたい。</p>
到達目標	<p>(1) 自らの担当する単元について、適切かつ多面的に教材研究をおこなうことができる。 (2) 基本的な形式に従い、論理的な構成に基づく指導案を作成することができる。 (3) 適切かつ効果的な指導方法を用いて、模擬授業実践をおこなうことができる。 (4) 他者が実践した模擬授業について、建設的に批評することができる。 (5) 他者との協調と自らの責任において、模擬授業実践に主体的かつ協力的に取り組むことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント			
	授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	ガイダンス	シラバス内容の理解	
	2	グループ分けと模擬授業のテーマ決定	教材研究	
	3	社会科の教育目的の復習	教材研究/事前配布資料の精読	
	4	模擬授業と批判的分析①	模擬授業の準備・協力/評価表作成	
	5	模擬授業と批判的分析②	模擬授業の準備・協力/評価表作成	
	6	模擬授業と批判的分析③	模擬授業の準備・協力/評価表作成	
	7	模擬授業と批判的分析④	模擬授業の準備・協力/評価表作成	
	8	模擬授業と批判的分析⑤	模擬授業の準備・協力/評価表作成	
	9	模擬授業と批判的分析⑥	模擬授業の準備・協力/評価表作成	
	10	模擬授業と批判的分析⑦	模擬授業の準備・協力/評価表作成	
	11	模擬授業と批判的分析⑧	模擬授業の準備・協力/評価表作成	
	12	模擬授業と批判的分析⑨	模擬授業の準備・協力/評価表作成	
	13	模擬授業と批判的分析⑩	模擬授業の準備・協力/評価表作成	
14	模擬授業と批判的分析⑪	模擬授業の準備・協力/評価表作成		
15	模擬授業と批判的分析⑫	模擬授業の準備・協力/評価表作成		
16	まとめ			
テキスト・参考文献・資料など	<p>中学校社会科歴史的分野・地理的分野の教科書、中学校学習指導要領。 参考資料については、適宜紹介する。</p>			
学びの手立て	<p>① 藤波担当の「社会科・地理歴史科教育法」の単元を修得済みであること。 ② 教職科目であるので、無断欠席、遅刻は厳禁である。 ③ ゼミ生との協調に基づく学びに、積極的に取り組む姿勢が求められる。 ④ 受講生数によっては、休日や6校時に補講を実施することがある。</p>			
評価	<p>到達目標 (1) (2) の評価 : 指導案の提出と内容 (40%) 到達目標 (3) の評価 : 模擬授業実践の内容 (30%) 到達目標 (4) の評価 : 模擬授業へのコメントと評価表の提出 (20%) 到達目標 (5) の評価 : 模擬授業への取り組み内容 (10%) による総合評価。</p>			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本科目が未修得だと、教育実習を受講することはできない。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・地理歴史科教育法演習	後期	火6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	3年	sakihama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ①前期の地理歴史科教育法をふまえて、模擬授業を実施する。 ②教材研究の方法と学習指導案作成の実際について、総合的な理解を深める。 ③模擬授業による自己評価と他者批評を行う。	メッセージ ・社会科・地理歴史科における教授法について学習します。 ・学校現場の情報を盛り込みながら、講義を進めていきます。
	到達目標 ・世界史・地理・日本史の学習指導案を作成し、授業実践を行う。 ・教育実習に向けての課題を明確にする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	教科教育法演習の進め方	シラバスをよく読むこと
	2	教材研究および学習指導案の作成	事前に配った資料を読むこと
	3	教材研究および学習指導案の作成	同上
	4	現職教員を招いての講話とディスカッション①	同上
	5	高校における世界史分野の模擬授業実施と授業検討会	同上
	6	高校における世界史分野の模擬授業実施と授業検討会	同上
	7	高校における世界史分野の模擬授業実施と授業検討会	同上
	8	高校における地理的分野の模擬授業実施と授業検討会	同上
	9	高校における地理的分野の模擬授業実施と授業検討会	同上
	10	高校における地理的分野の模擬授業実施と授業検討会	同上
	11	高校における日本史分野の模擬授業実施と授業検討会	同上
	12	高校における日本史分野の模擬授業実施と授業検討会	同上
	13	高校における日本史分野の模擬授業実施と授業検討会	同上
	14	現職教員を招いての講話とディスカッション②	同上
15	教育実習に向けての教材研究・授業実践の検討	同上	
16	まとめ	同上	
	テキスト・参考文献・資料など ・東京書籍『地理B』、東京書籍『新選日本史B』、東京書籍『新選世界史B』、帝国書院『地歴高等地図-現代世界とその歴史的背景-最新版』、学習指導要領解説編（高校地歴科）および副教材。		
	学びの手立て ・やむを得ず欠席・遅刻する場合は、メールなどで事前に連絡すること。 ・履修にあたり、教師を目指す意識を高く持ち、各課題にチャレンジすること。		
	評価 ①学習指導案の内容と模擬授業の成果（40点）。 ②模擬授業合評会での発言および熱意・態度（30点）。 ③ゼミ運営への関わり、課題レポートなどに示された学習活動への熱意や態度（30点）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 学校現場における教育実習に繋げるように、各自、教材研究・授業研究を行うこと。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科・地理歴史科教育法演習	後期	火6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	3年	メールにて問い合わせにお答えします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①前期の地理歴史科教育法の履修成果をふまえて模擬授業を実施する。 ②教材研究と学習指導案について。 ③模擬授業の自己評価および相互検討。	4年次の教育実習を念頭に入れて、模擬授業には真剣に取り組んでもらいたい。

到達目標
1. 自ら率先して教材研究を行い、学習指導案作成ができる。 2. 実際の教育現場を想定して、立体的な授業展開ができるようになる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	模擬授業案成上の運営方法	配布資料の復習
	2	教材研究および学習指導案の作成(1)	配布資料の復習
	3	教材研究および学習指導案の作成(2)	配布資料の復習
	4	高校における地理的分野の模擬授業実施と授業検討会	指導案準備(発表者)
	5	高校における地理的分野の模擬授業実施と授業検討会	指導案準備(発表者)
	6	高校における地理的分野の模擬授業実施と授業検討会	指導案準備(発表者)
	7	高校における地理的分野の模擬授業実施と授業検討会	指導案準備(発表者)
	8	高校における地理的分野の模擬授業実施と授業検討会	指導案準備(発表者)
	9	高校における地理的分野の模擬授業実施と授業検討会	指導案準備(発表者)
	10	高校における地理的分野の模擬授業実施と授業検討会	指導案準備(発表者)
	11	高校における地理的分野の模擬授業実施と授業検討会	指導案準備(発表者)
	12	高校における地理的分野の模擬授業実施と授業検討会	指導案準備(発表者)
	13	高校における地理的分野の模擬授業実施と授業検討会	指導案準備(発表者)
	14	県立糸満青年の家における模擬従業合宿(1泊2日)	指導案準備(発表者)
15	総括	配布資料の復習	
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	【テキスト】 東京書籍『地理B』、東京書籍『新選日本史B』、東京書籍『新選世界史B』、帝国書院『地歴高等地図 -現代世界とその歴史的背景- 最新版』1,575円、学習指導要領解説編(高校地歴)および副教材。以上の教科書・地図帳・学習指導要領解説編は購入のこと。 【参考文献】 随時、紹介する。

学びの実践	学びの手立て
	①遅刻厳禁。 ②各種提出物の期日を厳守すること。 ③模擬授業時、発表者はリクルートルック(ネクタイ・スーツ等)の服装で受講のこと。

学びの実践	評価
	①出欠・遅刻などにみられる授業への参加の程度。②学習指導案の内容と模擬授業の成果。 ③模擬授業合評会での発言および熱意・態度。④授業感想文・意見文、課題レポートなどに示された学習活動への熱意や態度で総合的に判断する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
	教育実習

※ポリシーとの関連性 教職に関する科目なので、ポリシーとの関連性はありません。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業科教育法	前期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	3年	<ul style="list-style-type: none"> ・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp 	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>この講義ではまず、商業教育の歴史的変遷をたどることで、高等学校における商業教育の意義と役割を学びます。次いで、学習指導要領に基づき、教科「商業」の目標と組織、各科目の目標と授業内容を理解します。さらに、後期の模擬授業に向けて、学習指導の形態と方法、学習指導案の作成方法を学びます。</p>	<p>教科「商業」に関する専門性を高めるのはもちろんですが、教員採用試験に向けた受験勉強（一般教養・教職教養）にも早めに取り組みましょう。</p>

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 高等学校における商業教育の意義・役割を理解し、説明できる。 ② 学習指導要領に基づき、教科「商業」の目標と組織、各科目の目標と授業内容を理解し、説明できる。 ③ 学習指導計画の要件を理解し、学習指導案を作成できる。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	—
	2	高等学校における商業教育の意義	講義内容の復習
	3	高等学校における商業教育の歴史（教育課程の変遷）	同上
	4	学習指導要領における教科「商業」の目標と組織	同上
	5	各科目の目標と授業内容（教科の基礎的科目）	同上
	6	各科目の目標と授業内容（教科の総合的科目）	同上
	7	各科目の目標と授業内容（マーケティング分野の科目）	同上
	8	各科目の目標と授業内容（ビジネス経済分野の科目）	同上
	9	各科目の目標と授業内容（会計分野の科目）	同上
	10	各科目の目標と授業内容（ビジネス情報分野の科目）	同上
	11	学習指導の形態と方法	同上
	12	評価	同上
	13	学習指導案の作成（ビジネス基礎）	同上
	14	学習指導案の作成（簿記）	同上
15	高等学校における商業教育の現状と課題	同上	
16	まとめ	—	

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：文部科学省『高等学校学習指導要領解説商業編』実教出版，平成22年5月，459円＋税。 片岡寛他『ビジネス基礎』実教出版，平成25年1月。 安藤英義他『新簿記』実教出版，平成25年1月。</p>
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>履修上の注意事項／心構え： ・教員を目指す者が受講する科目なので、遅刻・無断欠席は認めません。 ・教育実習に最低限必要な技能（日商簿記検定2級・販売士検定3級レベル）の習得に努めてください。 学びを深めるために： ・商業科の教員には商業に関する幅広い知識（マーケティング分野、ビジネス経済分野、会計分野、ビジネス情報分野）が必要とされます。各コースの科目をまんべんなく履修してください。</p>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点……50点（講義中の取組みを評価します） ・課題……50点（学習指導案，学習プリント，板書計画など）
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：商業科教育法演習</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 教職に関する科目なので、ポリシーとの関連性はありません。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業科教育法演習	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	3年	<ul style="list-style-type: none"> ・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp 	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>来年6月の教育実習に向けて、模擬授業を行います。模擬授業を行うことによって、学習指導案の作成方法や効果的な指導方法など、実践的な技能を習得します。</p> <p>到達目標</p> <p>① 学習指導計画の要件を理解し、学習指導案を作成できる ② 学習指導案に沿って、効果的に授業を展開できる。 ③ 他者が行った模擬授業に対して、適切にコメントできる。</p>	<p>教科「商業」に関する専門性を高めるのはもちろんですが、教員採用試験に向けた受験勉強（一般教養・教職教養）にも早めに取り組みましょう。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	—
	2	模擬授業	模擬授業の反省と準備
	3	模擬授業	模擬授業の反省と準備
	4	模擬授業	模擬授業の反省と準備
	5	模擬授業	模擬授業の反省と準備
	6	模擬授業	模擬授業の反省と準備
	7	模擬授業	模擬授業の反省と準備
	8	社会人講師（高校の教員）による講話	—
	9	模擬授業	模擬授業の反省と準備
	10	模擬授業	模擬授業の反省と準備
	11	模擬授業	模擬授業の反省と準備
	12	模擬授業	模擬授業の反省と準備
	13	模擬授業	模擬授業の反省と準備
14	模擬授業	模擬授業の反省と準備	
15	模擬授業	模擬授業の反省と準備	
16	まとめ	—	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：文部科学省『高等学校学習指導要領解説商業編』実教出版，平成22年5月，459円＋税。 片岡寛他『ビジネス基礎』実教出版，平成25年1月。 安藤英義他『新簿記』実教出版，平成25年1月。		
	学びの手立て 履修上の注意事項／心構え： ・教員を目指す者が受講する科目なので、遅刻・無断欠席は認めません。 ・教育実習に最低限必要な技能（日商簿記検定2級・販売士検定3級レベル）の習得に努めてください。 学びを深めるために： ・商業科の教員には商業に関する幅広い知識（マーケティング分野、ビジネス経済分野、会計分野、ビジネス情報分野）が必要とされます。各コースの科目をまんべんなく履修してください。		
	評価 ・指導案……30点 ・模擬授業への取組み……50点 ・他者が実施する模擬授業へのコメント……20点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 来年6月の教育実習に向けて、日々の学習に励んでください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	進路指導・生活指導	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-助川 菜生	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 教職を目指すにあたり学校を中心としたコミュニティに貢献できるようにするために、心理学の立場から、グループワークやロールプレイを通して、必要なコミュニケーションスキルを身につけ、学校現場の実際に即して実践的に学ぶ。	メッセージ 皆さんが先生になったとき、学校コミュニティでの実践に役立つように、進路指導・生活指導が対象とする問題にどう向かうかを体験的に理解できる授業を目指します。
	到達目標 進路指導・生活指導の基礎的な知識を身につけ、自分の言葉で説明できる。 自己理解、他者理解の方法を身につけ、対人関係に応用できる。 文部科学省、教育委員会の資料や教育に関する時事問題について自ら調べ、わかりやすく説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・登録調整	テキスト第1章を事前に読む
	2	生徒理解の基礎	テキスト第2章を事前に読む
	3	思春期・青年期の発達課題	テキスト第3章を事前に読む
	4	進路指導の理論と方法①	テキスト第12章を事前に読む
	5	進路指導の理論と方法②	同上
	6	各論(1) 不登校・ひきこもり①	テキスト第4章を事前に読む
	7	各論(1) 不登校・ひきこもり②	同上
	8	各論(2) いじめ①	テキスト第5章を事前に読む
9	各論(2) いじめ②	同上	
10	各論(3) 非行①	テキスト第6章を事前に読む	
11	各論(3) 非行②	同上	
12	各論(4) 性①	テキストP.57を事前に読む	
13	各論(4) 性②	同上	
14	学校組織と関係機関・家庭との連携	テキスト第10章を事前に読む	
15	まとめと振り返り	レポート作成	
16			
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：長谷川啓三、佐藤宏平、花田里欧子 編「事例で学ぶ生徒指導・進路指導・教育相談 中学校・高等学校編」遠見書房 参考文献：石隈利紀「学校心理学」誠信書房 ほか、講義内で随時、資料を配布する		
	学びの手立て 課題レポート、グループワーク等に、自ら課題を見出し、取り組む姿勢を求めます。ワークへの不参加は認めません。 毎回、出欠確認を行いますので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に届けるか、他受講生に伝言を依頼してください。 随時配布資料・宿題は次回必ず持参してください。また、欠席した回の資料は自力で入手してください。 出欠状況の確認には応じませんので、自ら記録してください。		
	評価 受講態度(20%)と講義毎の課題レポート(60%)と最終レポート(20%)から総合評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	進路指導・生活指導	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	2年	オフィス・アワー 水曜4校時 katamoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、心理学(とりわけ青年期の発達に関する諸理論)の立場から、グループワークやロールプレイを交えながら、学校現場の実際に即してより実践的に学んでいきます。</p>	<p>教師を目指す過程で「いじめが起きたらどうしよう」「不登校や非行をする生徒にどう対応して良いか分からない」と思ったり悩んだりすることはありますか。この科目では基礎理論の上で立って、実際の場面に即した形で課題解決の方法を探ります。「こんなとき、こうすることもできる」と選択肢の一つでも増やして講義室のドアを出しましょう。</p>
到達目標	<p>①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。 ②大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習がコンスタントにできる。 ④青年期の発達課題と学校現場での諸問題の関係について理解できるようになる。 ⑤④を踏まえて、学校現場の諸問題への対応の選択肢が増やせるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・登録調整	シラバスを読んでくる
	2	思春期・青年期の発達① 中学生の発達とアイデンティティ	講義中に指示の課題①
	3	思春期・青年期の発達② 学校現場での性教育	講義中に指示の課題②
	4	進路指導① 進路指導の歴史と、今日の日本でめざされているキャリア教育	講義中に指示の課題③
	5	進路指導② 青年期の発達課題を踏まえた進路指導	講義中に指示の課題④
	6	進路指導③ 生徒の心に添う進路指導とは	講義中に指示の課題⑤
	7	生徒の示す問題行動の理解① 不登校 その1 (不登校に関する理論/青年期の発達課題と不登校)	講義中に指示の課題⑥
	8	生徒の示す問題行動の理解② 不登校 その2 (理論を踏まえた不登校への対応)	講義中に指示の課題⑦
	9	生徒の示す問題行動の理解③ 非行 その1 (青年期の発達課題と非行/薬物乱用)	講義中に指示の課題⑧
	10	生徒の示す問題行動の理解④ 非行 その2 (初発型非行への対応)	講義中に指示の課題⑨
	11	授業・学級経営のヒント① いじめと体罰 その1	講義中に指示の課題⑩
	12	授業・学級経営のヒント② いじめと体罰 その2	講義中に指示の課題⑪
	13	授業・学級経営のヒント③ いじめと体罰 その3	講義中に指示の課題⑫
	14	教師と保護者・専門機関との連携	講義中に指示の課題⑬
15	まとめ・振り返り	講義中に指示の課題⑭	
16	期末試験		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は使用しない。講義内で適宜資料を配付したり、各自で文科省や県教育委員会のHPなどから資料をダウンロードしたりして活用する。 水谷 修「さらば、哀しみのドラッグ」高文研 森田ゆり「子どもと暴力」岩波書店 他</p>
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>①予習・復習は必須です。予め講義の範囲のテキスト・資料を読み「分かったこと」「分からなかったこと」「共感できる点」「共感できなかった点」を記入したフォーマットをもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。 ③欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ④配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。 上記は成績評価に反映します。</p>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」を含む平常点 … 20% ②期末試験 … 80% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。</p>
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この科目の単位を取得する際には教科教育法等があり教職課程履修が本格化しています。「介護等体験」や「教育実習」で本講義の学びがいかせるよう、模擬授業等にこの科目で得た知見やスキルを反映させていくことが求められます。 心理学の関連科目として、「学校カウンセリング」があります。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	進路指導・生活指導	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	片本 恵利	2年	オフィス・アワー 水曜4校時 katamoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、心理学(とりわけ青年期の発達に関する諸理論)の立場から、グループワークやロールプレイを交えながら、学校現場の実際に即してより実践的に学んでいきます。</p>	<p>教師を目指す過程で「いじめが起きたらどうしよう」「不登校や非行をする生徒にどう対応して良いか分からない」と思ったり悩んだりすることはありませんか。この科目では基礎理論の上で、実際の場面に即した形で課題解決の方法を探ります。「こんなとき、こうすることもできる」と選択肢の一つでも増やして講義室のドアを出しましょう。</p>
到達目標	<p>①教職の基礎となる学問的態度について理解し、身につけるための行動を継続する。 ②大学での学びの基礎となる「読む」「書く」「話す」を身につけるための行動を継続する。 ③大学での講義への参加の基本となる予習・復習がコンスタントにできる。 ④青年期の発達課題と学校現場での諸問題の関係について理解できるようになる。 ⑤④を踏まえて、学校現場の諸問題への対応の選択肢が増やせるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・登録調整	シラバスを読んでくる
	2	思春期・青年期の発達① 中学生の発達とアイデンティティ	講義中に指示の課題①
	3	思春期・青年期の発達② 学校現場での性教育	講義中に指示の課題②
	4	進路指導① 進路指導の歴史と、今日の日本でめざされているキャリア教育	講義中に指示の課題③
	5	進路指導② 青年期の発達課題を踏まえた進路指導	講義中に指示の課題④
	6	進路指導③ 生徒の心に添う進路指導とは	講義中に指示の課題⑤
	7	生徒の示す問題行動の理解① 不登校 その1 (不登校に関する理論/青年期の発達課題と不登校)	講義中に指示の課題⑥
	8	生徒の示す問題行動の理解② 不登校 その2 (理論を踏まえた不登校への対応)	講義中に指示の課題⑦
	9	生徒の示す問題行動の理解③ 非行 その1 (青年期の発達課題と非行/薬物乱用)	講義中に指示の課題⑧
	10	生徒の示す問題行動の理解④ 非行 その2 (初発型非行への対応)	講義中に指示の課題⑨
	11	授業・学級経営のヒント① いじめと体罰 その1	講義中に指示の課題⑩
	12	授業・学級経営のヒント② いじめと体罰 その2	講義中に指示の課題⑪
	13	授業・学級経営のヒント③ いじめと体罰 その3	講義中に指示の課題⑫
	14	教師と保護者・専門機関との連携	講義中に指示の課題⑬
15	まとめと振り返り	講義中に指示の課題⑭	
16	期末試験		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は使用しない。講義内で適宜資料を配付したり、各自で文科省や県教育委員会のHPなどから資料をダウンロードしたりして活用する。 水谷 修「さらば、哀しみのドラッグ」高文研 森田ゆり「子どもと暴力」岩波書店 他</p>
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>①予習・復習は必須です。予め講義の範囲のテキスト・資料を読み「分かったこと」「分からなかったこと」「共感できる点」「共感できなかった点」を記入したフォーマットをもとに講義内でグループディスカッションを行い、学びを深めます。 ③欠席は「履修規程」通り厳密に扱います。 ④配布物・提出物等についても、講義内で説明したとおりに進めます。 上記は成績評価に反映します。</p>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>①予習復習・課題その他成果物をつづった「ポートフォリオ」を含む平常点 … 20% ②期末試験 … 80% 大学の教職課程ですので、「頑張ったから」「出席して感想文を出したから」合格、ということはありません。あくまで、教職につくために必要な能力を見るという観点から、①②を通して上記「到達目標」がどの程度できているかを評価します。</p>
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この科目の単位を取得する際には教科教育法等があり教職課程履修が本格化しています。「介護等体験」や「教育実習」で本講義の学びがいかせるよう、模擬授業等にこの科目で得た知見やスキルを反映させていくことが求められます。 心理学の関連科目として、「学校カウンセリング」があります。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

教職に関する科目であり、本学カリキュラムポリシーにおける「専門職業人として社会貢献できる能力」の習得に関連します。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報科教育法	前期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	3年	産業情報学科 平良直之 email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	情報科教員には、教員としての基本的な資質に加えて、情報に関する知識と情報技術が求められる。したがって、受講者自身が情報分野において本質を深く理解するとともに、それらを効果的に教える技術も必要とされる。本講義では、教科としての「情報」の設置の経緯を概観し、現代社会における情報技術の必要性和情報技術活用の展望を解説し、情報分野を体系的に学ぶ。	本講義では高等学校で使用されている教科書をベースに学習指導要領で求められることを関連付けながら学びます。情報教員として必要不可欠の知識であることを留意してください。
到達目標	学習指導要領で求められる事項を理解したうえで、情報科目の内容をわかりやすく伝える能力を習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス／受講受付	次回講義の予習課題
	2	情報科設立の経緯とその意味（情報教育の歴史）	次回講義の予習課題
	3	情報教育の現状と課題	次回講義の予習課題
	4	情報産業と社会の分野について（目標・内容と指導方法の考察）	次回講義の予習課題
	5	インターネットと倫理教育の分野について（目標・内容と指導方法の考察）	次回講義の予習課題
	6	情報の表現の分野について（目標・内容と指導方法の考察）	次回講義の予習課題
	7	アルゴリズムとフローチャートの分野について（目標・内容と指導方法の考察）	次回講義の予習課題
	8	情報システムの設計と開発の分野について（目標・内容と指導方法の考察）	次回講義の予習課題
	9	ネットワークシステムの構築と管理運営の分野について（目標・内容と指導方法の考察）	次回講義の予習課題
	10	経済モデルとコンピュータシミュレーションの分野について（目標・内容と指導方法の考察）	次回講義の予習課題
	11	コンピュータグラフィックスとデザインの分野について（目標・内容と指導方法の考察）	次回講義の予習課題
	12	マルチメディア表現の方法の分野について（目標・内容と指導方法の考察）	次回講義の予習課題
	13	情報各分野の模擬授業指導案の作成方法（1）	次回講義の予習課題
14	情報各分野の模擬授業指導案の作成方法（2）	次回講義の予習課題	
15	後期「情報科教育法演習」の計画発表		
16	総括		
テキスト・参考文献・資料など	講義開始時に指定する。 「情報科教育法」大岩元他，オーム社。 「情報教育シリーズ 情報科教育法」岡本敏雄他，丸善。		
学びの手立て	「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、図書館所蔵の書籍やDVDも適宜参考にすること。		
評価	基本的に欠席は認めない。授業態度とレポートで総合的に判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージとして「情報化教育法演習」がある。
-------	--

※ポリシーとの関連性

教職に関する科目であり、本学カリキュラムポリシーにおける「専門職業人として社会貢献できる能力」の習得に関連します。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報科教育法演習	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	3年	産業情報学科 平良直之 email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「情報科教育法」の履修成果を踏まえ、学習指導案を作成し、各自1コマ（標準50分）の模擬授業を複数回行う。模擬授業を受ける際も授業分析を行わせ、授業実践の力量形成の一助とする。	本講義では学習指導案の作成と模擬授業の実施を中心にすすめていきます。模擬授業は教育実習先での研究授業を想定しているため、毎回の予習課題が非常に多いことに留意してください。
到達目標	学習指導要領で求められる事項を理解したうえで、情報科目の内容をわかりやすく伝える能力を習得する。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>(1週目) ガイダンス</p> <p>(2-3週目) 過去の授業資料配布および担当単元の設定 時間外の学習内容：担当単元の学習指導案作成</p> <p>(4-15週目) 模擬授業 ～ 学習指導案作成と授業展開方法並びに授業分析方法の習得 ～ 教師役：学習指導案を基に、教材資料を活用しながら模擬授業（50分）を行う。 生徒役：模擬授業を受ける。模擬授業の良い点や改善点を整理する。 模擬授業終了後、各生徒役の評価を踏まえながら討論を行い、教師役学生へフィードバックする。 時間外の学習内容：担当単元の学習指導案作成および補助教材の作成</p> <p>(16週目) 総括</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>『高等学校学習指導要領解説 情報編』 「情報科教育法」大岩元他、オーム社。 「情報教育シリーズ 情報科教育法」岡本敏雄他、丸善。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、図書館所蔵の書籍やDVDも適宜参考にすること。</p>
評価	出席状況、学習指導案作成並びに模擬授業の内容によって評価する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本講義の次のステージは、高等学校での教育実習である。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	特別活動演習	集中	集中	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-神山 英輝	3年	ka38mah@yahoo.co.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるための演習を行い、教育実習や教育現場で活用できるようにする。	学級集団の中で生徒が安心して仲間達と過ごせるようにするための実践をワークショップ形式で学び、子ども達がお互いの違いを大切にしながらも仲間としてつながっていくことの楽しさ、大切さを理解していく学級づくりについて学習します。

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ● これからの時代を生きる子ども達に必要な力を身につけさせる授業の在り方や、特別活動の概要について説明できる。 ● いじめ防止対策やSEL(ソーシャル&エモーション・ラーニング)の演習に積極的に参加できる。 ● 教育実習において、わかりやすく自己紹介をする学級便りを作成できる。 ● キャリア教育の定義と「基礎的・汎用的能力」の4つを言うことができる。 ● 学級会の進め方について重要なポイントを理解し、計画を立てることができる。 ● 他の人の興味を惹くように、自分の好きな本について紹介できる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	これからの授業と特別活動	心に残る教師の報告(予習)
	2	特別活動の概要	学習指導要領の熟読(予習)
	3	いじめ防止	防止基本方針の熟読(復習)
	4	SEL(社会性と情動の学習)	他実践方法の学習(復習)
	5	学級便りの紹介	学級便りの作成(予習)
	6	キャリア教育	定義や4つの能力の暗記(復習)
	7	ビブリオバトル	紹介する本の準備(予習)
	8	学級会の進め方	学級会シナリオの作成(復習)
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

テキスト・参考文献・資料など
テキスト：配布するプリント資料 参考文献：授業中に適宜紹介

学びの手立て
<ul style="list-style-type: none"> ● 出欠確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールなどで連絡すること。 ● 講義は、ワークショップ形式で、アクティビティを入れるので、動きやすい服装をしてくること。 ● 2年生の「特別活動研究」を受講していると、理解が促進される。

評価
平常点(40%)…出欠状況や受講態度を確認します。 課題(30%)…「心に残る教師のレポート」「本の紹介の準備」「学校便りの作成」。 実践(30%)…ワークショップやアクティビティへの取組状況(積極性や協調性など)を確認します。

学びの継続
次のステージ・関連科目 関連科目…「教職実践演習(中)」

科目基本情報	科目名 特別活動演習	期別 集中	曜日・時限 集中	単位 1
	担当者 -宮城 達	対象年次 3年	授業に関する問い合わせ 携帯090-7392-0989	

学びの準備	ねらい 特別活動の学級活動が実践できる	メッセージ 特活のイメージ作りと企画、実践ができる
	到達目標 1、特別活動の具体的なイメージを学校活動の中に位置づけることができる 2、教育実習の中で「学級活動」が実践できる（討議、レク・行事、講話等）	

学びの準備	到達目標 1、特別活動の具体的なイメージを学校活動の中に位置づけることができる 2、教育実習の中で「学級活動」が実践できる（討議、レク・行事、講話等）
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	I グループ活動の展開① 自己紹介 ② グループアピール ③ グループ対抗レク大会	
	2	II 「学年開き」を構想しよう ① 原案づくり ② 発表と質疑 ③ 群読作り	
	3	III 「防災クロスゲーム」に挑戦しよう ① ゲームの紹介 ② ゲーム ③ ふりかえり	
	4	IV 「子どもたち・教育・教師の現状」 資料読み合わせ、討議	
	5	V 「ビブリオバトル」大会で優勝しよう ① グループ内での代表選出 ② 全体大会	
	6	VI 学級での「講話」に挑戦しよう ① テーマ決め ② 構想 ③ 発表 ④ 講評	
	7	VII～VIII 原案作り・リレー討論会 ①学級で活発な討議を（理論編） ②「討議」言葉解説	
	8	③原案作り ④リレー討論会（各グループの原案への討議）	
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ・学習指導要領「特活編」 ・「学級活動」関連本 ・教育課題、子ども理解関連文献
-------	---

学びの実践	学びの手立て グループ活動での個性の発揮と協力性とのバランス 履修の心構え:いかに明るく積極性を自ら出せるか！
-------	---

学びの実践	評価 ①講義への集中と積極性 ②グループ活動への参加 ③課題の提出
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 1. 常に、具体的な学校教育の課題、子どもたちの実態の理解に努めていく。 2. 「特別活動」のための企画力、技能、実践力を普段に高めていく努力とともに、特に「学級活動」を豊かで、創造的なものにするための新しい分野（レク、イベント、討議等）や知識に挑戦していく。
-------	--

※ポリシーとの関連性

教職に関する科目（教育学、教育心理など）を履修してきたことを前提に、教育実習を視野に入れながらより実践的な演習にする。

[/演習]

科目基本情報	科目名 特別活動演習	期別 集中	曜日・時限 集中	単位 1
	担当者 -喜屋武 幸	対象年次 3年	授業に関する問い合わせ	
			授業終了後に教室で受け付けます。メールでの質問も受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本集中講義では、子どもを生活主体・発達主体・権利主体ととらえ、特別活動の中で一人ひとりの子どもの発達保障をどのように実現していくかということについて深く考え、「ワークショップと討論」を通して追究します。ワークショップは身体的活動を取り入れたゲーム形式、言語活動を主とした哲学的思考アクティビティなど、教育実習で役立つ実践力の向上を図ることをねらいとする。	メッセージ 積極的に意見を述べるようにしよう。他の人の意見は聞きたいが、発言することは遠慮したいという消極的な態度を克服しよう。ひとり一人みんな違う意見をもっていることが当然なこと。それを交流させることが学ぶことである。また批判的に学ぶ姿勢をもってほしい。
	到達目標 【知識・理解】○特別活動の概念と意義を理解し、ワークショップの内容を理解している。○子どもの発達と特別活動についての関連性を理解し、実践を構想できる知識をもつ。【思考・判断】○事前に与えられた資料を読みこなし、自分の見解をもって授業に参加できる。○他者の意見を丁寧に聞き取り、自分との共通点、相違点を理解することができる。【技能・表現】○教育学はもとより一般諸科学の領域を土台に、教育の様々な事象を分析し表現できる。○他者と課題を共有し、討議・討論を通して真理を探究することができる。【関心・意欲】○常に子どもの置かれた環境（家庭・学校・地域）に関心をもち、改善しようとする意欲をもつ。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ワークショップ① 集団づくりにおけるゲームの意義と指導法
	2	哲学的アクティビティ 「サイレントダイアログ」他
	3	実践分析：中学校編
	4	ワークショップ②「K」法」という手法 ラベル化 図解・構造化 発表
	5	ワークショップ③ 集団づくりの理論とスキルと
	6	ワークショップ④ 地球市民を育むアクティビティ 「創作ドラマ」他
	7	学級分析の手法－学級地図を描く 「2年1組という学級」
	8	実践分析：高校編 ゲストティーチャー招聘
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
16		
時間外学習の内容		

テキスト・参考文献・資料など
特に使用しない。資料を配付する。

学びの手立て
 (1) 積極的に意見を述べるようにしよう。--・他の人の意見は聞きたいが、発言することは遠慮したいという消極的な態度を克服しよう。・ひとり一人みんな違う意見をもっていることが当然なこと。それを交流させることが学ぶことである。
 (2) 批判的に学ぼう。--・資料や学校現場での実践を、批判的に学び取るようにしよう。‘I understand what you mean, But it doesn't make sense’ 「おっしゃる意味はよくわかる。しかしどうも変だ」という感性をもとう。
 (3) 他学部・学科の学生と授業の内外で交流しよう。--・異質な他者との出会いは、自分自身を創る重要な要素である。真理だと思っていることも、他の分野からは必ずしも真理ではない。

評価
 評価は、＜知識理解＞＜思考判断＞＜技能表現＞＜関心意欲＞の観点から評価する。具体的には、出席、ワークシート、討論での発言、グループワークでの表現・技能、プレゼンテーションのレベルなどを総合的に判断して評価する。テストは行わない。
 プレゼンテーション等を総合的に判断し評価する。

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 本科目を履修した後は、教科指導などに関連する「模擬授業」「学級経営」「生徒指導」などの科目等で、理論とスキルが生かせるものと確信している。集団づくりは、学級集団、学年集団だけではなく、学習集団も含まれる。より高度な自治的集団へと自己展開していく集団指導の技が教師には求められことを理解してほしい。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	特別活動演習	集中	集中	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-比嘉 啓信	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	子どもを生活主体・発達主体・権利主体として捉え、特別活動の中で一人ひとりの子どもの発達保障をどのように実現していくかを、映像資料や実践事例をもとに、二重討議の方法を用いながら受講生と担当者が協同して追求していきます。	現場で実践力のある教師として働いていくために必要なHRにおける生活指導、集団づくりの力量を高めることができるようにともに頑張っていきましょう。
到達目標	教科外活動における実践的指導力を養う。特に次の点に力点をおく。 ①HRにおいて生徒が抱える諸問題の根底にあるものが何かを分析し、その解決のための指導・支援のあり方を考えることができる。 ②学校行事や体験活動等の意義と課題について理解し、その実践の具体的な在り方について知ることができる。 ③教科外活動における教師の役割を理解し、実践力の基盤を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	いじめ問題の現実について映像から掴み取る	映像資料の視聴と問題点の分析
	2	いじめの原因・構造の分析といじめ問題を乗り越える学級集団づくり①	二重討議の方法と実践の理解
	3	いじめの原因・構造の分析といじめ問題を乗り越える学級集団づくり②	参考文献の読み込み
	4	理想のHRづくりについて考える	参考文献の読み込み
	5	実践分析「わがままなA子が成長できた理由」①	実践記録の読み込みと分析
	6	実践分析「わがままなA子が成長できた理由」②	実践記録の読み込みと分析
	7	アクティビティ「子どもとつながる、子どもがつながるLHR実践づくり」	アクティビティ選定と実践案づくり
	8	自己開示、他者理解を促し、集団の凝集性を高める実践づくりのポイントとは？	参考文献の読み込み
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<ul style="list-style-type: none"> 『友だち地獄～「空気を読む」世代のサバイバル』土井隆義 『いじめの構造～なぜ人が怪物になるのか』内藤朝雄 『教室内カースト』鈴木翔 『10代との対話 学校ってなあに』竹内常一

学びの実践	学びの手立て
	<p>①受講生のグループ分けと受講要領の詳細をオリエンテーションで指示します。受講生は必ずオリエンテーションに参加すること。</p> <p>②「参加・討論型」（二重討議方式）の授業なので、受講生は討論に参加できる事前の学習（資料の読み込み・分析）をしっかりと行うこと。</p> <p>③集中講義なので、遅刻は厳禁、全日程の出席を必須とする。</p>

学びの実践	評価
	<p>沖縄国際大学の学部共通の成績評価規定にしたがう。その際に以下の内容を総合して評価する。</p> <p>①学習グループ毎の発表レジュメの作成過程と内容、発表のしかたなど（25点）</p> <p>②授業（二重討議方式）への参加態度（25点）</p> <p>③2回の小テストの成績（50点）</p> <p>④出席状況</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	教育実習での具体的実践に役立つような内容にしていきます。講義終了後も具体的な実践案について分析・計画を深めていきましょう。

※ポリシーとの関連性

この演習を通して、専門に必要なスキルの取得する。さらに教師としての資質、能力を向上させる。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	特別活動演習	集中	集中	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲里 健	3年	沖縄県立博物館・美術館 098-851-5401	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「特別活動」は人間の生きる力に直接関わって学校教育全般にわたるバックボーンとしての役割を担っている。それだけに、人間教育の側面を強く持ち、指導の多様さと奥深さを持つ。教育課程では「学級活動」「生徒会活動」「学校行事」に総時数35時間が配当されているが、時間内で多様に亘る内容を指導するには形式的に流れるきらいがある。</p> <p>到達目標</p> <p>本講義は、多岐多様にわたる「特別活動」の内容から根本要素を取り出し、それらを系統化させ、生徒を中心とした有機的な活動を展開する中から、「特別活動」の目標を効果的に達成させようとするものです。学校活動はにおいて授業はもちろんのこと、特別活動も生徒の発達段階に合わせた活動が必要です。そこで「HR活動」「生徒会活動」「学校行事」において、生徒集団と生徒個々の関わり、教師との関わり、生徒自身の発達をどのように発展させていくのか、討議形式の授業で実践を分析し、スキルアップをはかります。さらにグループ学習を通して、異質な他者との関わりや協同の意味を理解し、生徒3年間の学校生活の計画的な指導のビジョンがイメージできるように授業を展開し、資質の向上をはかれるようにします。</p>	<p>この科目は、教育実習をする上で必要な科目です。学校での教育活動は授業だけではなく、特に特別活動は、指導案があるわけではなく、それぞれが卒業した校種によっても経験が異なります。経験が無いからといって指導しないという選択はありません。中学や高校を通してどのような行事、生徒会活動があったのか、思い出してみてください。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	HRの実践	各班においてレジメの作成
	2	実践分析① 学習指導要領を読み解く	各班においてレジメの作成
	3	実践分析② HR開きをどのように組み立てるか	各班においてレジメの作成
	4	実践分析③ 学校行事における総括の役割	各班においてレジメの作成
	5	実践分析④ 学校行事の意義と達成度	各班においてレジメの作成
	6	実践分析⑤ 課題解決に向けての取り組み	各班においてレジメの作成
	7	実践分析⑥ 生徒会活動の取り組み	各班においてレジメの作成
	8	実践分析⑦ カウンセリングマインド	各班においてレジメの作成
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは、授業の内容に合わせて、講師が準備する。</p>
----	--

学びの手立て	<p>講義に関しては、事前にオリエンテーションを行います。オリエンテーションで、個別(班別)の課題を提示します。講義において遅刻や欠席は厳禁です。教師を目指す学生の態度として認めることはできません。「一人の人間を育てる使命を責任」を理解し、行動できるように心構えをしておいて下さい。</p>
--------	---

評価	<p>①事前の課題と、毎日の課題 ②各班での発表の内容とレジメの内容 ③討議への参加の姿勢と内容 を総合的に判断する。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>教育実習の後の「教育実践演習」も必修です。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	特別活動研究	期別	曜日・時限	単位
	担当者	三村 和則	後期	火 3	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室番号：5505 E-mail：mimura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	特別活動の内容である学級活動と生徒会活動と学校行事を指導する際、その基礎となり要となるのは学級経営である。本講義では学級経営の一助として「学級集団づくり」の方法論を解説する。「学級集団づくり」とは、子どもの必要と要求に基づき自治的・自主的な学級活動をすすめる学級を民主的集団に形成し、子どもを民主的な権利主体・自治主体に高め、同時に人間的自立を励ます営みである。	メッセージ 「学級集団づくり」理解には、今日の子どもの自立をめぐる問題状況を理解しておくことや子どもの否定的な言動の中に肯定を捉える子ども観を身につけておく必要があります。これらのことも講義では学びます。「学級集団づくり」は「班・核・討議づくり」とも言われます。話し合いによる合意形成の指導、リーダーシップとフォローアップの指導、班活動の指導方法を学ぶことができます。
	到達目標	自立と依存の関係、自立をめぐる問題状況、共感的要求とその方法ならびに「学級集団づくり」の方法論（指導の見通しとしての3つの発展段階と指導の切り口としての3つの側面）について、その知識・理解を身につける。共感的要求の出発点となる否定的な言動の中に肯定を見つけることや学級行事や学校行事の原案を作る技能を身につける。これらの知識・理解や技能を身につけることで、子どもに対して受容的な態度で接し豊かな人間的交流を行い子どもの抱える課題を理解できる技能を身につけ、子どもとの間に信頼関係を築き学級集団を把握して子どもを民主的な権利主体・自治主体に高める学級経営を行うことへの関心・意欲・態度と自信を持つことができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス / 特別活動とは何か / 学級びらきについて	中高学習指導要領特別活動の章精読
	2	子どもの自立をめぐる問題状況 1 自立の裏面としての問題行動	学級びらき実践の分析☆
	3	子どもの自立をめぐる問題状況 2 子どもらしくない子どもの増加	資料pp. 2-7精読
	4	子どもの自立をめぐる問題状況 3 校内暴力・いじめ	資料pp. 10-17精読
	5	子どもの自立をめぐる問題状況 4 不登校、体罰	学校基本調査で不登校生徒数調べ
	6	共感的要求とその方法 1 共感的要求とは何か	別冊資料読み物精読
	7	共感的要求とその方法 2 否定の中に肯定を捉える	否定の中の肯定発見練習課題☆
	8	「問題児はクラスの宝」/学級における3つの集団類型/「学級集団づくり」の3段階と3側面	資料pp. 18-24精読
	9	「討議づくり」 1 合意形成の指導	資料pp. 26-29精読
	10	「討議づくり」 2 学級行事原案づくりコンテスト、自主管理の指導	学級行事原案づくり☆
	11	「核(リーダー)づくり」 1 リーダーとフォローアの民主的な関係の指導	資料pp. 32-33精読
	12	「核(リーダー)づくり」 2 リーダーシップとフォローアップの形成方法	資料pp. 35-39精読
	13	「班づくり」 1 居場所と自治の基礎単位としての班	資料pp. 40-43精読
	14	「班づくり」 2 班活動の種類と方法	資料pp. 44-47精読
15	「学級集団づくり」から全校集団づくりへ	資料pp. 48-52精読	
16	試験		

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：配付するレジュメ集と資料集。 主要参考文献：1. 全国生活指導研究協議会(全生研) 常任委員会編『新版 学級集団づくり入門 中学校』明治図書、1991年。2. 全生研編『生活指導』(隔月誌) 高文研。3. 全国高校生活指導研究協議会(高生研)『高校生活指導』青木書店、季刊誌。4. 文部科学省『中学校学習指導要領』2008年年版、2017年版。5. 文部科学省『高等学校学習指導要領』2009年。残余については別途指示する。
----	--

学びの手立て	①「履修の心構え」：抽選となった場合、科目等履修生、4年生、3年生、2年生の順に登録を受け付ける。教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。 ②「学びを深めるために」：学級担任の役割とは何か、朝の会・帰りの会・SHR、学級会・LHR、生徒会活動及び学校行事でどんなことをしたか、また教師となったとき何をすればよいのか、生徒に何を語り、生徒と何をしたいのかを考えながら受講するとよい。毎回の講義を受講し理解することは当然であるが、講義時間内だけでは到達目標を達成するには至らないため、指定された時間外学習は必ず行うこと。また、別途指示した参考文献にて補ったり深めたりすること。
--------	--

評価	小レポートを3回程課し、出欠点検をしない場合その3分の2以上の提出を持って期末試験受験資格とする。評価方法と配分は、期末試験70%、期末課題20%、小レポート10%とする。期末試験では「到達目標」に掲げた知識・理解、思考力・判断力及び関心・意欲・態度をなるべく網羅的に評価する。論述問題とする場合、各設問に関わる講義内容(専門用語や重要事項)の出現率に対応して配点する。期末課題は「学級集団づくり」の構造表の書写を予定している。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育実習に行く年(3年生2月)の「特別活動演習」(集中講義)を受講する際、本講義と関連させると演習の理解が促進される。特別活動の内容には進路指導や教育相談も含むため「進路指導・生活指導」「学校カウンセリング」と関係する。また子どもの自立をめぐる問題状況については「教育心理学」と関係する。
-------	---

科目基本情報	科目名 特別活動研究	期別	曜日・時限	単位
	担当者 三村 和則	前期	木 4	2
		対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室番号：5505 E-mail：mimura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 特別活動の内容である学級活動と生徒会活動と学校行事を指導する際、その基礎となり要となるのは学級経営である。本講義では学級経営の一助として「学級集団づくり」の方法論を解説する。「学級集団づくり」とは、子どもの必要と要求に基づき自治的・自主的な学級活動をすすめる学級を民主的集団に形成し、子どもを民主的な権利主体・自治主体に高め、同時に人間的自立を励ます営みである。	メッセージ 「学級集団づくり」理解には、今日の子どもの自立をめぐる問題状況を理解しておくことや子どもの否定的な言動の中に肯定を捉える子ども観を身につけておく必要があります。これらのことも講義では学びます。「学級集団づくり」は「班・核・討議づくり」とも言われます。話し合いによる合意形成の指導、リーダーシップとフォローアップの指導、班活動の指導方法を学ぶことができます。
	到達目標 自立と依存の関係、自立をめぐる問題状況、共感的要求とその方法ならびに「学級集団づくり」の方法論（指導の見通しとしての3つの発展段階と指導の切り口としての3つの側面）について、その知識・理解を身につける。共感的要求の出発点となる否定的な言動の中に肯定を見つけることや学級行事や学校行事の原案を作る技能を身につける。これらの知識・理解や技能を身につけることで、子どもに対して受容的な態度で接し豊かな人間的交流を行い子どもの抱える課題を理解できる技能を身につけ、子どもとの間に信頼関係を築き学級集団を把握して子どもを民主的な権利主体・自治主体に高める学級経営を行うことへの関心・意欲・態度と自信を持つことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	講義ガイダンス / 特別活動とは何か / 学級びらきについて
	2	子どもの自立をめぐる問題状況 1 自立の裏面としての問題行動
	3	子どもの自立をめぐる問題状況 2 子どもらしくない子どもの増加
	4	子どもの自立をめぐる問題状況 3 校内暴力・いじめ
	5	子どもの自立をめぐる問題状況 4 不登校、体罰
	6	共感的要求とその方法 1 共感的要求とは何か
	7	共感的要求とその方法 2 否定の中に肯定を捉える
	8	「問題児はクラスの宝」/ 学級における3つの集団類型/「学級集団づくり」の3段階と3側面
	9	「討議づくり」 1 合意形成の指導
	10	「討議づくり」 2 学級行事原案づくりコンテスト、自主管理の指導
	11	「核(リーダー)づくり」 1 リーダーとフォローアの民主的な関係の指導
	12	「核(リーダー)づくり」 2 リーダーシップとフォローアップの形成方法
	13	「班づくり」 1 居場所と自治の基礎単位としての班
	14	「班づくり」 2 班活動の種類と方法
	15	「学級集団づくり」から全校集団づくりへ
16	試験	
	時間外学習の内容 中高学習指導要領特別活動の章精読 学級びらき実践の分析☆ 資料pp. 2-7精読 資料pp. 10-17精読 学校基本調査で不登校生徒数調べ 別冊資料読み物精読 否定の中の肯定発見練習課題☆ 資料pp. 18-24精読 資料pp. 26-29精読 学級行事原案づくり☆ 資料pp. 32-33精読 資料pp. 35-39精読 資料pp. 40-43精読 資料pp. 44-47精読 資料pp. 48-52精読	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：配付するレジュメ集と資料集。 主要参考文献：1. 全国生活指導研究協議会(全生研) 常任委員会編『新版 学級集団づくり入門 中学校』明治図書、1991年。2. 全生研編『生活指導』(隔月誌) 高文研。3. 全国高校生活指導研究協議会(高生研)『高校生活指導』青木書店、季刊誌。4. 文部科学省『中学校学習指導要領』2008年版、2017年版。5. 文部科学省『高等学校学習指導要領』2009年。残余については別途指示する。
-------	---

学びの実践	学びの手立て ①「履修の心構え」：抽選となった場合、科目等履修生、4年生、3年生、2年生の順に登録を受け付ける。教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。 ②「学びを深めるために」：学級担任の役割とは何か、朝の会・帰りの会・SHR、学級会・LHR、生徒会活動及び学校行事でどんなことをしたか、また教師となったとき何をすればよいのか、生徒に何を語り、生徒と何をしたいのかを考えながら受講するとよい。毎回の講義を受講し理解することは当然であるが、講義時間内だけでは到達目標を達成するには至らないため、指定された時間外学習は必ず行うこと。また、別途指示した参考文献にて補ったり深めたりすること。
-------	--

学びの実践	評価 小レポートを3回程課し、出欠点検をしない場合その3分の2以上の提出を持って期末試験受験資格とする。評価方法と配分は、期末試験70%、期末課題20%、小レポート10%とする。期末試験では「到達目標」に掲げた知識・理解、思考力・判断力及び関心・意欲・態度をなるべく網羅的に評価する。論述問題とする場合、各設問に関わる講義内容(専門用語や重要事項)の出現率に対応して配点する。期末課題は「学級集団づくり」の構造表の書写を予定している。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育実習に行く年(3年生2月)の「特別活動演習」(集中講義)を受講する際、本講義と関連させると演習の理解が促進される。特別活動の内容には進路指導や教育相談も含むため「進路指導・生活指導」「学校カウンセリング」と関係する。また子どもの自立をめぐる問題状況については「教育心理学」と関係する。
-------	---

科目基本情報	科目名 特別活動研究	期別 後期	曜日・時限 火5	単位 2
	担当者 三村 和則	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室番号：5505 E-mail：mimura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 特別活動の内容である学級活動と生徒会活動と学校行事を指導する際、その基礎となり要となるのは学級経営である。本講義では学級経営の一助として「学級集団づくり」の方法論を解説する。「学級集団づくり」とは、子どもの必要と要求に基づき自治的・自主的な学級活動をすすめる学級を民主的集団に形成し、子どもを民主的な権利主体・自治主体に高め、同時に人間的自立を励ます営みである。	メッセージ 「学級集団づくり」理解には、今日の子どもの自立をめぐる問題状況を理解しておくことや子どもの否定的な言動の中に肯定を捉える子ども観を身につけておく必要があります。これらのことも講義では学びます。「学級集団づくり」は「班・核・討議づくり」とも言われます。話し合いによる合意形成の指導、リーダーシップとフォローアップの指導、班活動の指導方法を学ぶことができます。
	到達目標 自立と依存の関係、自立をめぐる問題状況、共感的要求とその方法ならびに「学級集団づくり」の方法論（指導の見通しとしての3つの発展段階と指導の切り口としての3つの側面）について、その知識・理解を身につける。共感的要求の出発点となる否定的な言動の中に肯定を見つけることや学級行事や学校行事の原案を作る技能を身につける。これらの知識・理解や技能を身につけることで、子どもに対して受容的な態度で接し豊かな人間的交流を行い子どもの抱える課題を理解できる技能を身につけ、子どもとの間に信頼関係を築き学級集団を把握して子どもを民主的な権利主体・自治主体に高める学級経営を行うことへの関心・意欲・態度と自信を持つことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	講義ガイダンス / 特別活動とは何か / 学級びらきについて
	2	子どもの自立をめぐる問題状況1 自立の裏面としての問題行動
	3	子どもの自立をめぐる問題状況2 子どもらしくない子どもの増加
	4	子どもの自立をめぐる問題状況3 校内暴力・いじめ
	5	子どもの自立をめぐる問題状況4 不登校、体罰
	6	共感的要求とその方法1 共感的要求とは何か
	7	共感的要求とその方法2 否定の中に肯定を捉える
	8	「問題児はクラスの宝」/学級における3つの集団類型/「学級集団づくり」の3段階と3側面
	9	「討議づくり」1 合意形成の指導
	10	「討議づくり」2 学級行事原案づくりコンテスト、自主管理の指導
	11	「核(リーダー)づくり」1 リーダーとフォローアの民主的な関係の指導
	12	「核(リーダー)づくり」2 リーダーシップとフォローアップの形成方法
	13	「班づくり」1 居場所と自治の基礎単位としての班
	14	「班づくり」2 班活動の種類と方法
	15	「学級集団づくり」から全校集団づくりへ
16	試験	
		時間外学習の内容 中高学習指導要領特別活動の章精読 学級びらき実践の分析☆ 資料pp. 2-7精読 資料pp. 10-17精読 学校基本調査で不登校生徒数調べ 別冊資料読み物精読 否定の中の肯定発見練習課題☆ 資料pp. 18-24精読 資料pp. 26-29精読 学級行事原案づくり☆ 資料pp. 32-33精読 資料pp. 35-39精読 資料pp. 40-43精読 資料pp. 44-47精読 資料pp. 48-52精読

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：配付するレジュメ集と資料集。 主要参考文献：1. 全国生活指導研究協議会(全生研) 常任委員会編『新版 学級集団づくり入門 中学校』明治図書、1991年。2. 全生研編『生活指導』(隔月誌) 高文研。3. 全国高校生活指導研究協議会(高生研)『高校生活指導』青木書店、季刊誌。4. 文部科学省『中学校学習指導要領』2008年版、2017年版。5. 文部科学省『高等学校学習指導要領』2009年。残余については別途指示する。
----	---

学びの手立て	①「履修の心構え」：抽選となった場合、科目等履修生、4年生、3年生、2年生の順に登録を受け付ける。教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。 ②「学びを深めるために」：学級担任の役割とは何か、朝の会・帰りの会・SHR、学級会・LHR、生徒会活動及び学校行事でどんなことをしたか、また教師となったとき何をすればよいのか、生徒に何を語り、生徒と何をしたいのかを考えながら受講するとよい。毎回の講義を受講し理解することは当然であるが、講義時間内だけでは到達目標を達成するには至らないため、指定された時間外学習は必ず行うこと。また、別途指示した参考文献にて補ったり深めたりすること。
--------	--

評価	小レポートを3回程課し、出欠点検をしない場合その3分の2以上の提出を持って期末試験受験資格とする。評価方法と配分は、期末試験70%、期末課題20%、小レポート10%とする。期末試験では「到達目標」に掲げた知識・理解、思考力・判断力及び関心・意欲・態度をなるべく網羅的に評価する。論述問題とする場合、各設問に関わる講義内容(専門用語や重要事項)の出現率に対応して配点する。期末課題は「学級集団づくり」の構造表の書写を予定している。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育実習に行く年(3年生2月)の「特別活動演習」(集中講義)を受講する際、本講義と関連させると演習の理解が促進される。特別活動の内容には進路指導や教育相談も含むため「進路指導・生活指導」「学校カウンセリング」と関係する。また子どもの自立をめぐる問題状況については「教育心理学」と関係する。
-------	---

科目基本情報	科目名 特別活動研究	期別	曜日・時限	単位
	担当者 三村 和則	前期	木6	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	研究室番号：5505 E-mail：mimura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 特別活動の内容である学級活動と生徒会活動と学校行事を指導する際、その基礎となり要となるのは学級経営である。本講義では学級経営の一助として「学級集団づくり」の方法論を解説する。「学級集団づくり」とは、子どもの必要と要求に基づき自治的・自主的な学級活動をすすめる学級を民主的集団に形成し、子どもを民主的な権利主体・自治主体に高め、同時に人間的自立を励ます営みである。	メッセージ 「学級集団づくり」理解には、今日の子どもの自立をめぐる問題状況を理解しておくことや子どもの否定的な言動の中に肯定を捉える子ども観を身につけておく必要があります。これらのことも講義では学びます。「学級集団づくり」は「班・核・討議づくり」とも言われます。話し合いによる合意形成の指導、リーダーシップとフォローアップの指導、班活動の指導方法を学ぶことができます。
	到達目標 自立と依存の関係、自立をめぐる問題状況、共感的要求とその方法ならびに「学級集団づくり」の方法論（指導の見通しとしての3つの発展段階と指導の切り口としての3つの側面）について、その知識・理解を身につける。共感的要求の出発点となる否定的な言動の中に肯定を見つけることや学級行事や学校行事の原案を作る技能を身につける。これらの知識・理解や技能を身につけることで、子どもに対して受容的な態度で接し豊かな人間的交流を行い子どもの抱える課題を理解できる技能を身につけ、子どもとの間に信頼関係を築き学級集団を把握して子どもを民主的な権利主体・自治主体に高める学級経営を行うことへの関心・意欲・態度と自信を持つことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	講義ガイダンス / 特別活動とは何か / 学級びらきについて
	2	子どもの自立をめぐる問題状況1 自立の裏面としての問題行動
	3	子どもの自立をめぐる問題状況2 子どもらしくない子どもの増加
	4	子どもの自立をめぐる問題状況3 校内暴力・いじめ
	5	子どもの自立をめぐる問題状況4 不登校、体罰
	6	共感的要求とその方法1 共感的要求とは何か
	7	共感的要求とその方法2 否定の中に肯定を捉える
	8	「問題児はクラスの宝」/学級における3つの集団類型/「学級集団づくり」の3段階と3側面
	9	「討議づくり」1 合意形成の指導
	10	「討議づくり」2 学級行事原案づくりコンテスト、自主管理の指導
	11	「核(リーダー)づくり」1 リーダーとフォローアの民主的な関係の指導
	12	「核(リーダー)づくり」2 リーダーシップとフォローアップの形成方法
	13	「班づくり」1 居場所と自治の基礎単位としての班
	14	「班づくり」2 班活動の種類と方法
	15	「学級集団づくり」から全校集団づくりへ
16	試験	
		時間外学習の内容 中高学習指導要領特別活動の章精読 学級びらき実践の分析☆ 資料pp. 2-7精読 資料pp. 10-17精読 学校基本調査で不登校生徒数調べ 別冊資料読み物精読 否定の中の肯定発見練習課題☆ 資料pp. 18-24精読 資料pp. 26-29精読 学級行事原案づくり☆ 資料pp. 32-33精読 資料pp. 35-39精読 資料pp. 40-43精読 資料pp. 44-47精読 資料pp. 48-52精読

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：配付するレジュメ集と資料集。 主要参考文献：1. 全国生活指導研究協議会(全生研) 常任委員会編『新版 学級集団づくり入門 中学校』明治図書、1991年。2. 全生研編『生活指導』(隔月誌) 高文研。3. 全国高校生活指導研究協議会(高生研)『高校生活指導』青木書店、季刊誌。4. 文部科学省『中学校学習指導要領』2008年版、2017年版。5. 文部科学省『高等学校学習指導要領』2009年。残余については別途指示する。
----	---

学びの手立て	①「履修の心構え」：抽選となった場合、科目等履修生、4年生、3年生、2年生の順に登録を受け付ける。教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。 ②「学びを深めるために」：学級担任の役割とは何か、朝の会・帰りの会・SHR、学級会・LHR、生徒会活動及び学校行事でどんなことをしたか、また教師となったとき何をすればよいのか、生徒に何を語り、生徒と何をしたいのかを考えながら受講するとよい。毎回の講義を受講し理解することは当然であるが、講義時間内だけでは到達目標を達成するには至らないため、指定された時間外学習は必ず行うこと。また、別途指示した参考文献にて補ったり深めたりすること。
--------	--

評価	小レポートを3回程課し、出欠点検をしない場合その3分の2以上の提出を持って期末試験受験資格とする。評価方法と配分は、期末試験70%、期末課題20%、小レポート10%とする。期末試験では「到達目標」に掲げた知識・理解、思考力・判断力及び関心・意欲・態度をなるべく網羅的に評価する。論述問題とする場合、各設問に関わる講義内容(専門用語や重要事項)の出現率に対応して配点する。期末課題は「学級集団づくり」の構造表の書写を予定している。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育実習に行く年(3年生2月)の「特別活動演習」(集中講義)を受講する際、本講義と関連させると演習の理解が促進される。特別活動の内容には進路指導や教育相談も含むため「進路指導・生活指導」「学校カウンセリング」と関係する。また子どもの自立をめぐる問題状況については「教育心理学」と関係する。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	道徳教育の研究	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上地 完治	2年	kanji@edu.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>中学校の学級担任になれば、道徳の授業を毎週1時間、年間35時間おこなわなければなりません。また、高校での道徳授業の導入も県外では始まっています。しかし、学校の先生の多くが道徳授業を苦手に思っているのが現状です。本講義では、道徳授業を「学習」の場と捉え、子どもたちに豊かな学びを提供できる教師になるために必要なことを、哲学的・歴史的・実践的側面から追究します。</p>	<p>道徳とは、誰もが従うべき普遍的なものなのでしょうか。それとも価値の多様化を反映した相対的なものなのでしょうか。また、道徳とは「心」の問題や「行動のコントロール」の問題なのでしょうか。そして、それを学校で教えるとはどういうことなのでしょうか。本講義では、基礎知識を理解することに加えて、受講生一人ひとりが自分の頭で論理的・多角的・批判的に考えることを求めます。</p>
到達目標	<p>1. 道徳教育に関する多様な見方・考え方を知り、自分なりに考えることができる。 2. わが国における道徳教育の歴史を理解することができる。 3. 学習指導要領における道徳教育の規定を理解することができる。 4. 道徳授業の主要な方法論について、その特徴と問題点を理解し、よりよい授業を創出するために必要な視点を習得。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション—道徳教育とは何か—	
	2	わが国における道徳教育の歴史（1）	第2～3週：レポート作成
	3	わが国における道徳教育の歴史（2）	「わが国の道徳教育の歴史」
	4	学習指導要領（1）	学習指導要領の復習
	5	学習指導要領（2）	学習指導要領解説の予習
	6	道徳授業の方法論（1）—指導案の検討—	第6～11週：授業の復習
	7	道徳授業の方法論（2）—インカルケーションの特徴と問題点—	「学習指導案の検討」と
	8	道徳授業の方法論（3）—モラルジレンマ授業—	「基本的な考え方」の確認
	9	道徳授業の方法論（4）—モラルジレンマ授業の基本的な考え方—	
	10	「考えること」と「話し合うこと」を中核とした道徳授業（1）	
	11	「考えること」と「話し合うこと」を中核とした道徳授業（2）	
	12	道徳的価値の探究（1）	第12～15週：授業の復習
	13	道徳的価値の探究（2）	「自分の考えをまとめる」
	14	道徳教育の分析枠組み（1）—道徳は変わる？変わらない？—	
15	道徳教育の分析枠組み（2）—自由に考えることと道徳的正しさ—		
16	試験		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編』（※道徳が教科化された平成27年度版。シラバス提出時にはまだ刊行されていない） ○そのほか、必要な資料は適宜配付します。
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業中、真剣に考え、議論に参加する。（これが最も大事です） ○自分の意見をまとめるとき、「なぜそうなのか」という理由をきちんと説明できるように考える。（これも重要なポイントです） ○授業後に、受講生同士で授業について議論することが、良い振り返りとなります。 ○自分の考えを深めるために、教育関係の書物を多く読むだけでなく、新聞やニュース、雑誌などから多様な知的刺激を受けて、自分の意見を持つように心がける。とりわけ、新聞（できれば全国紙）を図書館などで毎日読む習慣をつけることは、よい道徳授業を実践する教師になるためにとても有効です。
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>レポート30%、期末試験70%</p> <p>※学期末試験では、テキスト、ノート、配付資料の持ち込みを認めます。</p>
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	道徳教育の研究	後期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	三村 和則	2年	研究室番号：5505 E-mail：mimura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>学校教育活動の全体（教科、総合的な学習の時間及び特別活動等の各領域）で行われる道徳教育及びそれらを補充・深化・統合していく道徳の時間（2018年度からは「特別の教科 道徳」）で行う道徳教育について、その原理・歴史・指導方法について学修する。中学校の教育実習では道徳の時間（または「特別の教科 道徳」）を担当することが多いため、その直接的な準備にもなる。</p>	<p>明治から今日までのわが国の学校での道徳教育の歴史を振り返るその中で、なぜ沖繩戦に至るような考え方が日本人に形成されたかがわかります。また、道徳の時間（または「特別の教科 道徳」）の指導法として指導案づくりの経験をしてみる点が特徴です。</p>
到達目標	<p>道徳と道徳教育の意味、諸外国の学校での道徳教育方法、近代的学校制度が導入された明治以降今日までのわが国の学校での道徳教育の歴史、特に戦前・戦中期の道徳教育を特徴づけた修身教育体制の生成・展開・消滅の過程と戦後道徳の時間が特設されその延長に道徳科が生まれた経緯についての知識・理解を身につける。また、教育課程の各領域（「教科」「道徳」「総合的な学習の時間」「特別活動」）で行う道徳教育の考え方や方法論についての知識・理解を身につける。特に道徳の時間（及び特別の教科道徳）については題材や授業方法についての知識・理解を身につけるとともに、指導案づくりの技能を身につける。これらを通して学校での道徳教育のあり方を批判的に吟味し同時に道徳教育を創造的に実践する技能や思考力・判断力並びに関心・意欲・態度を身につける。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	「学習指導要領」道徳の章精読
	2	道徳と道徳教育の構造	自分の道徳の樹状構造作成
	3	世界の学校における道徳教育 1 宗教(科)特設の国々と道徳(科)特設の国々	X国の道徳教育調べ
	4	世界の学校における道徳教育 2 宗教(科)と道徳(科)併設の国々、特設時間(教科)無しの国々	Y国の道徳教育調べ
	5	教育勅語と修身教育体制 1 教育勅語発布の経緯	学事奨励被仰出書の書写
	6	教育勅語と修身教育体制 2 教育勅語と修身教育体制の内容	教育勅語の書写と感想☆
	7	修身教育体制への批判と抵抗 1 川井訓導事件、新興教育運動、生活綴方教育	抜粋『ボクラ少国民』精読
	8	修身教育体制への批判と抵抗 2 私学等での実践、奈良の生活修身 / 戦後教育改革	どうやって国民を戦争に・・・感想☆
	9	修身教育体制の解体 / 全面主義道徳体制から特設道徳体制へ	教育基本法前文1条書写と感想☆
	10	特設道徳(「道徳の時間」)以降の道徳教育 / 道徳の教科化(「特別の教科 道徳」)について	日本教育学会の特設道徳見解精読
	11	教科における道徳教育(訓育的教授)	抜粋教育基本法改正関係文書精読
	12	特別活動と総合的な学習の時間における道徳教育	抜粋「特活における道徳教育」精読
	13	特設道徳(道徳の時間、道徳科)の実践方法 1 道徳授業の原則	中学校時の「道徳の時間」調べ☆
	14	特設道徳(道徳の時間、道徳科)の実践方法 2 模索される授業方法	抜粋モラルジレンマ授業精読
15	特設道徳(道徳の時間、道徳科)の授業の指導案づくり	中学時の「道徳の時間」評価調べ	
16	試験		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：配付するレジュメ集と資料集。 主要参考文献：1. 藤田昌士『学校教育と愛国心—戦前・戦後の「愛国心」教育の軌跡』学習の友社、2008年。2. 柴田義松編著『道徳教育—理論と実際』学文社、1992年。3. 大庭茂美他編著『道徳教育の基礎と展望』福村出版、1999年。4. 文部科学省『中学校学習指導要領』2008年、2015年。残余については別途指示する。</p>
-------	--

学びの手立て	<p>①履修の心構え：「教育の思想と原則」と「教育心理学」の単位修得が受講条件である。抽選の場合、科目等履修生、4年生、3年生、2年生の順に受け付ける。教職課程学生に相応しく遅刻・欠席がないよう努めること。</p> <p>②学びを深めるために：道徳とは何か、現代社会ではどんな道徳が望ましいか、中学校の「道徳の時間」で何を学んだか、教育実習で「道徳の時間」（又は「特別の教科 道徳」）をどう授業したらよいか、教科の授業や特別活動の中で道徳性を育てるとはどういうことか、道徳教育はなぜ難しいのか、などの問題意識を持ち受講するとよい。毎回の講義を受講し理解することは当然であるが、講義時間内だけでは到達目標を達成できないため、指定された時間外学習は必ず行うこと。また、別途指示した参考文献にて補ったり深めたりすること。</p>
--------	---

評価	<p>小レポートを3回程課し、出欠点検をしない場合その3分の2以上の提出を持って期末試験受験資格とする。評価方法と配分は、期末試験70%、期末課題20%、小レポート10%とする。期末試験では「到達目標」に掲げた知識・理解、思考力・判断力及び関心・意欲・態度をなるべく網羅的に評価する。論述問題とする場合、各設問に関わる講義内容（専門用語や重要事項）の出現率に対応して配点する。期末課題は道徳授業の実践記録分析に基づく学習指導案作成を予定している。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>教科の授業でも特別活動の中でも道徳教育は行われるため、「教育課程・教育方法」「教科教育法」「同演習」や「特別活動研究」を受講する際、道徳教育と関連づけて受講するとよい。道徳教育のための題材の引き出しは豊かである方がよい。題材は日常生活にあふれている（自分や他者の言動、マスメディア、歌、小説等々）。それらの収集しておくとういだろう。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	道德教育の研究	前期	火6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>道德教育とは何か。それは、ある一つの道德の形を子どもたちに教え込むことではなく、「道德とは何か」を子どもたちとともに考えることではないだろうか。本講義では、道德教育の歴史を整理し、これまで学校教育に求められてきた「道德」なるものの質を確認する。そのことを通じ、学生たちとともに、教職を志す者が道德教育について今後考えていくべき課題を模索したい。</p>	
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 道德教育の歴史（1）—近代教育の幕開け 3 道德教育の歴史（2）—皇民化教育 4 道德教育の歴史（3）—戦後教育改革 5 道德教育の歴史（4）—現代教育と道德教育① 6 道德教育の歴史（5）—現代教育と道德教育② 7 道德教育の歴史（6）—現代教育と道德教育③ 8 道德教育の歴史（7）—現代教育と道德教育④ 9 日の丸・君が代について（1） 10 日の丸・君が代について（2） 11 道德教育の現状と課題（1）—沖縄における道德教育① 12 道德教育の現状と課題（2）—沖縄における道德教育② 13 道德教育の現状と課題（3）—沖縄における道德教育③ 14 道德教育はどうあるべきか（1） 15 道德教育はどうあるべきか（2） <p>定期試験</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。参考文献については授業中に適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>受講態度、小レポートの提出状況およびその内容、期末試験の結果によって総合的に評価する。なお、五回以上欠席した場合は、期末試験の受験を認めない。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	道徳教育の研究	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	道徳教育とは何か。それは、ある一つの道徳の形を子どもたちに教え込むことではなく、「道徳とは何か」を子どもたちとともに考えることではないだろうか。本講義では、道徳教育の歴史を整理し、これまで学校教育に求められてきた「道徳」なるものの質を確認する。そのことを通じ、学生たちとともに、教職を志す者が道徳教育について今後考えていくべき課題を模索したい。	
到達目標		

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1 オリエンテーション 2 道徳教育の歴史（1）—近代教育の幕開け 3 道徳教育の歴史（2）—皇民化教育 4 道徳教育の歴史（3）—戦後教育改革 5 道徳教育の歴史（4）—現代教育と道徳教育① 6 道徳教育の歴史（5）—現代教育と道徳教育② 7 道徳教育の歴史（6）—現代教育と道徳教育③ 8 道徳教育の歴史（7）—現代教育と道徳教育④ 9 日の丸・君が代について（1） 10 日の丸・君が代について（2） 11 道徳教育の現状と課題（1）—沖縄における道徳教育① 12 道徳教育の現状と課題（2）—沖縄における道徳教育② 13 道徳教育の現状と課題（3）—沖縄における道徳教育③ 14 道徳教育はどうあるべきか（1） 15 道徳教育はどうあるべきか（2） 定期試験
	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。参考文献については授業中に適宜紹介する。
	学びの手立て
	評価 受講態度、小レポートの提出状況およびその内容、期末試験の結果によって総合的に評価する。なお、五回以上欠席した場合は、期末試験の受験を認めない。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------